

IBM ThinkPad 770X

ユーザーズ・リファレンス

IBM

IBM ThinkPad 770X
ユーザーズ・リファレンス

注

本書および本書でサポートされている製品をご使用になる前に、xiiページの『安全に正しくお使いいただくために』に記載されている一般情報、および 173ページの付録B、『特記事項』を必ずお読みください。

日本国内で内蔵モデムをご使用になる場合の注意

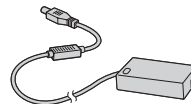
ThinkPad 内蔵モデムを日本国内でご使用になる場合は、必ず日本国モードでご使用ください。他国のモードでご使用になると、電気通信事業法（技術基準）に違反する行為となります。

注）本製品をご購入時は初期値が日本国モードとなっていますので、そのままご使用になれます。

AC アダプターについて

ThinkPad の AC アダプターは、日本国内での使用を前提として、次の規格に適合しています。

- 定格：
 - 入力: AC 100V 50/60Hz
 - 出力: DC 16V
- 型式認可番号：第 91 - 56010 号、第 91 - 56011 号、第 91 - 56012 号、第 91 - 56055 号、第 91 - 56887 号、第 91 - 56271 号

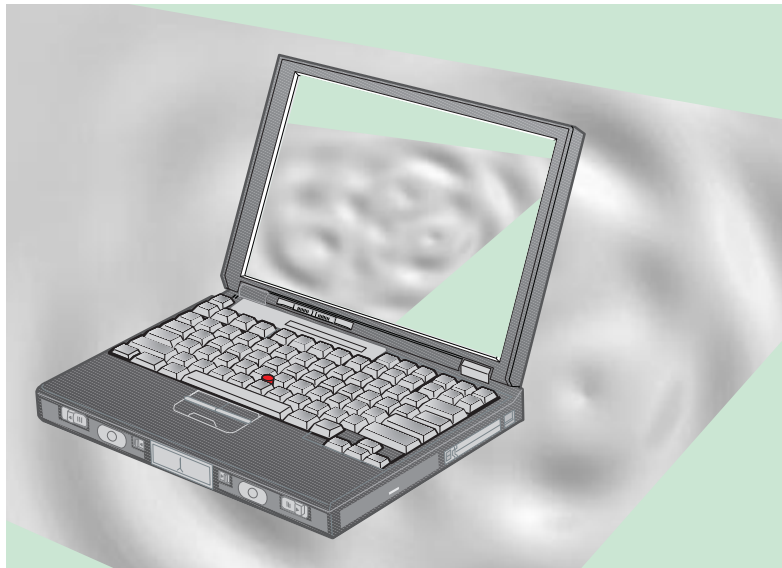


第 1 版 (1998 年 10 月)

原典	27L3407 IBM ThinkPad 770X User's Reference
発行	日本アイ・ピー・エム株式会社
担当	ナショナル・ランゲージ・サポート

このたびは **IBM ThinkPad 770X** を
お買い上げいただき
ありがとうございます

ThinkPad 770X は、
お客様の技術的要件と高い信頼にお応えできるよう
開発されました。



機能の特徴

高度なテクノロジーを集積したコンパクト設計

このパワフルなノートブック・コンピューターには、お客様のコンピューター環境をより豊かで楽しいものにする数々の先進技術と使いやすい機能が装備されています。これらの機能のいくつかを次で紹介いたします。紹介されている機能の詳細とその他の機能については、本書の該当する章を参照してください。

高速プロセッサ

AGP (Accelerated Graphics Port) サポートを備えた Intel® モバイル Pentium II 300 MHz プロセッサの搭載により、高速データ処理が可能になり、パフォーマンスが向上しました。

大容量のハードディスク・ドライブ

オプションでアップグレード可能な大容量の 8.1 GB のハードディスクが、お客様の多様なビジネス・ニーズにお応えします。

大型カラー液晶ディスプレイ (LCD)

大型の 13.7 インチまたは 14.1 インチの TFT (Thin-Film Transistor) ディスプレイは、高解像度 (1280x1024 または 1024x768) を備え、鮮明でクリアな文字とグラフィックスを表示します。

リチウム・イオン・バッテリー・パック

大容量のリチウム・イオン・バッテリー・パックにより、ThinkPad を長時間携帯して使用できます。

DVD ドライブ

新しい薄型の DVD (Digital Versatile Disc) ドライブによって、映画や音楽などの DVD タイトルを再生したり、標準 CD-ROM ディスクの再生もできます (モデルによりオプション)。

3D ステレオ・サウンド搭載のオーディオ機能

ThinkPad にはオーディオ録音および再生機能が内蔵されており、3D ステレオ機能を使用すると、2 つのスピーカーからのサウンドも立体的に再生されます。

DSP (デジタル・シグナル・プロセッサ) を搭載したモデルでは、128 種類の楽器と最高 32 和音の音声をサポートする高品質の MIDI Wave Table シンセサイザーが使用できます。

オーディオ機能の使用方法 → *ステップ・アップ・ガイド*。

ThinkPad モデム

ThinkPad モデムの使用により、電話回線を利用してデータ、FAX、および音声を送受信することができます。このモデムには DSP が使用されており、そのサポート・ソフトウェアをアップグレードすることにより、高い柔軟性を発揮します。

ThinkPad モデムの使用方法 → *ステップ・アップ・ガイド*。

拡張制御付きトラックポイント

ThinkPad には、トラックポイントを押すだけで選択操作のできる拡張トラックポイント機能が付いています。新しく設けられたセンターボタンによって、トラックポイントで、スクロール制御や拡大表示が行えます。

トラックポイントの使用方法 → 10ページの『トラックポイント』。

PC カード・サポート

ThinkPad には 16 ビット PC カード、CardBus カード、および ZV (Zoomed Video) カードを取り付けられる、PC カード用スロットが 2 つ装備されています。

PC カードの取り付け方法 → 74ページの『PC カードの取り付け』。

機能の特徴	iv
本書について	x
安全に正しくお使いいただくために	xii
絵表示について	xii
危険/注意ラベルの表示について	xii
レーザーに関する承諾事項	xv
第1章 ご使用の ThinkPad について	1
各部の機能と名称	2
システム状況インジケータ	8
ThinkPad の機能	10
キーボードの機能	10
ThinkPad ユーティリティ・プログラム	17
ウルトラバイ II	33
ソフトウェアの再設定	34
導入済みアプリケーション CD の使用	34
Product Recovery CD-ROM の使用	34
ディスケット・ファクトリーの使用	34
ConfigSafe の使用	35
最新のソフトウェアの入手方法	35
バッテリー・バックの交換	36
バックアップ・バッテリーの交換	38
サービス体制	40
記録用紙	40
第2章 トラックポイントの設定とオプションの使用	43
トラックポイントの設定	44
メモリーの増設	49
DIMM の取り付け	50
DIMM の取り外し方法	54
ハードディスク・ドライブのアップグレード	56
ディスケット・ドライブの外付け接続	59
マウス、数値キーパッド、および外付けキーボードの接続	61
マウスまたは数値キーパッドの接続	61

外付けキーボードとマウスの接続	63
トラックポイントの使用不可	65
外付けディスプレイの接続	66
マルチモニタ機能の使用	70
PC カードの取り付け	74
PC カードの取り外し	76
拡張ユニットの使用	77
ThinkPad の電源をオフにした時のドッキング (コールド・ドッキング)	78
ThinkPad の電源オン時またはサスペンド・モード時の取り外し (アンドッキング)	81
リソースの競合を避けるためのデバイスの事前設定	83
拡張ユニットの IDE ドライブの使用	84
ウルトラベイ II デバイスの交換	88
ホット・スワップおよびウォーム・スワップの機能	88
デバイスの取り外しおよび交換	91
デバイスの制限	94
第3章 ThinkPad の保護	97
パスワードの使用	98
パスワードの入力	99
パスワードの設定	100
パスワードの変更または消去	102
パーソナライゼーション・エディターの使用	109
パーソナル・データの入力	109
パーソナル・データの削除	112
ロック機能の使用	113
セキュリティーねじの使用	114
第4章 問題が起こったら...	115
ヒントおよび制限事項	117
ハードディスク・ドライブの使用	124
拡張ユニットの使用	125
汎用シリアル・バス (USB) コネクタの使用	125
DVD ドライブの使用	126
PC カードの使用	126
2 枚目の CardBus カードの使用	127
マイクロホンの使用	127

問題判別ガイド	129
問題判別表	130
エラー・コードまたは画面上のメッセージ	132
エラー・コードまたは画面上のメッセージで表示されない問題	139
入力装置の問題	139
サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードの問題	141
液晶ディスプレイ (LCD) の問題	144
インジケータの問題	145
バッテリーの問題	145
ハードディスク・ドライブの問題	146
CD-ROM ドライブの問題	147
DVD ドライブの問題	148
赤外線通信の問題	149
キャプチャー・ドライバーまたは MPEG の問題	151
オーディオまたは電話機能の問題	151
汎用シリアル・バス (USB) の問題	152
PC カードまたは内蔵モデムの問題	153
その他の PC カードの問題	154
拡張ユニットまたはセクタベースの問題	158
プリンターの問題	159
外付けディスプレイの問題	160
TV の問題	163
その他のオプションの問題	163
ソフトウェアの問題	165
その他の問題	166
ThinkPad のテスト	167
付録A. 製品仕様	169
機能	169
仕様	172
付録B. 特記事項	173
西暦 2000 年対応および説明	173
商標	174
特許保護に関する注意	175
索引	177

本書について

本書には、IBM ThinkPad 770X を操作するのに役立つ情報が記載されています。実際に使用する前に、*ThinkPad セットアップ・ガイド*と本書の第 1 章を必ずお読みください。

- 第 1 章 “ご使用の **ThinkPad** について” では、ThinkPad の基本機能を紹介します。
- 第 2 章 “トラックポイントの設定とオプションの使用” では、オプションの取り付け方法およびトラックポイントの使用方法について説明します。
- 第 3 章 “システムの保護” では、パスワードの使用、パーソナライゼーション機能、およびロックの使用について説明します。
- 第 4 章 “問題が起こったら” では、ThinkPad に問題が起こった場合の対処方法について説明します。この章には、問題判別ガイドが含まれています。
- 付録 A “製品仕様” では、ThinkPad に関する機能と仕様について説明します。
- 付録 B “特記事項” には、本書に関する特記事項が記載されています。

また、本書の最後には「索引」が付いています。

本書で使用されているアイコン

次は、ThinkPad で使用する各オペレーティング・システムに固有の手順や説明を表すためのものです。



Microsoft® Windows® 98 に関する情報



IBM Operating System/2® (OS/2) に関する情報



Microsoft® Windows® 95 に関する情報



IBM PC DOS に関する情報



Microsoft® Windows NT® に関する情報





Microsoft® Windows® 3.1 に関する情報

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書には、本製品を安全に正しくご使用いただくための安全表示が記述されています。この取扱説明書を保管して、必要に応じて参照してください。

絵表示について

この取扱説明書および製品への安全表示については、製品を正しくご使用いただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、次の絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

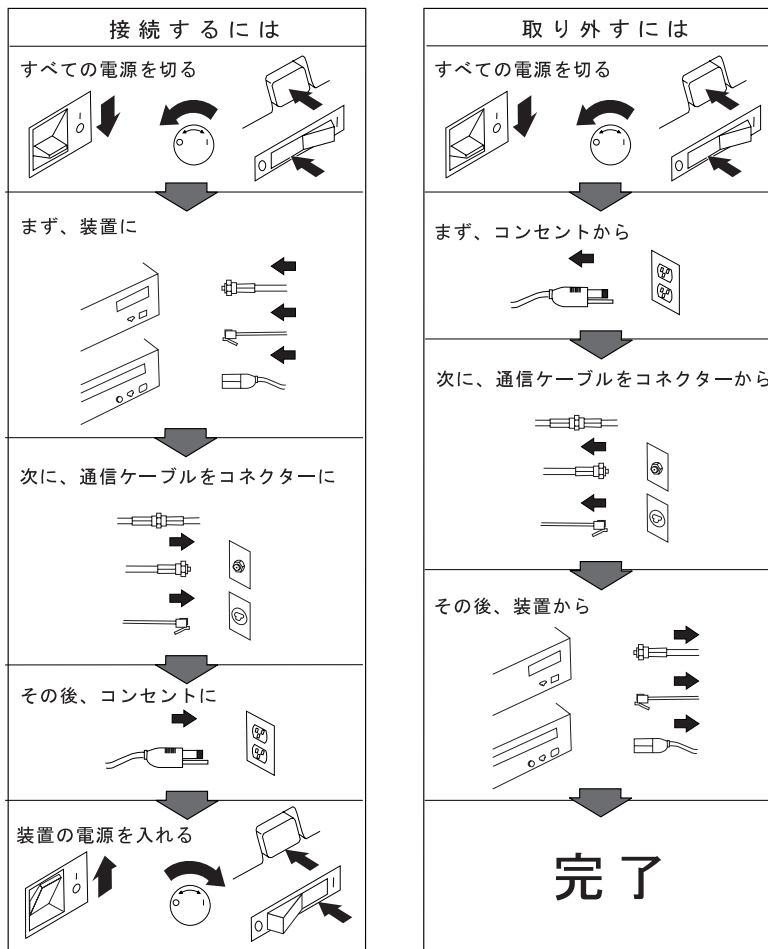
 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性がある危険が存在する内容を示しています。
 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容または物的損害の発生が想定される内容を示しています。

危険/注意ラベルの表示について

この製品の外部または内部に黄色地に黒文字で表示されているラベルがある場合は、安全上に関しての、危険または注意ラベルです。必ず表示の指示に従ってください。この取扱説明書に記述されている内容以外に、危険または注意ラベルによる表示がある場合は (たとえば製品上)、必ずそのラベルの表示による指示に従ってください。

⚠危険

- 電源コードは、正しく設置された電源コンセントに接続してください。
- 電源コードは、電話ケーブル、および通信ケーブルには危険な電流が流れています。感電を防止するために、コンピューターまたは接続装置を設置または移動するとき、またはカバーを開ける際には、下記の手順でケーブルの接続および取り外しを行ってください。



電話ケーブル、通信ケーブルまたはテレビのアンテナ線を接続する製品は、雷の発生時にはケーブルの接続および取り外しをしないでください。

⚠ 危険

充電式バッテリー・パックを分解、焼却、ショートさせないでください。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に液晶ディスプレイを捨てないでください。液晶ディスプレイの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

⚠ 危険

リチウム・バッテリー (**IBM P/N 12J0453 UL- 認定済みコンポーネント—File No. MH12210**) は、**IBM** 代理店または **IBM** 特約店でのみお求めになります。これには、リチウムが含まれており、誤った使用、取り扱い、廃棄が原因で爆発する危険性があります。バッテリーを水に浸したり、**100°C**以上に熱したり、修理や分解をしないでください。バッテリーの廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

⚠ 注意

液晶ディスプレイ (**LCD**) 内の蛍光灯の中には水銀が含まれています。ごみ廃棄場で処分されるごみの中に **LCD** を捨てないでください。**LCD** の廃棄にあたっては、地方自治体の条例または規則に従ってください。

LCD はガラス製なので、**ThinkPad** を乱暴に扱ったり落したりすると壊れることがあります。**LCD** が壊れて内部の液体が目に入ったり、手についたりした場合は、すぐに水で **15** 分以上洗ってください。その後、何らかの症状が現れた場合は、医師の診断を受けてください。

レーザーに関する承諾事項

IBM ThinkPad 770X に搭載されている CD-ROM または DVD ドライブには、レーザーが使用されています。次のようなドライブの分類ラベルがドライブの表面上部に貼ってあります。

CLASS 1 LASER PRODUCT
LASER KLASSE 1
LUOKAN 1 LASERLAITE
APPAREIL A LASER DE CLASSE 1
KLASS 1 LASER APPARAT

このドライブは EN60825 の要件に準拠していると認定されています。

 危険

CD-ROM または **DVD** ドライブを分解しないでください。ドライブの内部にはお客さまによる調節や保守の必要な部品はありません。

本書で指定された内容以外のお客さまによる整備、調整、または手順を行った場合は、レーザーの放射および露出の危険があります。

Class 1 のレーザー製品は危険物と見なされていません。この CD-ROM または DVD-ROM ドライブには、760 ~ 810 ナノメートルの波長で作動する Class 1 の 0.5 ミリワットの aluminum gallium-arsenide レーザーが入っています。このレーザー・システムおよび CD-ROM または DVD ドライブでは、その設計上、通常の操作または保守条件が維持されている限り、Class 1 レベルを超えるレーザー放射は起こらないことを保証しています。

第1章 ご使用の ThinkPad について

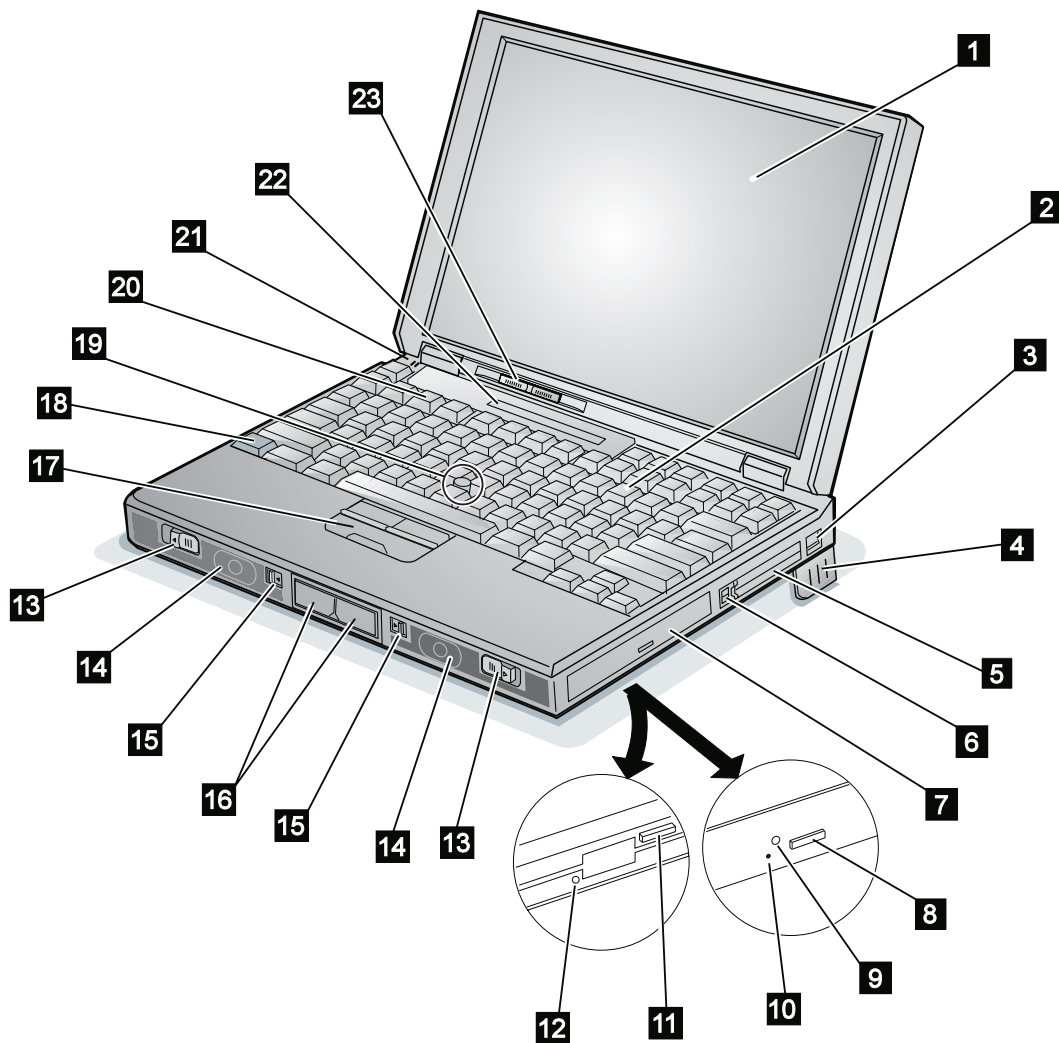
本章では、ThinkPad の基本的な情報について説明します。

ThinkPad の電源をオフにする場合は、電源スイッチを約 1 秒押したままにしてから放しません。再度電源をオンにする場合 (または、サスペンド・モードやハイバネーション・モードから通常の操作状態に戻る場合) は、5 秒以上待ってから行います。

各部の機能と名称	2
システム状況インジケータ	8
ThinkPad の機能	10
キーボードの機能	10
トラックポイント	10
Fn キー機能	13
数値キーパッド	16
ThinkPad ユーティリティー・プログラム	17
Easy-Setup	17
「ThinkPad 機能設定」プログラム	28
ウルトラベイ II	33
ソフトウェアの再設定	34
導入済みアプリケーション CD の使用	34
Product Recovery CD-ROM の使用	34
ディスクレット・ファクトリーの使用	34
ConfigSafe の使用	35
最新のソフトウェアの入手方法	35
バッテリー・パックの交換	36
バックアップ・バッテリーの交換	38
サービス体制	40
記録用紙	40

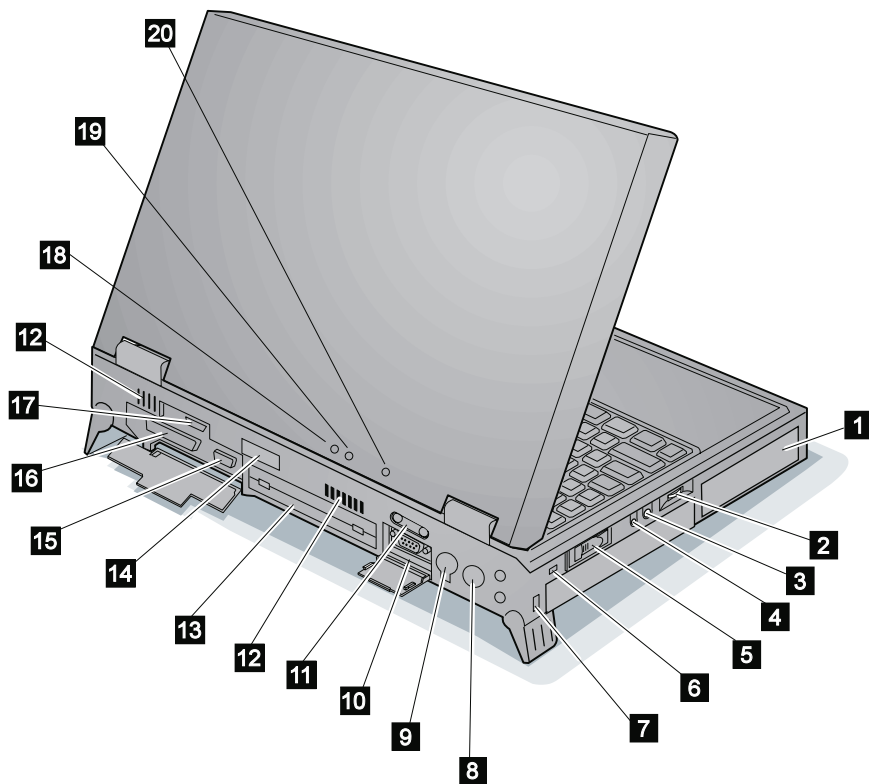
各部の機能と名称

正面図



- 1 液晶ディスプレイ (LCD)。文字およびグラフィックスを表示します。
- 2 数値キーパッド。NumLk (ナム・ロック) モードで数字を入力する場合に使用します。
- 3 内蔵モデム・ポート (モジュラー・ジャックとも呼ばれます)。ThinkPad を電話回線に接続する場合に使用します。
- 4 脚。キーボード入力しやすいように、起こしてキーボードに角度を付けることができます。
- 5 PC カード・スロット。PC カード、CardBus カード、または ZV (Zoomed Video) カードを取り付けることができます。PC カード・イジェクト・ボタン
- 6 を使用して、PC カードをスロットから取り出します。
- 7 ウルトラベイ II。CD-ROM ドライブ、ディスクレット・ドライブ、DVD ドライブ、セカンド・ハードディスク・ドライブ、およびセカンド・バッテリー・パックなど、各種の装置を着脱することができます。
- 8 イジェクト・ボタン。CD-ROM または DVD ドライブからトレイを取り出す場合に使用します。
- 9 ドライブ使用中インジケーター。CD-ROM または DVD ドライブに入っている CD-ROM または DVD ディスクからデータを読み取っているとき点灯します。このインジケーターが点灯しているときは、サスペンド・モードに入ったり、ディスクを取り出したりしないでください。
- 10 非常用取り出し用穴。イジェクト・ボタン 8 を押しでも CD-ROM または DVD トレイが出てこない場合に、ピンなどを穴に差し、トレイを引き出します。
- 11 ディスケット・イジェクト・ボタン。ディスクレット・ドライブからディスクレットを取り出します。
- 12 ディスケット・ドライブ使用中インジケーター。ディスクレットに対してデータの読み書きを行っているとき点灯します。このインジケーターが点灯しているときは、サスペンド・モードにしたり、ディスクレットを取り出したりしないでください。
- 13 カバー・リリース・ラッチ。左右にあり、外側にスライドさせて、LCD を開きます。
- 14 内蔵スピーカー。左右にあり、ステレオ・サウンドを再生します。
- 15 リリース・ラッチ。左右にあり、バッテリー・ベイまたはウルトラベイ II に入っている装置を取り出す際に左右のベイ排出レバー 16 を開くために使用します。右のリリース・ラッチには、ウルトラベイ II から装置を安全に取り出せるように装置の状態を示すベイル LED が付いています。
- 17 左クリック・ボタン、右クリック・ボタン、およびセンターボタン。画面上の項目の選択、ダブルクリック、およびショートカットメニューの表示を行う場合に使用します。マウスのクリック・ボタンと同様の動きをします。センターボタン (他の 2 つのボタンの下にあります) は、拡張トラックポイント機能を使用する場合に使用します。
- 18 **[Fn]** キー。ファンクション・キー (**[F1]** ~ **[F12]**) と共に押して、さまざまな機能を使用します。
- 19 トラックポイント。マウスと同様の動きをする組み込み式ポインティング・デバイスです。マウスにはない拡張機能も備えています。
- 20 ファンクション・キー。Fn キー 18 と組み合わせると ThinkPad 機能 (ブルー・グレーのアイコンで示されています) を使用します。
- 21 内蔵マイクロホン。音声の録音および電話に使用します。
- 22 インジケーター・パネル。ThinkPad およびバッテリーの現在の状態をインジケーターや数値の情報で表示します。
- 23 輝度調節つまみ。画面の輝度を調節します。

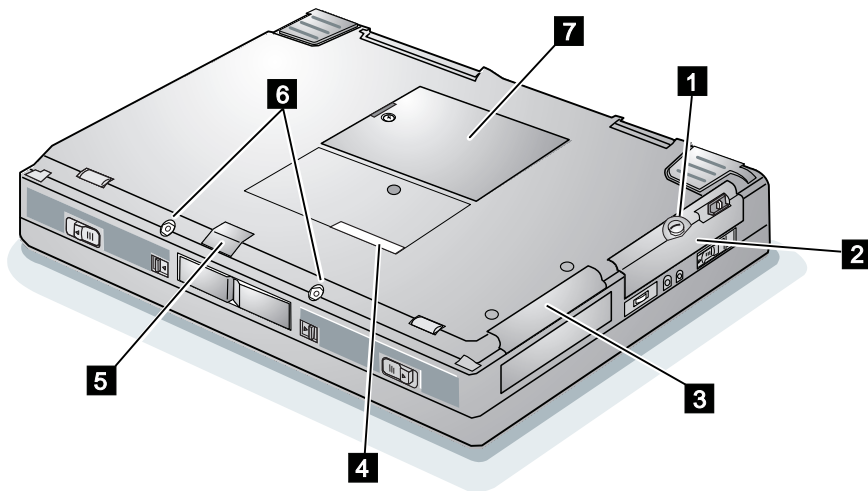
背面図



- 1 バッテリー・パック。ThinkPad 用の内蔵電池です。AC 電源が使用できない場合に、使用します。
- 2 音量調節つまみ。内蔵スピーカーの音量を調節します。
- 3 マイクホン/ライン入力ジャック。ステレオ・マイクホンまたは外付けオーディオ機器を接続します。(3.5 mm (1/8 インチ) ステレオ・ミニジャック)
- 4 ヘッドホン・ジャック。ステレオ・ヘッドホンまたは外付けスピーカーを接続します。(3.5 mm (1/8 インチ) ステレオ・ミニジャック)
- 5 電源スイッチ。ThinkPad の電源をオンまたはオフにします。
- 6 電源遮断スイッチ。緊急時にシステムをリセットします。
- 7 セキュリティー・キーホール。セキュリティー・ロックと一緒に使用します。(113ページの『ロック機能の使用』を参照してください。)
- 8 電源ジャック。AC アダプター・ケーブルを接続します。
- 9 外付け入力装置コネクタ。マウス、外付けキーボード、または数値キーボードを外付けで接続することができます。
- 10 シリアル・コネクタ (9 ピン)。シリアル・デバイス用のケーブルを接続します。
- 11 汎用シリアル・バス (USB) コネクタ。USB インターフェースに対応するデバイスをここに接続できます。
- 12 放熱孔。ThinkPad 内部の空気を循環させます。この前には物を置かないようにしてください。
- 13 システム拡張コネクタ (240 ピン)。IBM ThinkPad セレクタベース 770 (ポート・リプリケータ機能) を接続することができます。
- 14 背面赤外線ポート。赤外線データ転送機能をもつ他のデバイスと通信できます。
- 15 外付けディスプレイ・コネクタ (15 ピン)。外付けディスプレイ (CRT) を接続します。
- 16 パラレル・コネクタ (25 ピン)。通常、パラレル・プリンター用の信号ケーブルを接続します。
- 17 外付けディスク・ドライブ・コネクタ。外付けディスク・ドライブを接続します。
- 18 電源オン・インジケータ。ThinkPad がサスペンド・モードであるかどうかに関係なく、電源がオンであることを示します。
- 19 サスペンド・インジケータ。ThinkPad がサスペンド・モードであることを示します。
 - 緑: ThinkPad はサスペンド・モードです。
 - 緑点滅: ThinkPad はモード切り替え中です。
- 20 充電インジケータ。バッテリーの充電状態を示します。
 - 緑: 動作に十分なバッテリー残量があります。
 - オレンジ: バッテリー・パックの充電中です。
 - オレンジ点滅: バッテリー・パックを充電する必要があります。

ThinkPad 機能設定 プログラムでアラームを設定している場合は、このインジケータが点滅し始めると、ビーブ音が 3 回鳴ります。

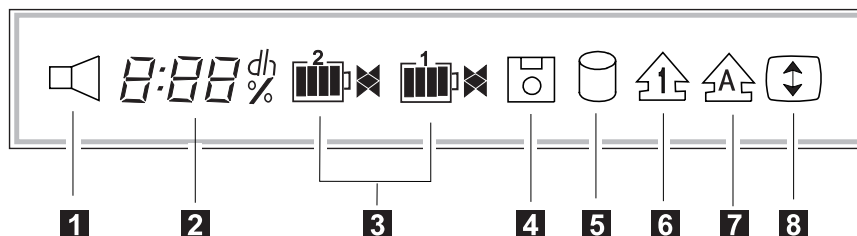
底面図



- 1** マイナスねじ。簡単にハードディスク・ベイ内のハードディスクを取り出すことができないように、ThinkPad に付属のセキュリティねじに交換することができます。
- 2** ハードディスク・ベイ。着脱可能なハードディスク・ドライブを収納します。
- 3** アダプター・ベイ。ThinkPad のオプション機能である *DVD 拡張ビデオ・アダプター* (オプション) を取り付けるためのスロットです。
- 4** 製造番号ラベル。ThinkPad を識別します。サービスを受ける場合は、この番号を知らせる必要があります。
- 5** 前面赤外線ポート。赤外線データ転送機能をもつ他のデバイスと通信できます。
- 6** セキュリティーねじ穴。持ち主以外の人が左右のリリース・ラッチ を操作したり、バッテリー・ベイおよびウルトラベイ II を簡単に開けることができないように六角頭ねじを取り付けることができます。
- 7** メモリー・スロット・カバー。内部に底面収納部があり、DIMM メモリー・スロットおよびバックアップ用バッテリー・スロットが収納されています。メモリー・スロットに DIMM メモリー・カードを最大 2 枚まで差し込んで、システム・メモリーをアップグレードすることができます。バッテリー・スロットのバックアップ用バッテリーは、ThinkPad のメモリーに ThinkPad の情報を保持したり、内蔵時計を動作させたりするために使用します。

システム状況インジケータ



インジケータ・パネルにさまざまなインジケータが表示されます。これらのインジケータによって ThinkPad の現在の状況が示されます。したがって、インジケータが表す意味を理解しておけば、さらに効率よく ThinkPad を使用することができます。





1 スピーカー・インジケータ。スピーカーでピープ音が鳴ると、表示されます。任意のキーを押すと、表示が消えます。

2 バッテリー残量インジケータ。バッテリー電源の残量をパーセント値 (%)、日数 (d)、時間数 (h) と時間と分数 (hh:mm) で示します。

セカンド・バッテリーが使用されている場合は、メイン・バッテリーとセカンド・バッテリーを合わせた平均の割り合いを示します。

3 バッテリー状態インジケータ。メイン・バッテリー・パック 1 (バッテリー・ベイ内) およびセカンド・バッテリー・パック 2 (ウルトラベイ II 内) の状態を、空  からフル充電  まで、5 段階で示します。

それぞれの右側にあるインジケータは、バッテリー充電状況を示します。充電中は  が表示され、放電中は  が表示されます。表示がない場合は、バッテリーが装着されていないことを示します。

4 ディスケット・ドライブ使用中インジケータ。ディスクに対してデータの読み書きを行っているとき表示されます。

このインジケータが点灯になっているときは、サスペンド・モードに入ったり、ディスクを取り出したりしないでください。

- 5** ハードディスク使用中インジケーター。ハードディスクに対してデータの読み書きを行っているとき表示されます。
- このインジケーターが点灯しているときは、サスペンド・モードに入ったり、ThinkPad の電源をオフにしたりしないでください。*
- 6** ナム・ロック・インジケーター。数値キーボード機能が使用可能になっていることを示します。**Shift** キーを押しながら、**NumLk** キーを押すと、この機能を使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。
- 7** キャップス・ロック・インジケーター。Caps Lock (キャップス・ロック) モードが使用可能になっていることを示します。このモードでは **Shift** キーを使用しなくても、アルファベット (A ~ Z) をすべて大文字で入力できます。**Shift** を押しながら **Caps Lock** キーを使用して、このモードを使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。
- 8** スクロール・ロック・インジケーター。スクロール・ロック機能が使用可能になっていることを示します。この機能が使用可能になっている場合は、矢印キーを使用して画面をスクロールすることができます。ただし、この機能が使用可能になっている場合、矢印キーを使用してマウス・ポインターを移動することはできません。**ScrLk** キーを使用して、この機能を使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。すべてのアプリケーション・プログラムがこの機能をサポートしているとは限りません。

ThinkPad の機能

ここでは次の機能について説明します。

- キーボードの機能
- ThinkPad ユーティリティー・プログラム
- ウルトラベイ II

キーボードの機能

ThinkPad のキーボードには、次の機能が付いています。

- トラックポイント
- **Fn** キー
- 数値キーパッド

トラックポイント

キーボードには、トラックポイントという特殊なポインティング・デバイスが組み込まれています。これを使うと、ポインティング、選択、ドラッグなどの操作を、通常のタイプ位置から指を離さずに一連の手順の中で行うことができます。

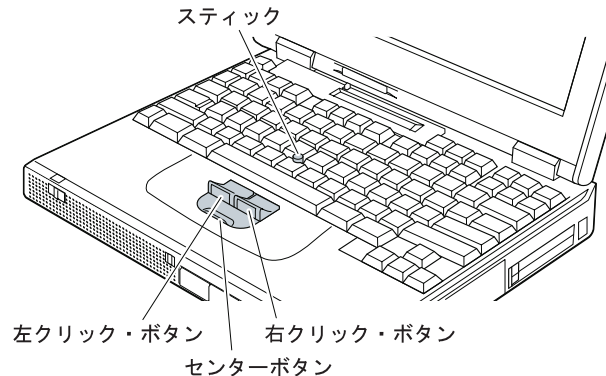


トラックポイントをカスタマイズすることによって、次の機能をカスタマイズできます。

- プレス・セレクト
- 感度
- スクロールまたは拡大表示

詳細情報 ➡ 44ページの『トラックポイントの設定』

トラックポイントは、キーボード上のスティックとキーボード手前の 3 つのクリック・ボタンとで構成されています。画面上のマウス・ポインターの動きは、スティックの先についてるキャップを押す指の圧力の強さによってコントロールできます。圧力は、キーボード面に対して平行に前後左右に加えます。スティック自体は *動きません*。マウス・ポインターの移動速度は、スティックに加えられる圧力の強さによって決まります。左および右クリック・ボタンの機能は、通常のマウスの左および右ボタンの機能に対応し、使用するソフトウェアによって異なります。センターボタンの機能については、47 ページで説明します。



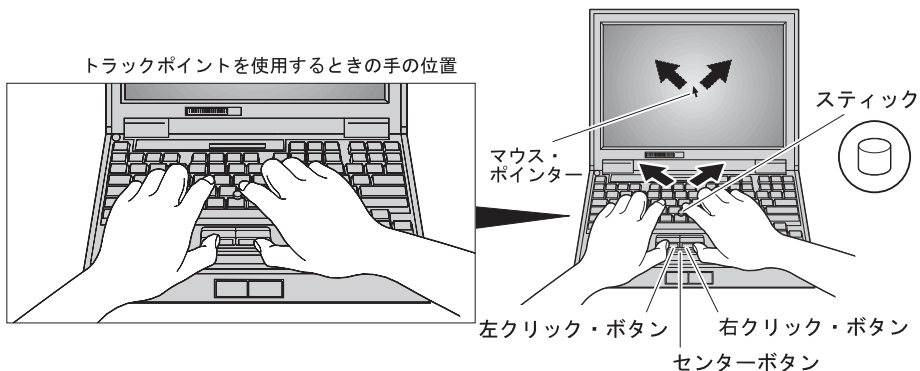
トラックポイントをはじめてお使いになる場合は、まず最初に次の説明をお読みください。

- 1 両手をタイプ位置に置き、マウス・ポインターを移動させたい方向に、人差し指でスティックをゆっくりと押します。

スティックを LCD 方向に押すと、マウス・ポインターが画面の上方向に移動します。スティックを手前に押すと、マウス・ポインターが画面の下方向に移動します。また、スティックを左右の方向に押すと、マウス・ポインターが左右の方向に移動します。



マウス・ポインターがドリフト (浮動) する場合があります。これは、故障ではありません。ただし、トラックポイントを使用するのは、マウス・ポインターの動きが止まってからにします。



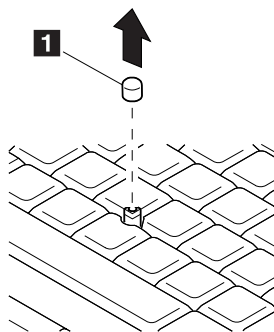
2 使用しているソフトウェアの指示に応じて、両手の親指で左右のクリック・ボタンを押して、選択およびドラッグ操作を行います。

プレス・セレクトを使用可能にすると、トラックポイントのスティックを、左クリック・ボタンまたは右クリック・ボタンと同じように機能させることができます。詳細情報 → 44ページの『トラックポイントの設定』



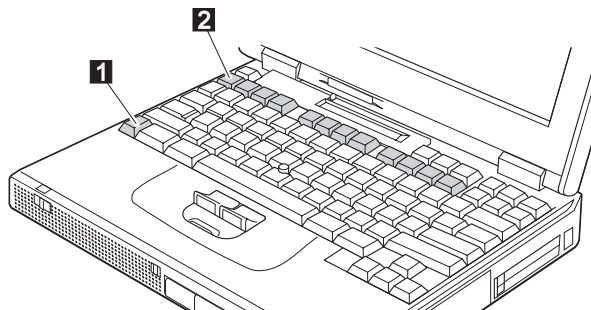
キャップの交換

トラックポイントのスティックの先に付いているキャップ **1** は着脱式です。必要に応じて、付属の予備キャップと交換できます。また、付属品を使い切ってしまった場合は、オプションでもご購入いただけます。



Fn キー機能


Fnキー機能は、特定の操作を瞬時に実行する便利な機能です。次の表で示す機能を使用する場合は、**Fn** キー **1** を押しながらか、対応するファンクション・キー (**F1** ~ **F12**) **2** を押します。



Fn キー・ロック機能

Fn キーを 1 回押すだけで **Fn** キーを押し続けたときと同じ状態になるように、ThinkPad を設定できます。










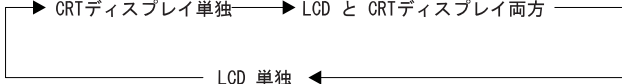
「ThinkPad 機能設定」構成プログラムを始動し(→ 28ページの

『「ThinkPad 機能設定」プログラム』)「ユーザー補助」() アイコンをクリックしてから、「Fn キー・ロック」に対して「使用可能にする」をクリックします。また、コマンド・プロンプトで PS2 FNS E と入力しても同じように設定できます。

Fn キー・ロック機能を使用可能にした後で、**Fn** キーを 1 回だけ押してから、どれかファンクション・キーを押してください。ThinkPad は、**Fn** キー + ファンクション・キーが押されたときと同じように作動します。

ロック機能を使用可能にした後で **Fn** キーを 2 回押すと、ファンクション・キーを単独で押しても、**Fn** + そのファンクション・キーを一緒に押したものと認識されます。これを止めるには、もう一度 **Fn** キーを押す必要があります。

次の表で、**Fn** キーと組み合わせが可能なキーの機能を示します。

機能とアイコン	キーの組み合わせ	意味
省電力機能		
バッテリー・メーター・プログラム表示のオンおよびオフ 	 (OS/2 または Windows のユーザーのみ)	このキーの組み合わせを使用すると、バッテリーの残量を示すウィンドウが表示されます (または消えます)。 バッテリー残量のパラメーターを設定できます。 注: このキーの組み合わせを使用するには、事前にバッテリー・メーター・プログラムを始動しておく必要があります。 バッテリー・メーター・プログラムを始動する手順は、次のとおりです。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを、「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、「バッテリー・メーター」をクリックします。
パワー・モードの切り替え 		パワー・モードが次のように変化します。 
バッテリー使用時の省電力機能		
スタンバイ・モード 		ThinkPad はスタンバイ・モードになります。このモードに関する詳細 → ステップ・アップ・ガイド 。
サスペンド・モード 		ThinkPad はサスペンド・モードになります。このモードに関する詳細 → ステップ・アップ・ガイド 。
ハイバネーション・モード 		ThinkPad はハイバネーション・モードになります。このモードに関する詳細 → ステップ・アップ・ガイド 。
その他の機能		
LCD と外付けディスプレイの切り替え 		外付けディスプレイ (CRT) が接続されている場合は、ThinkPad の出力は次の順序で表示されます。 

機能とアイコン	キーの組み合わせ	意味
スクリーン・エクspansion	 + 	LCD に表示しようとするイメージのサイズが、搭載されている LCD のサイズよりも小さい場合に、LCD の表示サイズが拡大モードと通常モードとで切り替わります。

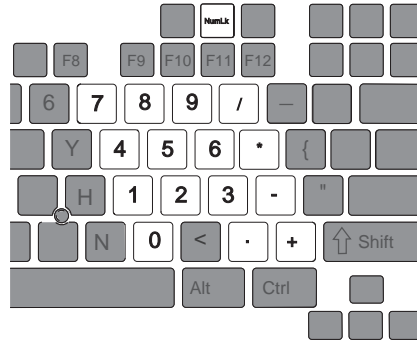


- 13.7 インチ SXGA ディスプレイが装備されている ThinkPad の場合は、MS-DOS 全画面モードや Windows 98 または Windows 95 のセーフ・モード画面など、標準 VGA モードの出力は、拡大モードで表示されます。この場合は、LCD 画面のイメージ・サイズを切り替えることはできません。
- ThinkPad で次のいずれかを実行しているときは、画面を拡大モードや MS-DOS 全画面モードに切り替えないようにしてください。
 - オーディオの再生中または録音中
 - 動画の再生中
 - ゲームのプレイ中
 - その他のマルチメディア・アプリケーションの実行中
- ThinkPad がサスペンド・モードのときに、ファンクション・キーを押さずに、**Fn** キーだけを単独で押すと、ThinkPad は通常の操作状態に戻ります。

数値キーパッド

ThinkPadのキーボードの一部は、数値キーパッドのテン・キーのように使用することができます(ただし、外付けキーボードまたは数値キーパッドが接続されているときは、キーボード上のこの数値キーパッド機能は使用できません)。

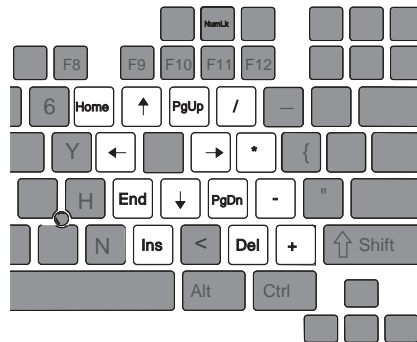
数値キーパッドとして使用するには、**Shift** キーを押しながら **NumLk** キーを押して、ナム・ロック機能をオンにしてください。



この状態で、数値キーパッドとして使用しているときに、**Shift** キーを押しながら数値キーパッドの各キーを押すと、一時的にマウス・ポインター制御キーや画面制御キーとして使用することができます。



マウス・ポインター制御キーおよび画面制御キーの機能は、キーには印刷されていません。



ThinkPad ユーティリティ・プログラム

ThinkPad には、次のユーティリティが用意されており、簡単に構成できるようになっています。

- Easy-Setup
- 「ThinkPad 機能設定」プログラム

ここでは、これらのユーティリティ・プログラムの概要について説明します。

Easy-Setup

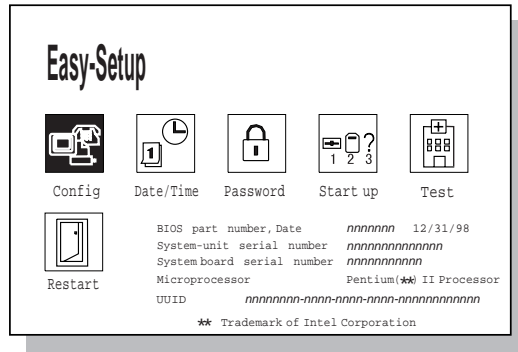
ThinkPad には、各種のセットアップ・パラメーターを選択するための *Easy-Setup* と呼ばれるプログラムが内蔵されています。

- 「**Config**」：ご使用の ThinkPad の構成を設定します。
- 「**Date/Time**」：日付と時刻を設定します。
- 「**Password**」：パスワードを設定します。
- 「**Start up**」：始動デバイスの優先順位を設定します。
- 「**Test**」：システムをテストします。
- 「**Restart**」：システムを再始動します。

Easy-Setup を始動する手順は、次のとおりです。

- 1** ThinkPad の電源をオフにし、ディスク・ドライブにディスクが入っている場合はそれを取り出します。
- 2** **F1** キーを押しながら、ThinkPad の電源をオンにします。「Easy-Setup」メニューが表示されるまで、**F1** キーを押し続けます。

パスワードが設定してある場合は、「Easy-Setup」メニューが表示されるのは、パスワードを入力してからになります。



3 トラックポイントを使って選択したいアイコンをクリックするか、矢印キーを使って選択したいアイコンを反転させ **Enter** キーを押します。

サブメニューが表示されます。

4 変更したい項目を変更します。

5 サブメニューを終了するには、「Exit」または「OK」をクリックするか **Esc** キーを押します。

6 「Easy-Setup」メニューを終了するには、「Restart」アイコンをクリックするか、「Restart」アイコンを反転させて **Enter** キーを押します。

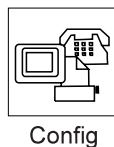
ThinkPad が再起動します。



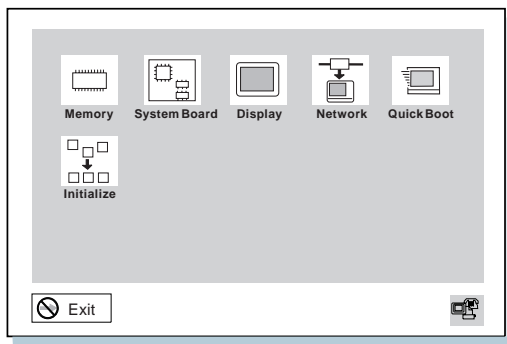
画面の配色の変更

「Easy-Setup」メニュー画面の配色を変更するには、**Ctrl** + **Pgup** キーまたは **Ctrl** + **PgDn** キーの組み合わせを使用します。

元の配色に戻すには、**Ctrl** + **Home** キーを押してください。



「**Config**」アイコンをクリックすると、次のような「Config」サブメニューが表示されます。



「**Memory**」アイコンによって、取り付けられているメモリーのサイズと使用できるメモリー容量が表示されます。



「**System Board**」アイコンによって、取り付けられているシステム・ボードについての情報が表示されます。



「**Display**」アイコンによって、画面の出力先を「**Single**」(1つのディスプレイ)にするか、「**Multiple**」(複数のディスプレイ)にするかを設定します。



「**Network**」アイコンを使用すると、Wake-on-LAN 機能 (オプション) または Flash-over-LAN 機能 (オプション) を使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。これらの機能が使用できるのは、拡張ユニットを接続している場合だけです。



「**Quick Boot**」アイコンによって、シンプル・ブート・フラグ機能を 使用可能または使用不可にします。



シンプル・ブート・フラグ機能

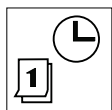
この機能では、BIOS およびオペレーティング・システムの動作とブート・パフォーマンスを、インストールされているオペレーティング・システムと以前のブートに基づいて自動的に最適化します。

この機能が使用可能になっている場合は、プラグ・アンド・プレイ対応可能なオペレーティング・システム (たとえば、Windows 98 など) がインストールされると、システム割り込み、メモリー・ウィンドウ、およびシステム内のすべての装置に関する入出力ポート範囲などといった、ハードウェア・リソースをシステム BIOS が構成することはありません。

プラグ・アンド・プレイ対応でないオペレーティング・システムを使用する場合は、この機能を使用不可にして、**BIOS** がハードウェア・リソースを構成するようにします。

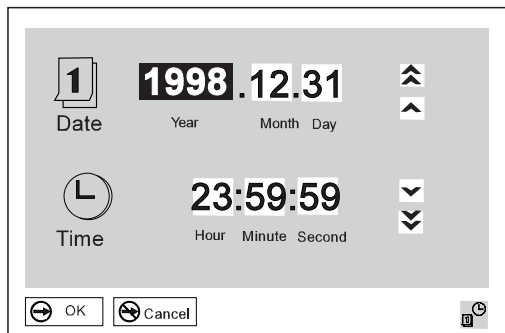


「**Initialize**」アイコンによって、デバイスの設定をすべて初期値に戻します。



Date/Time

「**Date/Time**」アイコンをクリックすると、次のような「Date and Time」サブメニューが表示されます。これは、現在の日付と時刻を設定するときに使用します。



日付と時刻を変更する手順は、次のとおりです。

- 1 カーソルを変更したいフィールド (年、月、日、時、分または秒) に移動し、日付や時刻を入力します。



入力する代わりに、マウス・ポインターを矢印アイコン(▲、▲、▼、または ▼)のどれかに合わせて日付や時刻を調節することもできます。
二重矢印アイコンをクリックすると、数字をさらに速くスクロールできます。

- 2 変更内容を保管するには「OK」をクリックし、それらを取り消す場合は「Cancel」をクリックします。



現在の日付と時刻の設定は、ThinkPad にインストールされているオペレーティング・システムの機能を使用して行うこともできます。



Password

「Password」アイコンをクリックすると、次のような「Password」サブメニューが表示されるので、これを使用してパスワードを設定することができます。



このアイコンを選択すると、始動 (**Power-On**) パスワードを設定するサブメニューが表示されます。



このアイコンを選択すると、ハードディスク・ドライブ (**HDD**) パスワードを設定するメニューが表示されます。

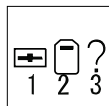


このアイコンを選択すると、スーパーバイザー (**Supervisor**) パスワードを設定するサブメニューが表示されます。

パスワードに関する詳細 → 98ページの『パスワードの使用』



かぎのアイコンのロックが開いたままの場合は、パスワードがまだ設定されていないことを示しています。



Start up

「**Start up**」アイコンをクリックすると、「**Start up**」サブメニューが表示されます。このサブメニューを使って、始動または起動に使用するデバイスの優先順位を変更できます。

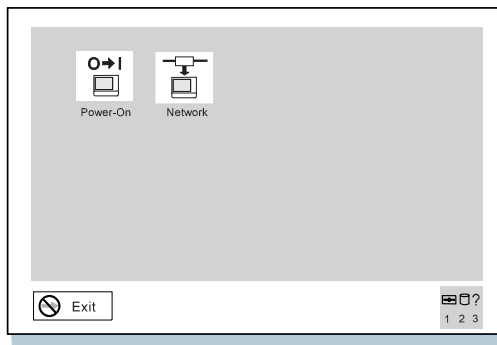
たとえば、着脱式ハードディスク・ドライブや PC カードなど複数のデバイスにオペレーティング・システムがインストールされている場合は、それらのデバイスのどれかからシステムを始動することができます。

始動優先順位を変更する手順は、次のとおりです。

- 1 「Easy-Setup」メニューで「**Start up**」アイコンをクリックします。「**Start up**」サブメニューが表示されます。

重要

始動優先順位を変更した後は、ドライブ名の割り当てが変わることがありますので、コピー、保管、フォーマット操作などで誤ったデバイスを指定しないよう、細心の注意が必要です。デバイスを誤って指定すると、データやプログラムが消されたり、上書きされたりすることがあります。



注:



電源スイッチでオンにするときは、「**Power-On**」アイコンで始動優先順位を設定します。

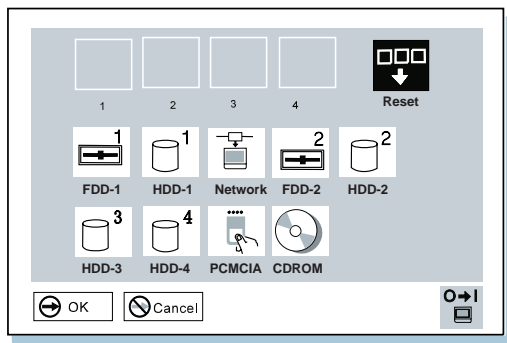


Wake on LAN を始動するときは、「**Network**」アイコンで始動優先順位を設定します。Wake on LAN は、通常、LAN 管理者が組織内ネットワークの中で ThinkPad にリモート・アクセスする場合に使用します。この機能が使用できるのは、拡張ユニット (オプション) を接続している場合だけです。

- 2 「**Power-On**」または「**Network**」をクリックします。

これらのオプションに関する説明については、24ページの『「Power-On」サブメニュー』および27ページの『「Network」サブメニュー』を参照してください。

- 3** カーソルを「Reset」アイコンに移動して、クリックするか **スペース** キーを押します。
- 4** 始動優先順位を1番にするデバイスを選択してから、そのアイコンをクリックするか **スペース** キーを押します。
デバイスを4つまで設定することができます。
- 5** 「OK」をクリックするか、**Enter** キーを押して、変更内容を保管します。



「FDD-1」アイコンは、ウルトラベイ II 内のディスク・ドライブを表します。ウルトラベイ II 内にディスク・ドライブがなく、拡張ユニットにディスク・ドライブが付いている場合は、そのディスク・ドライブが「FDD-1」となります。ディスク・ドライブをもう 1 台取り付けている場合は、そのドライブは「FDD-2」となります。

次の表に、FDD-1 と FDD-2 に対応するディスク・ドライブを示します。

表 1 (1/2). サポートされるディスク・ドライブの組み合わせ			
ケース	ウルトラベイ II の ディスク・ ドライブ	拡張ユニット内のディ スケット・ドライブ	外付けディスク・ ドライブ
ケース 1	FDD-1	なし	なし
ケース 2	なし	なし	FDD-1
ケース 3	なし	FDD-1	なし
ケース 4	FDD-1	なし	FDD-2

表 1 (2/2). サポートされるディスク・ドライブの組み合わせ			
ケース	ウルトラベイ II の ディスク・ ドライブ	拡張ユニット内のディ スケット・ドライブ	外付けディスク・ ドライブ
ケース 5	FDD-1	FDD-2	なし
注: ThinkPad にセレクトベース 770 (ポート・リプリケータ機能)を接続し、外付けディスク・ドライブを接続したときに使用するポートは、拡張ユニット内のディスク・ドライブが使用するポートと同じです。したがって、両方にディスク・ドライブを接続して使用することはできません。ウルトラベイ II 内のディスク・ドライブは、常に使用可能なので、一度に接続可能なディスク・ドライブ数は 2 つになります。			

「HDD-1」～「HDD-4」アイコンは、次の優先順位でそれぞれのハードディスク・ドライブに割り当てられます。

1. 1 次ハードディスク・ドライブ (ThinkPad のハードディスク・ベイ内に装備されています)
2. ウルトラベイ II 内のハードディスク・ドライブ
3. 拡張ユニットのウルトラ・ベイ・トレイ内のハードディスク・ドライブ
4. 拡張ユニットのデバイス・ベイのハードディスク・ドライブ
5. SCSI コネクタで ThinkPad に接続されたハードディスク・ドライブ

たとえば、ThinkPad のウルトラベイ II にはハードディスク・ドライブがないが、拡張ユニットにハードディスク・ドライブが付いている場合は、そのハードディスク・ドライブが「HDD-2」になります。

トークンリング・カードまたはその他のネットワーク・カードを使用して、リモート・プログラム・ロード (RPL) システムを行っている場合は、次の手順に従ってください。

1. 「**Network**」を選択して、クリックします。「Speed」メニューが表示されず。
2. トークンリング・カードを使用している場合は、使用するネットワークの速度 (「4」または「16」) を選択し、クリックしてから、**Enter** キーを押します。

トークンリング・カード以外のネットワーク・カードを使用している場合は、ネットワーク速度を指定する必要はありません。 **Esc** キーを押して、このメニューを終了してください。

たとえば、PC カード型 HDD またはフラッシュ・メモリー・カードを表す「**PCMCIA**」を選択し、システムを始動することができなかった場合は、セカンダリー IDE デバイスのどれかを使用不可にしてから、システムを再始動します。カードによっては、システム上の IDE デバイスと機能が入れ換るために CD-ROM ドライブや DVD ドライブが使用できなくなる場合があります。

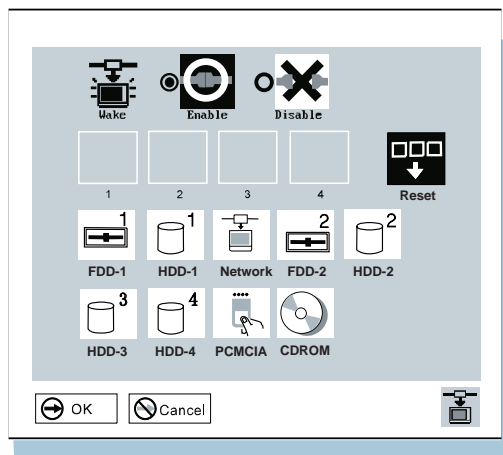
「**CDROM**」アイコンは、ウルトラベイ II 内の CD-ROM ドライブに割り当てられます。ウルトラベイ II 内には CD-ROM ドライブがないが、拡張ユニットに CD-ROM ドライブが付いている場合は、その CD-ROM ドライブが「**CDROM**」になります。CD-ROM ドライブがウルトラベイ II と拡張ユニットの両方に付いている場合は、ウルトラベイ II 内の CD-ROM ドライブが「**CDROM**」になります。

「Network」サブメニュー



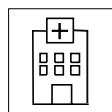
この機能が使用できるのは、拡張ユニット (オプション) を接続している場合だけです。

「**Network**」サブメニューでは、Wake-on-LAN 機能を使用可能にしたり使用不可にしたりすることができます。



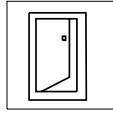
Wake on LAN が使用可能になっている場合は、ネットワーク管理者は、リモート・ネットワーク管理ソフトウェアを使用して、LAN 内に接続されているリモート・マシンの電源をオンにすることができます。使用している ThinkPad がネットワーク管理者のシステム管理のもとにない場合は、この機能を使用不可にしてください。

詳細情報 → ステップ・アップ・ガイド



Test

「**Test**」アイコンをクリックすると、「Test」サブメニューが表示されます。これは、ThinkPad のハードウェア・エラーを検査する診断テストを実行するときに使用します。詳細情報 → 167ページの『ThinkPad のテスト』



Restart

「Restart」アイコンをクリックすると、Easy-Setup プログラムを終了し、ThinkPad を再起動します。

「ThinkPad 機能設定」プログラム

重要

「ThinkPad 機能設定」プログラムの具体的な詳細を情報を見たい場合は、「ヘルプ」ボタンをクリックします。

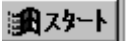
「ThinkPad 機能設定」プログラムを使うと、ThinkPad の内蔵デバイスを必要に応じてセットアップしたり、カスタマイズすることができます。たとえば、ポートを使用可能または使用不可にしたり、表示先を ThinkPad の LCD と外付けディスプレイとで切り替えたり、省電力機能を設定したりすることができます。

ここでは、「ThinkPad 機能設定」プログラムの始動方法について説明します。



Windows 98 の場合:

Windows 98 で「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動する手順は、次のとおりです。

1. 「スタート」ボタン () をクリックします。
2. マウス・ポインターを「設定」に移動します。次に「コントロールパネル」をクリックします。
「コントロール パネル」ウィンドウが表示されます。
3. 「**ThinkPad 機能設定**」アイコンをダブルクリックします。



また、次のうちいずれかの手順に従って、「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動することもできます。

- 「スタート」 () ボタンをクリックし、マウス・ポインターを「プログラム」、「**ThinkPad**」の順に移動してから、「**ThinkPad 機能設定**」をクリックします。
- タスクバー **1** の右側に「ThinkPad」アイコンが表示されていることを確認して、そのアイコンをダブルクリックします。



次のウィンドウが表示されます。



- 1** 「ディスプレイ・デバイス」ボタン。これらのボタンのどれかをクリックして、表示出力先を LCD 単独、CRT ディスプレイ単独、または LCD と CRT ディスプレイ両方のどれかに設定します。
- 2** 「電源設定」ボタン。電源設定を変更します。
- 3** 「デバイス・マネージャを開く」ボタン。「システム・プロパティ」ウィンドウを表示します。このウィンドウでデバイスを使用可能または使用不可にできます。
- 4** 「システム・リソース一覧表示」ボタン。「システム・リソース一覧」ウィンドウが表示されるので、メモリー・アドレスとその割り当ての設定を確認することができます。
- 5** 「ヘルプ」ボタン。オンライン・ヘルプを表示します。
- 6** 「デバイス」ボタン。ウィンドウから各デバイス用のボタンをクリックします。デバイスが使用可能な場合は、ボタンの横の赤いインジケーターがオンになります。このインジケーターが点灯しているときは、そのデバイスは使用できません。

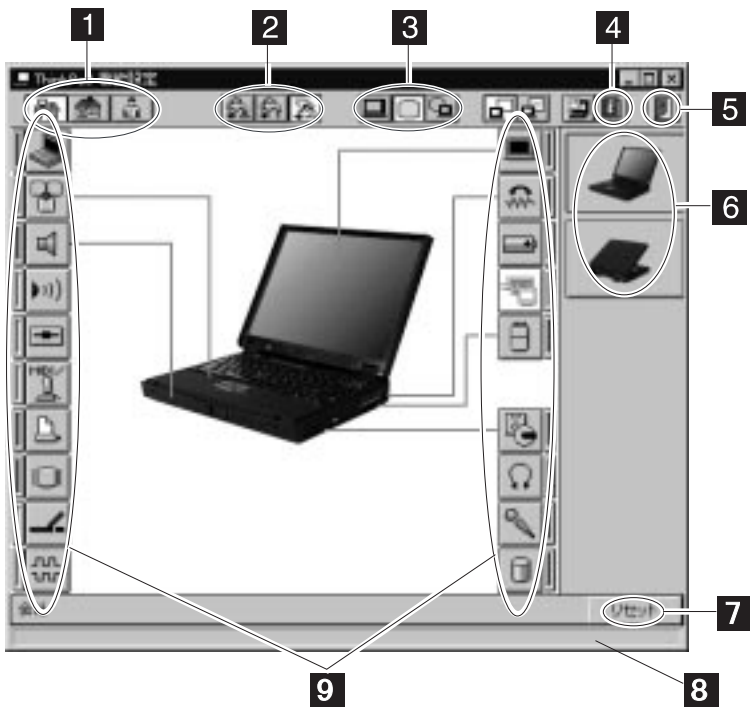


Windows NT の場合:

Windows NT で「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動する手順は、次のとおりです。

- 1 画面の下隅にある「スタート」ボタンをクリックします。
- 2 マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」に移動してから、「ThinkPad 機能設定」をクリックします。

次のウィンドウが表示されます。



- 1 「ワンタッチ設定」ボタン。これらのボタンのどれかをクリックして、システム構成を設定します。
- 2 「パワー・モード」ボタン。これらのボタンのどれかをクリックして、パワー・モードを「ハイ・パフォーマンス・モード」、「オート・モード」、または「カスタマイズ・モード」のどれかに設定します。

- 3** 「ディスプレイ・デバイス」ボタン。これらのボタンのどれかをクリックして、表示出力先を LCD、外付けディスプレイ、または LCD + 外付けディスプレイのどれかに設定します。プレゼンテーションを行う場合は、「プレゼンテーション」ボタンをクリックして、ディスプレイ・タイマーや省電力モード・タイマーなどのシステム・タイマーを使用不可にし、プレゼンテーション中に画面が消えることのないように設定できます。
- 4** 「ヘルプ」。オンライン・ヘルプを表示します。
- 5** 「終了」ボタン。このボタンをクリックすると、変更を保管して、「ThinkPad 機能設定」が終了します。
- 6** 「描写方向」ボタン。「前面表示」ボタンまたは「背面表示」ボタンをクリックすると、ハードウェアの位置が表示されます。
- 7** 「リセット」ボタン。このボタンをクリックすると、各オプションに対して初期値を設定し、変更した値を取り消します。
- 8** 「ステータス」バー。各デバイス・ボタンにマウス・ポインターを合わせると、ボタンが示すデバイスの名前と状態がこのステータス・バーに表示されます。
- 9** 「デバイス」ボタン。ウィンドウから各デバイス用のボタンをクリックします。次に、表示されるウィンドウからそのデバイスのオプションを設定します。デバイスが使用可能な場合は、ボタンの横の赤いインジケーターがオンになります。このインジケーターがオフのときは、そのデバイスは使用できません。

画面の右上隅にある最小化ボタンをクリックすると、ウィンドウの上部のみが表示されます。

ウルトラベイ II

ThinkPad 770X には、ウルトラベイ II が装備されています。



ウルトラベイ II

ウルトラベイ II には次のデバイスのどれかを取り付けることができます。

- CD-ROM ドライブ
- ディスケット・ドライブ
- DVD ドライブ
- セカンド・ハードディスク・ドライブ
(セカンド HDD アダプターが必要)
- セカンド・バッテリー・パック (バッテリー・アダプターが必要)

ウルトラベイ II のデバイスの交換方法 → 88ページの『ウルトラベイ II デバイスの交換』。

ソフトウェアの再設定

オペレーティング・システムやサポート・ソフトウェアを再インストールしたり、ソフトウェアの不具合に対処できるように、ThinkPad には次の機能があります。

- 導入済みアプリケーション CD
- Product Recovery CD-ROM
- 「ディスクレット・ファクトリー」プログラム
- ConfigSafe
- 最新のソフトウェアの提供

導入済みアプリケーション CD の使用

この CD-ROM は、主に初期インストール済み ThinkPad 用サポート・ソフトウェアおよびデバイス・ドライバを再インストールする場合に使用します。また、Windows 95 など他のオペレーティング・システムを使用する場合のサポート・ソフトウェアおよびデバイス・ドライバも収められています。

Product Recovery CD-ROM の使用

誤ってハードディスクの内容を削除または損傷してしまった場合は、Product Recovery CD-ROM (以下、リカバリー CD) を使って、初期インストールされているハードディスクの内容を購入時の状態に回復 (リカバリー) することができます。

詳細情報 → ステップ・アップ・ガイド。

ディスクレット・ファクトリーの使用

「ディスクレット・ファクトリー」プログラムには、ThinkPad 用のいくつかのサポート・ソフトウェアが入っています。このプログラムを使用して、いくつかのサポート・ソフトウェアを作成することができます。(ディスクレット・ファクトリーの使用方法 → ステップ・アップ・ガイド)

Windows 3.1、OS/2、および DOS 用のデバイス・ドライバ →
<http://www.ibm.co.jp/pc/home/download.html>

新しいオペレーティング・システムおよびデバイス・ドライバも含めて、ソフトウェアをインストールする方法の詳細 → ステップ・アップ・ガイド。

ConfigSafe の使用

ConfigSafe とは、Windows 98、Windows 95、または Windows NT 用のアプリケーションの 1 つです。これは、システム設定情報を定期的に *一時保存* するものです。たとえば、新しいデバイス・ドライバやソフトウェアのインストール後に ThinkPad が正しく作動しなくなったときに、ConfigSafe を使用すると、インストール前のシステム設定情報のバージョンが復元されます。この状態で ThinkPad を設定し、もう一度起動させることが可能です。

最新のソフトウェアの入手方法

IBM は、インターネット Web ページやパソコン通信で、最新ハードウェア・デバイス・ドライバおよびシステム BIOS を提供しています。

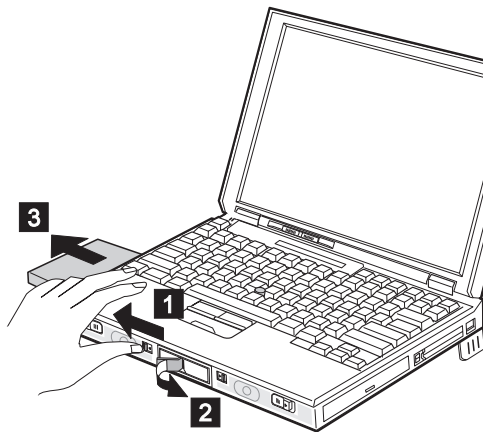
<http://www.ibm.co.jp/pc/home/download.html>

詳細情報 → *ステップ・アップ・ガイド*。

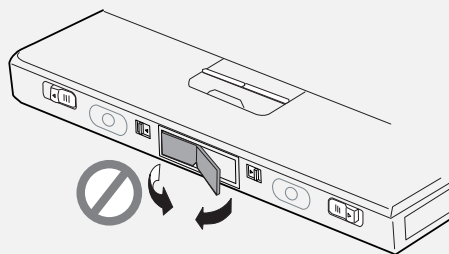
バッテリー・パックの交換

バッテリー・パックを交換する手順は、次のとおりです。

- 1** ThinkPad の電源をオフにした上で、AC アダプターおよびケーブル類をすべて ThinkPad から取り外します。
- 2** 左リリース・ラッチ **1** を左方にスライドさせ、ベイ排出レバー **2** をゆっくり持ち上げ、バッテリー・パック **3** を引き抜きます。



排出レバーは、両方を同時に使用することはできません。一方の排出レバーを開くときは、もう一方の排出レバーは必ず閉じておきます。



3 新しいバッテリー・パックが正しい位置にカチッと収まるまで差し込みます。

バッテリー・ベイの傾斜にバッテリー・パックの斜めになった端が合っていることを確認します。

4 ベイ排出レバーがしっかりと閉じるまで押します。

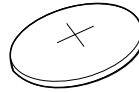
これで、バッテリー・パックの交換が完了しました。



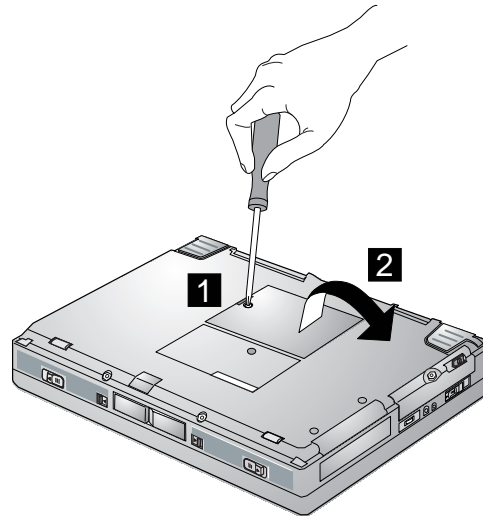
- メイン・バッテリーからセカンド・バッテリーへの切り替え → 93ページの『セカンド・バッテリー・パックの取り付け』。

バックアップ・バッテリーの交換

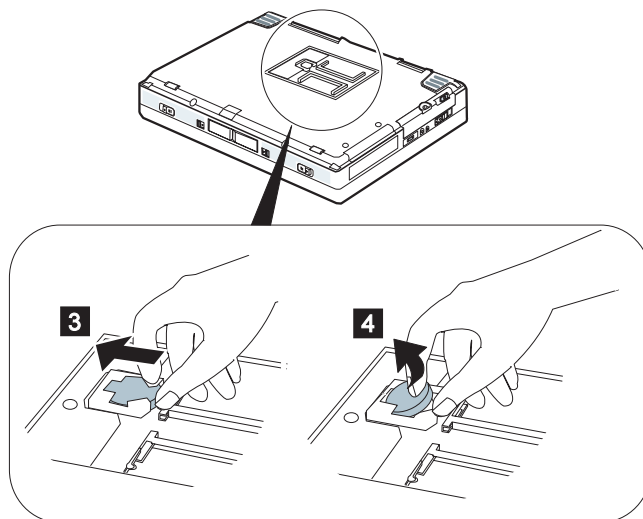
ここでは、底面収納部に入っているバックアップ用の 3 V リチウム・バッテリー (CR2025) を交換する方法について説明します。



- 1** ThinkPad の電源をオフにしてから、ACアダプターやケーブル類をすべて ThinkPad から抜きます。
- 2** ThinkPad を裏返します。
- 3** ドライバーでねじを緩め **1** メモリー・スロット・カバーを取り外します **2**。



- 4** 底面収納部にバックアップ用バッテリーが入っていることを確認し、そのバッテリーを押すと **3**、バッテリーの片側が持ち上がる **4** ので、バッテリー・ホルダーから取り出します。



バッテリーは、バッテリー・ホルダーの中で片側が持ち上がってから取り出します。バッテリーを無理やり取り出すと、バッテリー・ホルダーが損傷してしまいます。

- 5** 新しいバックアップ用バッテリーを、プラス符号 (+) が付いている側を上に向けて取り付けます。
- 6** メモリー・スロット・カバーを元通りに取り付け、ThinkPad を再度裏返して元に戻します。
- 7** AC アダプターを ThinkPad に接続します。
これでバックアップ用バッテリーの交換が終了しました。

サービス体制

記録用紙

オプション・リスト

ご使用の ThinkPad の機能に該当する項目を次のリストに記載してください。デバイスが 2 つ以上ある場合は、それぞれについて記入してください。たとえば、DIMM が 2 枚ある場合は、「DIMM」のチェックボックスにチェック・マークを付けて、「128 MB x 2」と記入します。

DIMM _____MB

PC カード

ハードディスク・ドライブ _____MB

外付けディスク・ドライブ

バッテリー・パック

DVD/CD-ROM ドライブ

ID 番号

製造番号のラベルは、ThinkPad 本体の底面にあります。下の枠内に機種および製造番号 (**S/N**) を記入してください。

IBM 製品名	ThinkPad 770X
機種	9549- _____
製造番号	_____

ThinkPad の製造番号の調べ方 → 6ページ参照。

問題記録用紙

- ThinkPad の情報:

機種: _____

製造番号: _____

購入日: __/__/__

- 問題のタイプ:

継続する問題 一時的な問題

- エラー・コード:

- オペレーティング・システムとバージョン番号 (ご存じの場合):

Windows 98 バージョン _____

Windows 3.1 バージョン _____

Windows 95 バージョン _____

OS/2 バージョン _____

Windows NT バージョン _____

DOS バージョン _____

- 問題発生時に実行していたアプリケーション・プログラム:

- 問題の症状:

問題の内容を具体的に書いてください。

- 問題を再現できましたか？

はい いいえ

「はい」の場合、どのようにして再現しましたか？


第2章 トラックポイントの設定とオプションの使用

本章では、拡張トラックポイント機能の設定とオプションの使用方法について説明します。外付けデバイスを接続して ThinkPad を使用したり、メモリーを増設したりすることができます。

トラックポイントの設定	44
メモリーの増設	49
DIMM の取り付け	50
DIMM の取り外し方法	54
ハードディスク・ドライブのアップグレード	56
ディスクレット・ドライブの外付け接続	59
マウス、数値キーパッド、および外付けキーボードの接続	61
マウスまたは数値キーパッドの接続	61
外付けキーボードとマウスの接続	63
トラックポイントの使用不可	65
外付けディスプレイの接続	66
マルチモニタ機能の使用	70
マルチモニタの使用不可	72
考慮事項	72
PC カードの取り付け	74
PC カードの取り外し	76
拡張ユニットの使用	77
ThinkPad の電源をオフにしてのドッキング (コールド・ドッキング)	78
ThinkPad の電源オン時またはサスペンド・モード時の取り外し (アンドッキング) (ホットまたはウォーム・アンドッキング)	81
リソースの競合を避けるためのデバイスの事前設定	83
拡張ユニットの IDE ドライブの使用	84
ウルトラベイ II デバイスの交換	88
ホット・スワップおよびウォーム・スワップの機能	88
デバイスの取り外しおよび交換	91
セカンド・ハードディスク・ドライブの取り付け	92
セカンド・バッテリー・パックの取り付け	93
デバイスの制限	94

トラックポイントの設定

トラックポイントを設定する手順は、次のとおりです。

- 1 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。
- 2 「トラックポイント」アイコン () をクリックします。
- 3 「トラックポイントのプロパティ」をクリックします。
「トラックポイントのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
このウィンドウで、次の機能を設定できます。
 - プレス・セレクト
 - 感度
 - スクロールまたは拡大表示

「プレス・セレクト」の設定



「プレス・セレクト - オン」のボックスにチェック・マークを付けてプレス・セレクトを使用可能にすると、トラックポイントのスティックを、左クリック・ボタンまたは右クリック・ボタンと同じように機能させることができます。

- 「ドラッグ - オン」にチェック・マークを付けると、トラックポイントのスティックを軽く押すことで、トラックポイントで選択したアイコンをドラッグできるようになります。

- 「リリース・セレクト・オン」にチェック・マークを付けると、トラックポイントからすばやく指を離すだけで、簡単にクリックできるようになります。マウス・ポインターをアイコン上に移動した後、トラックポイントからすばやく指を離した瞬間にクリックが入力されます。続けてトラックポイントをもう一度押すと(プレス・セレクト)ダブルクリックと同様の効果が得られます。
- 「プレス・セレクトへの割り当て」プレス・セレクトに左ボタン、右ボタンのどちらの機能をもたせるかを選択します。たとえば、「左ボタン」を選択すると、マウス・ポインターをプログラムのアイコンに合わせ、トラックポイントのスティックを2回軽く押すことにより、そのプログラムを始動できるようになります。

スティックを押すタイミングの調節は、「クリックの速さ」で設定します。



クリックの速さの設定を遅くし過ぎた場合は、意図しないクリック、マウス・ポインターの遅れ、またはドラッグの遅れなどが起こることがあります。また、設定を速くし過ぎた場合は、プレス・セレクトの操作が困難になります。

「感度」の設定



この機能は、マウス・ポインターとプレス・セレクトの両方の感度を同時に調節します。「重く」の方にスライドさせると、マウス・ポインターの動きは鈍くなり、プレス・セレクトは、より強く押さなければ入力できなくなります。また、「軽く」の方にスライドさせると、マウス・ポインターの動きは軽くなり、プレス・セレクトは弱く押すだけで入力できるようになります。

「スクロールまたは拡大表示」の設定



「スクロール機能」タブをクリックすると、トラックポイントのスクロールのプロパティを設定できます。

- 「スクロール機能の切り替え」
次のラジオ・ボタンのいずれかを選択します。
 - － 「スクロール」
この機能を選択すると、トラックポイントを押すだけで、長い文書や大きなスプレッドシートを簡単にスクロールすることができます。スクロールするには、スクロール・バーを使わずに、センターボタンを押しながら、トラックポイントを使用します。
 - － 「拡大表示」
この機能を選択すると、ディスプレイの一部を拡大することができます。また、拡大表示されたウィンドウを通してクリックを入力することもできます。センターボタンを押しながら右クリック・ボタンを押すと、拡大表示されたウィンドウのサイズを変更できます。また、センターボタンを押しながら左クリック・ボタンを押すと、その拡大率を変更することができます。センターボタンを押してから、トラックポイントを動かすと、拡大表示されたエリアを移動させることができます。

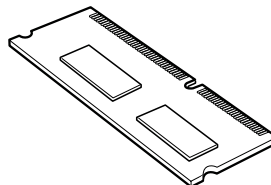
- 「オフ」
これを選択すると、スクロール機能も拡大表示機能も使用不可にします。
 - 「スクロール方法」
次のラジオ・ボタンのいずれかを選択します。
 - 「センターボタンを押しながらトラックポイント」
このオプションを選択すると、センターボタンを押しながら、トラックポイントを動かして、スクロール機能または拡大表示機能を制御することができます。センターボタンが押されていない状態では、トラックポイントは通常の動作、つまり、マウス・ポインターの制御を行います。
 - 「外付けのマウスを使う」
このオプションを選択すると、外付けで接続されているマウスで上下左右にスクロール(または拡大表示されたウィンドウを移動) させることができます。この場合、トラックポイントは単にマウス・ポインターの制御を行います。
 - 「トラックポイント」
このオプションを選択すると、センターボタンを押さずにトラックポイントで上下左右にスクロールするように設定できます。マウスを外付け接続しマウス・ポインターとして使用します。外付けで接続されているマウスでは、マウス・ポインターの制御を行います。
- センターボタンを押しながら、トラックポイントを動かすと、通常どおりマウス・ポインターの制御を行います。



「外付けマウスを使う」および「トラックポイント」ラジオ・ボタンは、マウスを外付けで接続している場合のみ選択できます。

メモリーの増設

メモリーの増設は、プログラムの実行速度を速くするのに効果的な方法です。ThinkPad のメモリー容量は、オプションのメモリー・モジュール(DIMM)を取り付けて増やすことができます。



数種類の容量の DIMM を取り付けることができます。DIMM は、ThinkPad の底面にあるメモリー・スロットに直接取り付けることができます。ThinkPad のメモリー容量は、最大 320 MB まで (64 MB の基本メモリーに加えてオプションの 128 MB の DIMM を 2 枚使用) 拡張することができます。ThinkPad に 128 MB の基本メモリーが装備されている場合は、購入時に取り付けられていた増設済みの 64 MB の DIMM を取り外してから、128 MB の DIMM を 2 枚取り付けます。

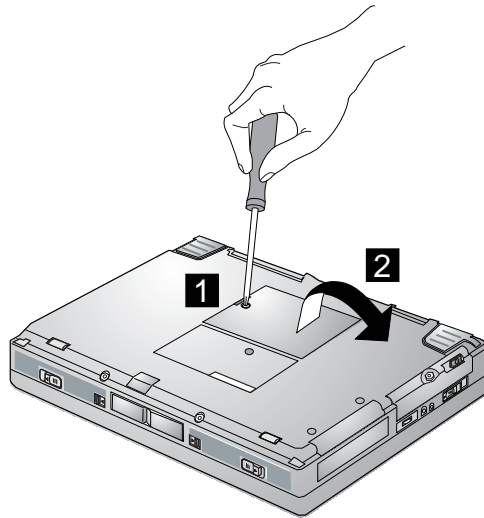
重要

ThinkPad 770X でサポートするのは、SDRAM (Synchronous Dynamic Random Access Memory) カードだけです。EDO DRAM (Enhanced Data Output DRAM) カードはサポートしません。ThinkPad でサポートされていない DIMM を取り付けただけの場合は、システムの始動時に、エラー・コード 225 が表示される可能性があります。適切なメモリー・オプションは、IBM 特約店または IBM 営業員を通じてお求めになれます。

DIMM の取り付け

DIMM を取り付け手順は、次のとおりです。

- 1** ThinkPad の電源をオフにし、AC アダプターやケーブル類をすべて取り外します。
- 2** バッテリー・パックを取り外します。
- 3** LCD を閉じ、ThinkPad を裏返します。
- 4** メモリー・スロット・カバーのねじを緩め **1**、カバーを取り外します **2**。



- 5** DIMM の側面に切り込みがあることを確認します。

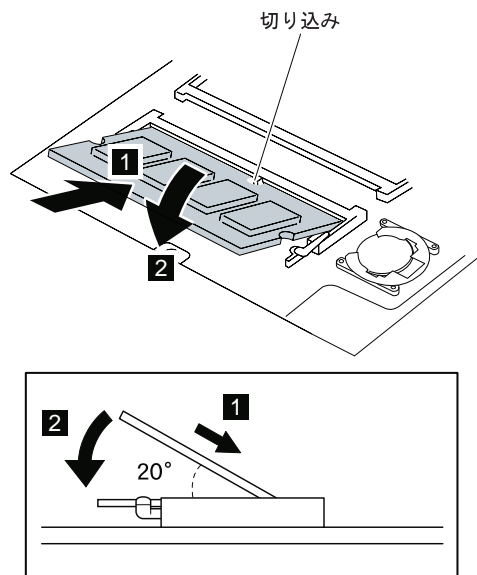
重要

DIMM の損傷を避けるため、DIMM の接点部分には手を触れないでください。

6 DIMM の切り込みのある端をソケットの右側に向けて、DIMM を約 20° の角度でソケットに差し込んでから、しっかりと押し込みます **1**。

7 カチッと音がして正しい位置に収まるまで DIMM を手前に倒します **2**。

DIMM を 2 枚取り付けたい場合は、ステップ 5 ~ 7 を繰り返します。




8 図のように、まずメモリー・スロット・カバーの後ろ側を合わせて、カバーを元通りにメモリー・スロットの上に取り付けてから、ネジで締めます。

9 ThinkPad をもう一度裏返して元通りにします。

10 バッテリー・パックを元通り取り付け、ThinkPad の電源をオンにします。

11 画面の左上隅に新しいメモリー・サイズが表示されるかどうか確認します。

たとえば、64 MB の基本メモリーが装備されている ThinkPad に 32 MB の DIMM を取り付けただけの場合は、次のように表示されているはずですが、(合計メモリー・サイズを計算する方法については、次ページを参照してください)。



097728 KB OK

これで、DIMM の取り付けは完了しました。すべてのケーブルを元通りに接続してください。



1. 次のような状況が生じた場合は、ThinkPad の電源をオフにし、DIMM を取り付け直してから、Easy-Setup でメモリー・テストを実行します (167 ページの『ThinkPad のテスト』を参照してください)。

- メモリー・カウントの下にエラー・コード 201 が表示された場合。

```
097728 KB OK
201
```

- メモリー・サイズの合計が、計算したサイズと違う場合。

エラー・コード 225 は、取り付けたメモリーが ThinkPad でサポートされていないことを意味します。

2. ThinkPad のメモリー容量を変更した場合は、次のようにして、ハイバネーション・ファイルを作成し直す必要があります。

- a) Autoexec.bat ファイル内に次の 1 行があるかどうか確認します。

```
C:¥THINKPAD¥PS2 HFILE C >nul
```

ある場合は、次のように行頭に“rem”を入力します。

```
rem C:THINKPAD¥PS2 HFILE C >nul
```

- b) ThinkPad の電源をオフにします。
- c) 追加した DIMM を取り外します。
- d) ThinkPad の電源をオンにし、ハイバネーション・モードを使用不可にします。
- e) ThinkPad の電源をオフにします。
- f) 再度 DIMM を追加します。
- g) ThinkPad の電源をオンにし、ハイバネーション・モードを使用可能にします。

ハイバネーション・モードを使用不可および使用可能にする方法

➔ ステップ・アップ・ガイド。



メモリー・サイズの合計の計算方法

メモリー・サイズは、基本メモリー・サイズ (64960 KB) に DIMM のメモリー・サイズ (単位は KB) を加えたものが表示されます。

たとえば、64 MB の基本メモリー・サイズの ThinkPad に 32 MB の DIMM を取り付けた場合は、メモリーの合計サイズは次のように計算されます。

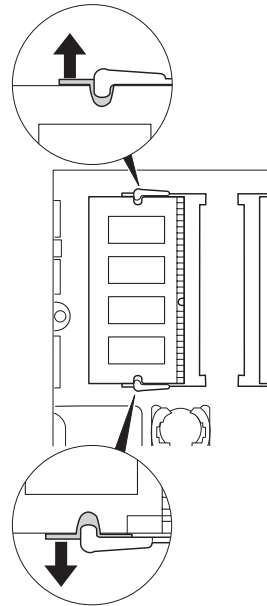
注: 1 MB=1024 KB

$$32 \times 1024(\text{KB}) + 64960(\text{KB}) = \mathbf{97728(\text{KB})}$$

DIMM の取り外し方法

- 1** ThinkPad の電源をオフにし、AC アダプターおよびケーブル類をすべて取り外します。
- 2** バッテリー・パックを取り外します。
- 3** LCD を閉じ、ThinkPad を裏返します。
- 4** メモリー・スロット・カバーのねじを緩めて、カバーを取り外します。

5 ソケットの両端の切り込み部分を同時に外側に押します。



6 DIMM を取り外します。

DIMM は安全な場所に保管しておいてください。

7 メモリー・スロット・カバーを取り付けてから、ねじを元通りに締めます。

8 ThinkPad をもう一度裏返して元通りにします。

9 バッテリー・パックを元に戻してから、取り外した AC アダプターおよびケーブル類をすべて接続します。

ハードディスク・ドライブのアップグレード

ThinkPad に標準装備されている組み込み式のハードディスク・ドライブをオプションのハードディスク・ドライブと交換すると、ThinkPad の記憶容量を増やすことができます。オプションのハードディスク・ドライブは、IBM 特約店または IBM 営業員を通じてお求めいただけます。



ハードディスク・ドライブの交換は、アップグレードや修理の目的でのみ行ってください。本機のハードディスク・ドライブは、たびたび交換するようには設計されていません。

重要

ハードディスク・ドライブ取り扱い上の注意

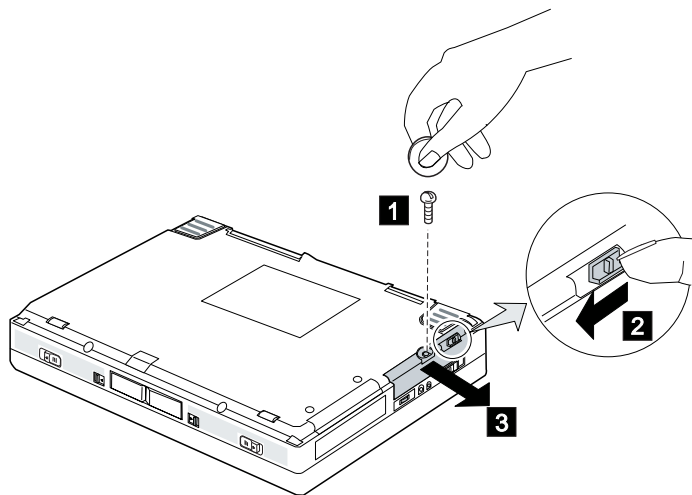
- 落としたり、物理的な衝撃を与えないでください。
- カバーに圧力をかけないでください。
- コネクターには触れないでください。

このドライブは、非常にデリケートです。取り扱いを誤ると、重大な損傷やハードディスク内のデータの損失の原因となります。ハードディスク・ドライブを取り外す前に、ハードディスク内のすべての情報のバックアップ・コピーを作成してください。システムの作動中やサスペンド・モード中、あるいはハイバネーション・モード中には、ハードディスク・ドライブを絶対に取り外さないでください。

ハードディスク・ドライブを交換する手順は、次のとおりです。

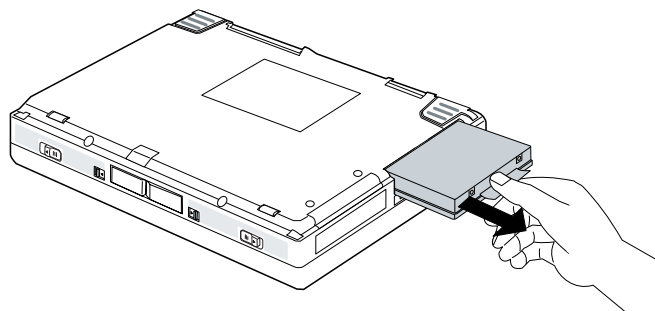
- 1** ThinkPad の電源をオフにし、ACアダプターやその他のケーブル類を取り外します。
- 2** バッテリー・パックを取り外し(➡ 36ページの『バッテリー・パックの交換』)、ThinkPad を裏返します。

- 3** 図に **1** で示すように、硬貨を使用してマイナスねじを左回りに回して取り外し、ラッチをスライドさせてから **2**、ハードディスク・ドライブ・カバーを取り外します **3**。



マイナスねじを、ThinkPad に付属のセキュリティーねじと交換することができます。セキュリティーねじを取り付けると、ThinkPad のハードディスク・ドライブは簡単に取り外せなくなります。セキュリティーねじの取り外しや締め付けには、2.5 mm の六角レンチを使用します。

- 4** ハードディスク・ドライブのストラップを引っ張って、ハードディスク・ドライブを取り外します。



- 5** 新しいハードディスク・ドライブをベイに挿入します。ドライブがしっかりと接続されていることを確認してください。



ハードディスク・ドライブをベイに差し込むときは、無理に力を加えないようにします。コネクタはデリケートなので、損傷する恐れがあります。

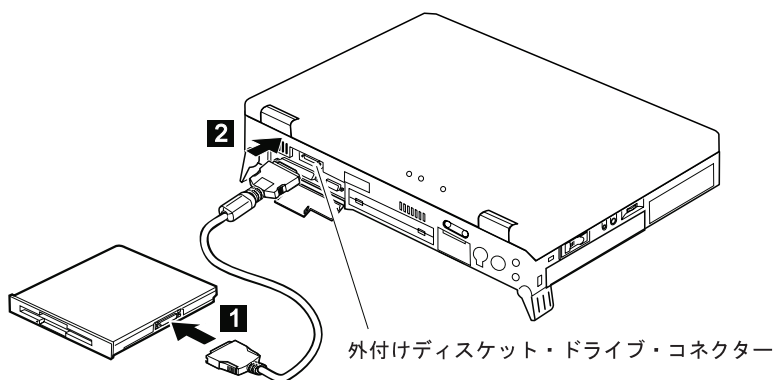
- 6** ハードディスク・ドライブ・カバーを元通りにしてから、ねじを元通りに取り付け、ThinkPad をもう一度裏返して表を上に向けます。

- 7** バッテリー・パックを元に戻し、電源をオンにします。

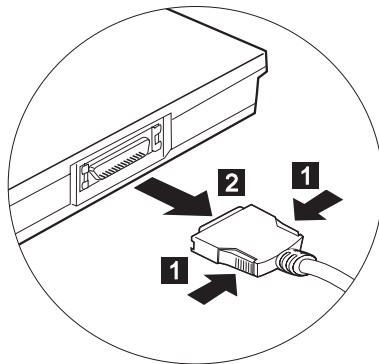
ディスク・ドライブの外付け接続

外付けディスク・ドライブは、外付けディスク・ドライブ・コネクタに接続できます。接続する方法は、次のとおりです。

- 1 ThinkPad の電源をオフにします。
- 2 ThinkPad 本体の背面にあるコネクタ・カバーを開きます。
- 3 ケーブルをまず外付けディスク・ドライブに接続し **1**、次に ThinkPad 本体の外付けディスク・ドライブ・コネクタに接続します **2**。




外付けディスク・ドライブを取り外す場合は、両側のコネクター・ロックを押し
ながら **1**、ケーブルをコネクターから抜きます **2**。

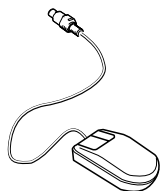


マウス、数値キーパッド、および外付けキーボードの接続

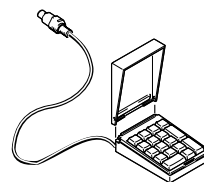
ここでは、ThinkPad にマウス、数値キーパッド、および外付けキーボードを接続する手順について説明します。

マウスまたは数値キーパッドの接続

マウスまたは数値キーパッドを、ThinkPad 背面の外付け入力装置コネクタ () に外付けで接続することができます。

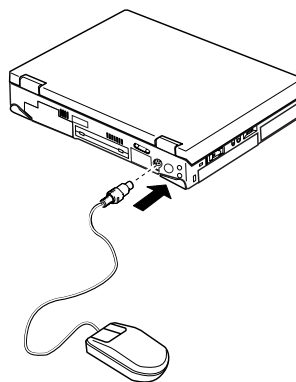


マウス



数値キーパッド

マウスを接続する場合は、図のように外付け入力装置コネクタに直接接続します。

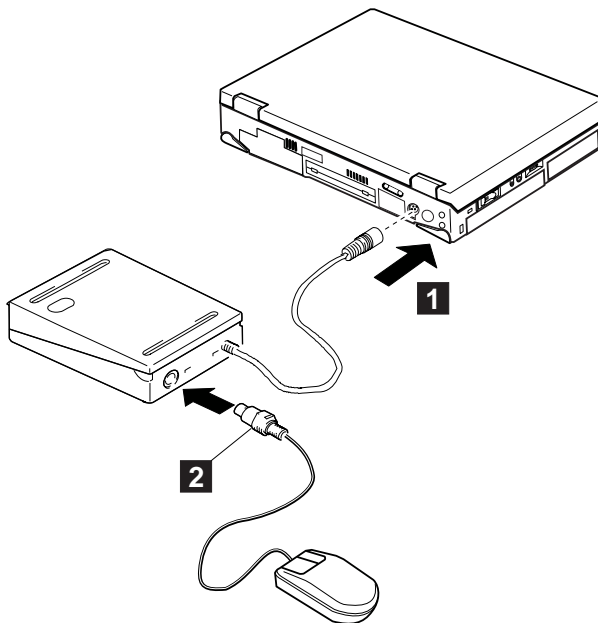


重要

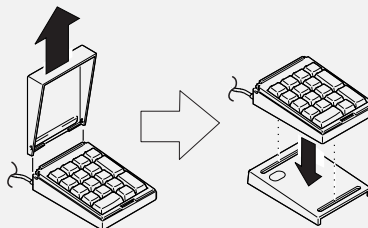
ポインティング・デバイスとして IBM ミニーマウスとトラックポイントを同時に使うことができます。IBM PS/2 ミニーマウス以外のマウスの接続

➡ 65ページの『トラックポイントの使用不可』

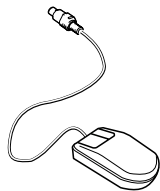
数値キーボードとマウスの両方を同時に使用する場合は、まず数値キーボード・ケーブルを ThinkPad 本体に接続し **1**、次にマウス・ケーブルを数値キーボードの背面にあるコネクタに接続します **2**。



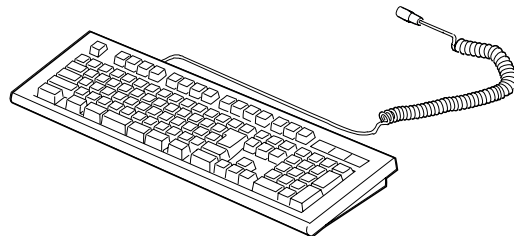
数値キーボード・カバーを取り外し、数値キーボードのスタンドとして使用できます。



外付けキーボードとマウスの接続



マウス



外付けキーボード

ThinkPad に外付けキーボードを接続する場合は、次のどちらかを使用してください。

- オプションのキーボード/マウス・コネクタ (オプション)
- セレクタベース 770 (ポート・リプリケータ機能)(オプション)

外付けキーボードは、**ThinkPad** 本体の外付け入力装置コネクタに直接接続しても、作動しません。

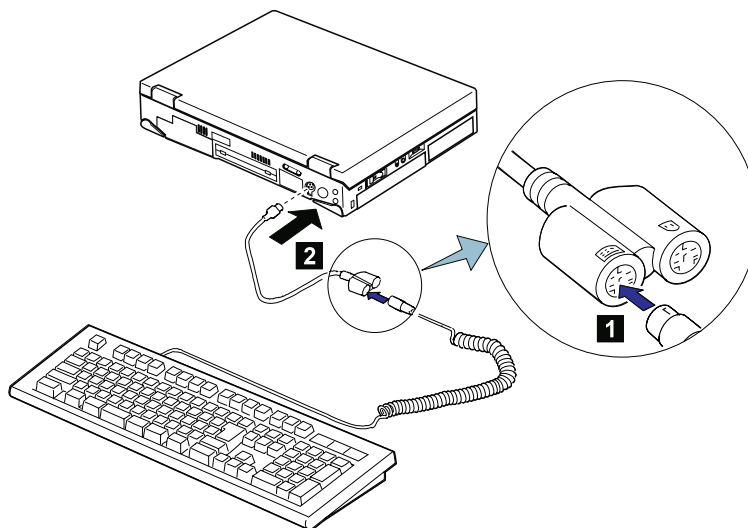
外付けキーボードを接続すると、次のキーが使用できなくなります。

- ThinkPad 本体のキーボード上の数値キーパッド
- 外付けの数値キーパッド

代わりに、外付けキーボードの数値キーパッドを使用してください。

キーボード/マウス・コネクタを接続する場合は、ThinkPad の電源をオフにし、外付けキーボードをキーボード/マウス・コネクタのキーボード・ポートに接続してから **1**、キーボード/マウス・コネクタを ThinkPad に接続します **2**。

マウスは、キーボード/マウス・コネクタのマウス・ポートに接続します。



トラックポイントの使用不可

トラックポイントは、システムに接続された別のポインティング・デバイス (たとえば、マウスなど) と同時に使用できるように設計されていますが、マウスの種類によっては、使用する前にトラックポイントを使用不可にする必要があります。次のようなマウスはこれに該当します。

- 外付け入力装置コネクタに接続された、PS/2 マウスと完全には互換性がないマウス
- シリアル・コネクタに接続されたマウス
- USB コネクタに接続されたマウス

トラックポイントを使用不可にする手順は、次のとおりです。

1 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。

28ページの『「ThinkPad 機能設定」プログラム』を参照してください。

2 「トラックポイント」() アイコンをクリックします。

3 トラックポイントの「自動使用不可」を選択します。

この設定では、ThinkPad の始動時にマウスが外付け入力装置コネクタに接続されたときに、自動的にトラックポイントが使用不可になります。使用不可になっているトラックポイントを使用可能に戻す場合は、マウスを取り外してから、ThinkPad を再起動させてください。始動時にマウスを外付けで接続していない場合は、トラックポイントは使用可能になります。



マウスをシリアル・コネクタまたは USB コネクタに接続して使用している場合は、「自動使用不可」ではなく、「使用しない」を選択する必要があります。




外付けディスプレイの接続

ここでは、ThinkPad の LCD と外付けディスプレイ (CRT) の使用方法について説明します。また、DOS のアプリケーションを使用する場合の考慮事項についても記述します。

ThinkPad の LCD では、*TFT* (Thin-Film Transistor) テクノロジーを採用しています。この LCD では、XGA (1024x768 の解像度) ビデオ・モードで約 1,677 万色、または SXGA (1280x1024 の解像度) ビデオ・モードで 65,536 色を出力します。

より高い解像度をサポートする外付けディスプレイを接続すれば、最大 1600x1200 のビデオ解像度で表示できます。

外付けディスプレイ (CRT) を接続する手順は、次のとおりです。

- 1** ThinkPad の電源をオフにします。
- 2** 外付けディスプレイ (CRT) を ThinkPad の背面にある外付けディスプレイ・コネクタ () に接続してから、電源コンセントに接続します。
- 3** 外付けディスプレイ (CRT) と ThinkPad の電源をオンにします。
- 4** 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。
28ページの『「ThinkPad 機能設定」プログラム』を参照してください。
- 5** 「LCD と CRT ディスプレイ両方」 () ボタンまたは「CRT ディスプレイ単独」 () ボタン (Windows 98 の場合は、画面の左上にあり、Windows NT の場合は、画面の上部中央よりやや右寄りにあります) をクリックして、表示先を変更します。

重要

- ThinkPad で次のどれかを実行している場合は、表示先、ディスプレイの解像度、および色数を変更しないようにします。
 - オーディオの再生または録音中
 - 動画の再生中
 - ゲームのプレイ中
 - その他のマルチメディア・アプリケーションの実行中
- 表示先を変更する場合は、その前にこれらのアプリケーションを停止しておきます。
- 搭載されている LCD と同じリフレッシュ・レートおよび解像度をサポートしない外付けディスプレイを接続する場合は、「**LCD と CRT ディスプレイ両方**」を選択 **しない** ようにします。これを選択すると、外付けディスプレイの画面が乱れ、出力も表示されなくなることがあります。さらに、画面が損傷する場合があります。必ず「**CRT ディスプレイ単独**」を使用します。



また、**[Fn] + [F7]** キーを押して、ディスプレイの表示モードを簡単に変更することもできます。

6 次のようにして、ディスプレイの表示モードと解像度、色数、およびリフレッシュ・レートを設定します。



詳細情報 → 68ページの『解像度、色数、およびリフレッシュ・レート』。

- a) 「スタート」をクリックします。
- b) マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動してから、「コントロール パネル」をクリックします。
- c) 「画面」をダブルクリックします。
- d) 「設定」タブを選択します。
- e) 「詳細」ボタンをクリックします。
- f) 「モニタ」タブをクリックします。

g) 「変更」ボタンをクリックします。

「デバイス・ドライバーの更新ウィザード」ウィンドウが表示されます。画面の指示に従って、「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」を選択し、ディスプレイ・リストからディスプレイのタイプを選択し、新しい解像度、色数、およびリフレッシュ・レートをクリックします。

7 ThinkPad を再起動して、新しい設定を有効にします。



ThinkPad がサスペンド・モードまたはハイバネーション・モードになっているときに、外付けディスプレイを取り外さないでください。**ThinkPad** が通常の操作状態に戻ったときに外付けディスプレイが接続されていないと、**LCD** には何も表示されません。この制限事項は、いずれの解像度でも同様です。

解像度、色数、およびリフレッシュ・レート

次の表は、ThinkPad または外付けディスプレイで表示可能な解像度、色数、およびリフレッシュ・レートを示しています。この表を使用して、表示出力先（「**LCD** 単独」、「**CRT** ディスプレイ単独」、または「**LCD** と **CRT** ディスプレイ両方」）を設定します。



オペレーティング・システムをインストールするにあたっては、SVGA 以上のモードを使用する場合に備えて ThinkPad 用のディスプレイ・ドライバーをインストールする必要があります。

- 出力を LCD、または LCD と外付けディスプレイの両方に表示する場合
(「**LCD** 単独」または「**LCD** と **CRT** ディスプレイ両方」)

解像度	サポートされる色数
640x480 (VGA)	256 色、65,536 色、および約 1,677 万色*
800x600 (SVGA)	256 色、65,536 色、および約 1,677 万色*
1024x768 (XGA)	256 色、65,536 色、および約 1,677 万色*
1280x1024 (SXGA サポート・モデルのみ)	256 色、および 65,536 色
注: ビデオ・オーバーレー、キャプチャー、および MPEG 再生の機能は、アスタリスク (*) が付いているビデオ・モードでは使用できません。	

- 出力を外付けディスプレイに表示する場合(「**CRT** ディスプレイ単独」)

解像度	サポートされる色数	リフレッシュ・レート
640x480 (VGA)	256 色、65,536 色、および約 1,677 万色	60 Hz、72 Hz、75 Hz、および 85 Hz
800x600 (SVGA)	256 色、65,536 色、および約 1,677 万色	60 Hz、75 Hz、および 85 Hz
1024x768 (XGA)	256 色、65,536 色、および約 1,677 万色*	60 Hz、70 Hz、75 Hz、85 Hz、および 87iHz
1280x1024 (SXGA)	256 色、および 65,536 色	60 Hz、75 Hz、85 Hz*、および 87iHz
1600x1200	256 色、および 65,536 色	96iHz*
注: ビデオ・オーバーレー、キャプチャー、および MPEG 再生の機能は、アスタリスク (*) が付いているビデオ・モードでは使用できません。		



外付けディスプレイ (CRT) によっては、解像度やリフレッシュ・レートが制限されていることがあります。

マルチモニタ機能の使用

Windows 98 環境では、マルチモニタ機能が使用できるので、Windows 98 のデスクトップで LCD と CRT の組み合わせ、または LCD と TV の組み合わせ (ただし、ThinkPad にビデオ出力コネクタが装備されている場合) に出力を表示することができます。2 つのディスプレイにまたがってデスクトップ・イメージを表示することができます。



ThinkPad に TV を接続するには :

TV (NTSC または PAL 型式) を接続する場合は、ThinkPad に DVD 拡張ビデオ・アダプター (オプション) を取り付ける必要があります。

マルチモニタを使用可能にする手順は、次のとおりです。



ThinkPad に TV を接続する場合は、TV でのマルチモニタ機能を使用可能にしてから、次の手順を実行します。 → 71ページの『TV でマルチモニタ機能を使用可能にするには』

- 1** 外付けディスプレイ (CRT) または TV を ThinkPad 本体に接続します。
- 2** 「スタート」ボタンをクリックします。
- 3** マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動してから、「コントロール パネル」をクリックします。
- 4** 「画面」をダブルクリックします。
- 5** 「設定」タブを選択します。
- 6** 「モニタ 2」アイコン (セカンダリ モニタである LCD を表します) をクリックします。
「モニタ」ウィンドウが表示されます。
- 7** 「はい」をクリックして、モニタ 2 を使用可能にします。
- 8** セカンダリ モニタの色数および解像度を選択します。
- 9** 「モニタ 1」アイコン (プライマリ モニタである CRT または TV を表します) をクリックします。

10 プライマリ モニタの色数および解像度を選択します。

11 それぞれのモニタのアイコンをドラッグして、相対位置を設定します。



ディスプレイの相対位置は任意に設定できますが、アイコンは相互に接触している必要があります。

12 「OK」をクリックして、変更を適用します。

TV でマルチモニタ機能を使用可能にするには



TV でマルチモニタ機能を使用する場合は、ThinkPad を起動するたびに、TV 設定を使用可能にする必要があります。

- 1** ThinkPad 本体のビデオ出力コネクタに TV (NTSC または PAL 型式) を接続します。
- 2** 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。
28ページの『「ThinkPad 機能設定」プログラム』を参照してください。
- 3** 「ビデオ・キャプチャー/TV 出力」をクリックします。
- 4** 「ビデオ出力ポート (TV 出力)」の「使用する」を選択します。
- 5** 「OK」をクリックして、変更を有効にします。
- 6** 「カラー方式」、「オーバー・スキャン/アンダー・スキャン」、および「画面ちらつき除去」を正しく設定します。
- 7** 現在使用しているデバイス装置が「TV」に設定されていることを確認します。

TV でのマルチモニタ機能を使用可能にしてから、70 ページのマルチモニタ機能を使用可能にするための指示に従います。

マルチモニタの使用不可

- 1 「スタート」ボタンをクリックします。
- 2 マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動してから、「コントロール パネル」をクリックします。
- 3 「画面」をダブルクリックします。
- 4 「設定」タブを選択します。
- 5 「モニタ 2」アイコンをクリックします。
- 6 「Windows デスクトップをこのモニタ上で移動できるようにする」チェックボックスからチェック・マークを外します。
セカンダリ モニタ (モニタ 2) は使用不可で、設定は使用する準備ができています。

考慮事項

- プライマリ モニタは CRT か TV のどちらかであり、セカンダリ モニタは ThinkPad の LCD です。
- 次はサポートされない組み合わせです。

モデル	LCD 設定	CRT または TV 設定
1024x768 (14.1インチ LCD)	— すべての解像度の約1,677万色表示	— 1280x1024の256色または 65,536色 すべての解像度の約1,677万色表示
1280x1024 (13.7インチ LCD)	— すべての解像度の256色表示 — すべての解像度の65,536万色表示	— 1024x768の65,536色表示 — 1280x1024の65,536色表示 すべての解像度の約1,677万色表示

組み合わせは上記のどれにも該当しない場合でも、CRT 上のリフレッシュ・レートに制限があるため、マルチモニタ機能を使用できない場合があります。

- 次はオーバーレー再生時にはサポートされない設定です。

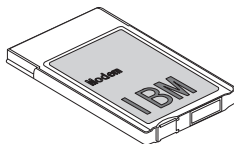
モデル	LCD 設定	CRT または TV 設定
1024x768 (14.1インチ LCD)	— すべての解像度の256色表示	— 1024x768の約1,677万色表示
	— すべての解像度の65,536色表示	— 1024x768の約1,677万色表示 1280x1024の65,536色表示
1280x1024 (13.7インチ LCD)	— すべての解像度の約1,677万色表示	— 800x600の65,536色表示 1024x768の256色 または65,536色表示
	— すべての解像度の256色表示	— 1280x1024の256色または 65,536色表示
	— すべての解像度の65,536色表示	— 1024x768の65,536色表示 1280x1024の256色表示

組み合わせは上記のどれにも該当しない場合でも、CRT 上のリフレッシュ・レートに制限があるため、オーバーレー再生を行うことができない場合があります。

- DirectDraw または Dired3D を使用するアプリケーションを含む DOS 全画面を表示することができるのは、プライマリ モニタ (CRT または TV) だけです。LCD には何も表示されません。
- CRT または TV にビデオ・クリップ (AVI または MPEG ファイル) を再生する場合は、イメージはオーバーレー・モードです。これに対して、LCD では、再生はソフトウェアによる描画です。オーバーレー・モードを使用する方が、ソフトウェアによる描画よりも、すぐれた画面品質で表示できます。
- マルチモニタ・モードに入っているときは、**[Fn] + [F7]** (ディスプレイ切り替え) 機能および **[Fn] + [F8]** (画面拡大) 機能は使用できません。
- マルチモニタ機能のもとでの DVD ムービーの再生は、サポートされません。したがって、まずマルチモニタ機能を使用不可にしておく必要があります。
- CRT または TV を取り外す場合は、その前にマルチモニタ機能を使用不可にしておきます。

PC カードの取り付け

ここでは PC カードの取り付け方法について説明します。PC カード・ソフトウェアの使用法の説明 → *ステップ・アップ・ガイド*



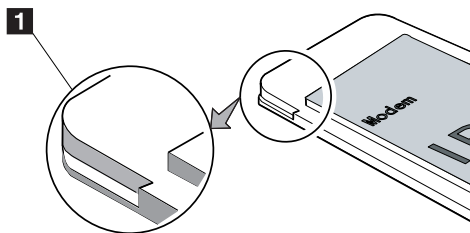
重要

ThinkPad がサスペンド・モードまたはハイバネーション・モードになっているときは、PC カードを取り付けないようにします。取り付けると、システムが停止する場合があります。

ThinkPad には 2 つの PC カード・スロット (上段スロットと下段スロット) があり、次のタイプのカードをサポートします。

- PC カード (タイプ I、タイプ II、およびタイプ III)
- CardBus カード
- ZV (Zoomed Video)

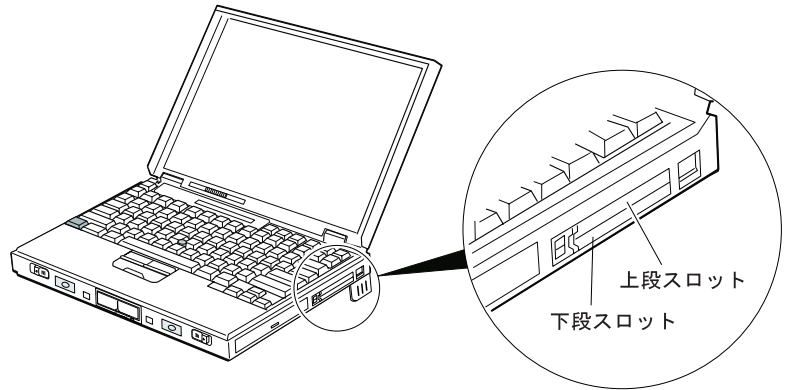
1 PC カードの切り込み **1** のある側を探します。



2 PC カードのタイプに応じて、正しい PC カード・スロットに PC カードを差し込みます。



- タイプ I またはタイプ II の PC カードは、上段スロットまたは下段スロットのどちらかに差し込んでください。
- タイプ III の PC カードは、下段スロットに差し込んでください。



3 PC カードをコネクタにしっかりと差し込みます。



• Windows 98 の場合

PC カード・ドライバーをインストールしていない場合は、Windows 98 でその PC カード・ドライバーのインストールが開始します。

• Windows NT の場合

ThinkPad には CardWizard という PC カード・サポート・ソフトウェアがあります。これにより、PC カードを ThinkPad に取り付けるとすぐにそのカードが使用可能になります。「SystemSoft CardWizard」ウィンドウが表示され、新しいカードの情報を知らせます。

PC カードの取り外し

重要

ThinkPad がサスペンド・モードまたはハイパネーション・モードになっているときは、PC カードを取り外さないようにします。取り外すと、通常の操作に戻ったときにシステムが停止するおそれがあります。

ハードディスク PC カード、フラッシュ・メモリー PC カード、または SRAM PC カードなどのストレージ PC カードを PC カード・スロットから取り外す場合は、その前に PC カードを停止しておく必要があります。そうしないと、PC カード上のデータが破壊されたり失われたりする場合があります。

1 カードを停止します。

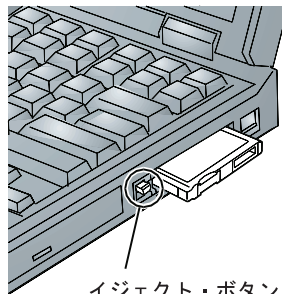
PC カードの停止方法 → ステップ・アップ・ガイド



CardSoft モードにあるとき、またはカードがすでに停止されている場合は、「停止」オプションは灰色で表示されます。

2 PC カード・イジェクト・ボタンを押して、ボタンを飛び出させます。このボタンをもう一度押して、PC カードを取り出します。

3 PC カードを取り出し、安全な場所に保管します。



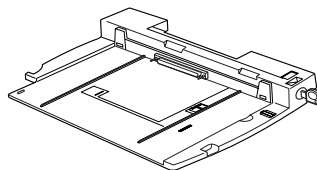
PC カードの使用に関する詳細情報 → ステップ・アップ・ガイド

拡張ユニットの使用

ThinkPad の本体をセクタベース 770 (ポート・リプリケーター機能) に接続し、次に拡張ユニットに接続することによって、ThinkPad の機能を拡張することができます。

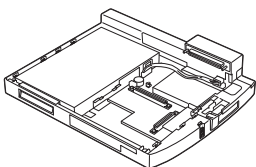


ポート・リプリケーターはオプションで、外付けのキーボード、マウス、プリンター、CRT などを取り付ける場合に便利な方法です。もちろん、これらのデバイスは、ThinkPad 本体に直接接続することもできます。

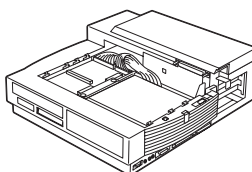


セクタベース 770 (ポート・リプリケーター機能)

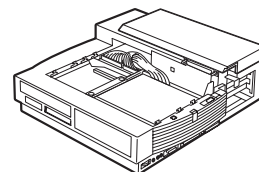
ThinkPad とセクタベース 770 (ポート・リプリケーター) を次の拡張ユニットのどれかに接続 (ドッキング) することができます。



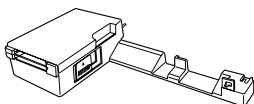
セクタドック I



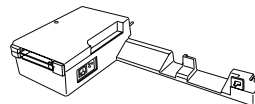
セクタドック II



セクタドック III



セクタベース PC カード・イネーブラー



セクタベース PC カード・イネーブラー
(EtherJet 機能付)

ThinkPad は 次 に示すような状態で拡張ユニットにドッキングすることができます。

- ThinkPad の電源がオフになっている場合 (コールド・ドッキング)
- ThinkPad がサスペンド・モードの場合 (ウォーム・ドッキング)
- ThinkPad が稼働している場合 (ホット・ドッキング)



- ハードウェア構成やオペレーティング・システムによっては、ウォーム・ドッキングやホット・ドッキングがサポートされない場合があります。ThinkPad を拡張ユニットにドッキングする方法については、拡張ユニットやセレクトベース 770 (ポート・リプリケーター機能) に付属のユーザー・ガイドを参照してください。
- セレクトベース 770 (ポート・リプリケーター機能) 経由でセレクトドック I にドッキングすると、奥行きサイズの違いにより、状況インジケータの読み取りやウルトラベイ II へのアクセスが困難になる場合があります。
- Windows 95、Windows NT、Windows 3.1、または DOS 環境では、ThinkPad を拡張ユニットにドッキングした 後で、PC カード・サポート・ソフトウェアをインストールする必要があります。PC カード・サポート・ソフトウェアをすでにインストール済みの場合は、いったんそれをアンインストールし、ThinkPad を拡張ユニットに接続した後で再インストールします。

ThinkPad の電源をオフにしてのドッキング (コールド・ドッキング)

次のような場合は、ThinkPad と拡張ユニットの両方の電源をオフにしてドッキング (コールド・ドッキング) しなければなりません。

- 初めて ThinkPad を拡張ユニットにドッキングする場合

または

- デバイスの取り付けや取り外しなど、拡張ユニットのデバイス構成を変更した場合

コールド・ドッキングは、ThinkPad に記録されていた拡張ユニットのデバイス状況をリセットします。その後は、いつでも ThinkPad を拡張ユニットにドッキングできるようになります。

ThinkPad を初めて接続する手順は、次のとおりです。

1 拡張ユニットに新しいデバイスを取り付けます。

2 拡張ユニットに AC アダプターを接続します。


セレクトドック I またはセレクトドック II 拡張ユニットを使用する場合は、セレクトベース 770 (ポート・リプリケーター機能) に AC アダプターを接続し、拡張ユニットに AC ケーブルを接続します。

セレクトドック III 拡張ユニットを使用する場合は、AC ケーブルを拡張ユニットに接続します。

PC カード・イネーブラーまたはセレクトベース PC カード・イネーブラー (EtherJet 機能) を使用する場合は、AC アダプターはセレクトベース 770 (ポート・リプリケーター機能) に接続します。

3 拡張ユニットに ThinkPad をドッキングします。

ThinkPad を拡張ユニットにドッキングする方法については、該当の拡張ユニットに付属のユーザズ・ガイドを参照してください。セレクトドック I、セレクトドック II、またはセレクトドック

III を使用している場合は、ドッキング状況マーク () が拡張ユニット状況インジケータに表示され、ThinkPad が正しくドッキングされていることを示します。

重要

ディスプレイ・ドライバーのインストールを指示するプロンプトが表示された場合は、「キャンセル」をクリックしてそのウィンドウを終了します。構成情報を作成したら、ThinkPad を再起動し、ディスプレイ設定をカスタマイズする必要があります。

4 ThinkPad の電源をオンにします。

Windows 98 または Windows 95 では、拡張ユニットの状況のチェックを開始し、2 回ほど再起動します。画面の指示に従ってください。

Windows 98 または Windows 95 では、この操作中に、「Dock X」という名前で拡張ユニットに関する構成情報を作成します。



- X は、1 ~ 3 のどれかの数字です。
- 「バージョンが異なります」というメッセージが表示される場合があります。「このファイルを保存しますか?」というプロンプトに対しては、「はい」と応答してください。
- 「Texas Instruments PCI-1250 Card BUS Controller」ドライバを要求された場合は、C:\%Windows%\Options\CABS のディレクトリーに入っているので、インストールしてください。

5 Windows 98 または Windows 95 で「マイ コンピューター」、「コントロール パネル」、「システム」、「ハードウェア プロファイル」タブを順にクリックします。

6 新しい構成情報、「Dock X」が作成されていることを確認します。また、「デバイス マネージャ」タブをクリックして、新しいデバイスが「装置一覧」に新たに表示されていることも確認します。

Dock X が作成されていない場合は、ステップ 1 からやり直してください。


デバイスの横に「!」マークまたは「x」マークが表示されている場合、リソースの競合が発生している可能性があります。ステップ・アップ・ガイドの「システム・リソースの競合の回避」の項を参照して、問題を解決します。

新しい構成情報の「Dock X」が作成された後であれば、ThinkPad の電源をオンにしたままで、ThinkPad を拡張ユニットに接続したり (ドッキング)、拡張ユニットから取り外したり (アンドッキング) することができます。

ThinkPad の電源オン時またはサスペンド・モード時の取り外し (アンドッキング) (ホットまたはウォーム・アンドッキング)



拡張ユニットにドッキングされている ThinkPad がサスペンド・モードにならない場合は、次の手順を実行します。

1. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。
2. 「省電力」 () ボタンをクリックします。
3. 「サスペンド/レジューム・オプション」タブをクリックします。
4. 「ドッキング中にサスペンド/ハイバーネーションする」のチェックボックスにチェック・マークを付けます。

これで、ThinkPad はドッキング中にサスペンド・モードに入ることができます。

ThinkPad を稼働時 (ホット・アンドッキング) またはサスペンド・モード時 (ウォーム・アンドッキング) に拡張ユニットからアンドッキングする場合は、次の手順を実行します。

- 1 Windows 98 または Windows 95 で「スタート」ボタンをクリックし、次に「取り出し」をクリックします。ThinkPad の LCD 画面がいったんオフになってから、オンになります。



または

拡張ユニットのセキュリティー・キーを「取り出し」位置まで回してから、キーを放します。

取り出し要求がオペレーティング・システムに出されます。この取り出し操作は、終了するまでに時間がかかる場合があります。



この取り出し操作が完了したかどうかを確認する場合は、もう一度「スタート」ボタンをクリックして、「取り出し」アイコンがまだ表示されるかどうかを調べてください。このアイコンがまだ表示されている場合は、その表示が消えるまで待ちます。

- 2 ビープ音が 1 回鳴ったら、セキュリティー・キーをもう一度奥へ回してください。これで、拡張ユニットから ThinkPad を取り外すことができます。




オペレーティング・システムが取り出し要求を拒否した場合は、画面にメッセージが表示されます。このような場合は、コールド・アンドocking (電源がオフのときに拡張ユニットから ThinkPad を取り外すこと) を試してください。

リソースの競合を避けるためのデバイスの事前設定

Windows 98 または Windows 95 のプラグ・アンド・プレイ機能によって、拡張ユニットに取り付けたデバイスは、ThinkPad 本体の電源をオンにした直後から使用することができます。取り付けたデバイスが使えない場合は、システム・リソースの競合が発生している可能性があります。競合を避けるために、次を実行してください。

PCI アダプターまたは内蔵 SCSI デバイスの場合：

- 1 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動し、「拡張ユニット」
 ボタンをクリックします。
- 2 少なくとも 1 つの IRQ 値を割り当てます。省略時の設定は IRQ 9 です。


ISA アダプター・カードの場合：

- 1 Windows 98 または Windows 95 の「デバイス マネージャー」をオープンし、新しいカード用に使用可能なリソースをチェックします。
- 2 AC アダプターと AC ケーブルをすべて取り外します。
- 3 セレクタベース 770 (ポート・リプリケーター機能)をセレクタドック I II III 拡張ユニットから取り外します。
- 4 アダプター・カードのジャンパーまたは DIP スイッチを設定します。

IDE デバイス (ハードディスク・ドライブまたは CD-ROM ドライブなど) の場合：



次のステップに進む前に、84ページの『拡張ユニットの IDE ドライブの使用』をお読みください。

- 1 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動し、「拡張ユニット」
 アイコンをクリックします。
- 2 「IDE デバイス」タブをクリックします。

- 3 「拡張ユニット中のウルトラベイ IDE デバイス」リスト・ボックスの「使用する」を選択し (まだ選択していない場合)、ThinkPad を再起動します。
- 4 「デバイス マネージャ」をクリックして、新しい IDE デバイスと ThinkPad 内の他のデバイスとの間にリソースの競合が発生していないことを確認します。リソースの競合が生じている場合は、*ステップ・アップ・ガイド* を参照してください。

拡張ユニットの IDE ドライブの使用

拡張ユニットに IDE デバイス (ハードディスク・ドライブまたは CD-ROM ドライブなど) を取り付けた場合、そのデバイスが使用可能になるよう、ThinkPad の設定を変更する必要があります。省略時には、ThinkPad は、プライマリー IDE チャンネルを主ハードディスク・ドライブ (プライマリー・マスター) 用として使用し、セカンダリー IDE チャンネルをウルトラベイ II 内のデバイス (セカンダリー・マスター) 用として使用します。省略時の値である 2 チャンネルの省略時 IDE モードでは、IDE デバイスを拡張ユニットで使用することはできません。


拡張ユニットの IDE デバイスを使用可能にする場合は、省略時の設定を次のどちらかに変更する必要があります。

- 3 チャンネルの IDE モード。このモードでは、ウルトラベイ II 内のデバイスに対して、ホット・スワップおよびウォーム・スワップ機能を使用することができます。3 番目の IDE チャンネル用の追加 IRQ が必要です。
- 2 チャンネルの IDE モード。このモードでは、追加 IRQ を割り当てる必要はありません。ただし、ウルトラベイ II 内のデバイスに対して、ホット・スワップおよびウォーム・スワップ機能を使用することはできません。




IDE チャンネル構成を変更した場合は、ドライブ名の割り当ても変わる場合があります。

3 チャンネルの IDE モードへの設定

- 1 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。
- 2 「拡張ユニット」 () ボタンをクリックします。
「拡張ユニット」ウィンドウが表示されます。

- 3 「デバイス マネージャ」ボタンをクリックします。
「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。
- 4 「コンピュータ」をクリックしてから、「プロパティ」ボタンをクリックします。
- 5 「リソースの表示」タブの画面の現在の設定を確認して、IRQ 11 または 15 以外の選択可能な IRQ 値 (推奨値は IRQ 9) を決めます。使用可能な IRQ 値がない場合は、「デバイス マネージャ」タブの画面で現在使用していないデバイスの名前と、「削除」ボタンをクリックして、該当のデバイスを削除します。
- 6 「OK」をクリックして、「システム プロパティ」ウィンドウをクローズします。
- 7 「拡張ユニット」ウィンドウに戻って、「PCI ステアリング用 IRQ ホルダー」タブをクリックします。
- 8 「第 1 IRQ」の IRQ 値をステップ 5 で決めた使用可能な値に変更します。
- 9 「IDE デバイス」タブをクリックします。
- 10 「拡張ユニット中のウルトラベイ IDE デバイス」リスト・ボックスの「使用する」を選択します。
- 11 「IDE チャネル」リスト・ボックスの「サード」を選択します。
- 12 「OK」をクリックして、「拡張ユニット」ウィンドウをクローズします。
- 13 「警告」ダイアログ・ボックスの「OK」をクリックして、システムを再始動します。

2 チャネルの IDE モードへの設定

- 1 「ThinkPad 機能設定」プログラムをオープンします。
- 2 「拡張ユニット」() ボタンをクリックします。
「拡張ユニット」ウィンドウが表示されます。

- 3** 「デバイス マネージャー」 ボタンをクリックします。
「システムのプロパティ」 ウィンドウが表示されます。
- 4** 「コンピュータ」 をクリックしてから、「プロパティ」 ボタンをクリックします。
- 5** 「リソースの表示」 タブの画面の現在の設定を確認して、IRQ 11 以外の選択可能な IRQ 値を決めます。使用可能な IRQ 値がない場合は、「デバイス マネージャー」 タブの画面で、現在は使用されていないデバイスの名前と、「削除」 ボタンをクリックして、該当のデバイスを削除します。
- 6** 「OK」 をクリックして、「システム プロパティ」 ウィンドウをクローズします。
- 7** 「拡張ユニット」 ウィンドウに戻って、「PCI ステアリング用 IRQ ホルダー」 タブをクリックします。
- 8** 「第 1 IRQ」 の IRQ 値をステップ 5 で決めた使用可能な値に変更します。
- 9** 「IDE デバイス」 タブをクリックします。
- 10** 「拡張ユニット中のウルトラベイ IDE デバイス」 リスト・ボックスの「使用する」を選択します。
サード IDE が自動的に選択されます。
- 11** 「IDE チャネル」 リスト・ボックスの「セカンド」を選択します。
- 12** 「警告」 ダイアログ・ボックスの「デバイスを使用不可にする」 ボタンをクリックします。
- 13** 「OK」 をクリックして、ダイアログ・ボックスをクローズします。
- 14** 「警告」 ダイアログ・ボックスの「OK」 をクリックして、システムを再起動します。

次の表にデバイスと IRQ 値の間の関係が示してあります。

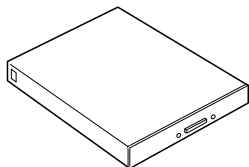
デバイス	2 チャンネルの IDE 省略時モード	3 チャンネルの IDE モード	2 チャンネルの IDE モード
ハードディスク ・ドライブ	IRQ 14、P-M	IRQ 14、P-M	IRQ 14、P-M
ウルトラベイ II	IRQ 15、S-M	IRQ 15、S-M	IRQ 14、P-S
拡張ユニット	使用不可	IRQ 11、T-M および T-S	IRQ 15、S-M および S-S

略語の意味：

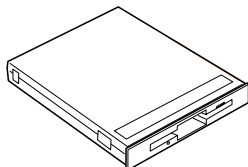
1. P-M: プライマリー - マスター
2. P-S: プライマリー - スレーブ
3. S-M: セカンダリー - マスター
4. S-S: セカンダリー - スレーブ
5. T-M: サード - マスター
6. T-S: サード - スレーブ

ウルトラベイ II デバイスの交換

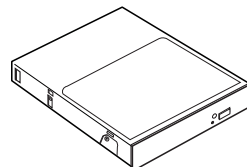
ウルトラベイ II には次のデバイスのどれかを取り付けることができます。



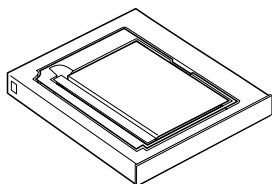
CD-ROM ドライブ



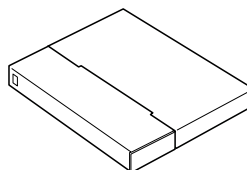
ディスクット・ドライブ



DVD ドライブ



セカンド・ハードディスク・ドライブ
(セカンド HDD アダプターが必要)



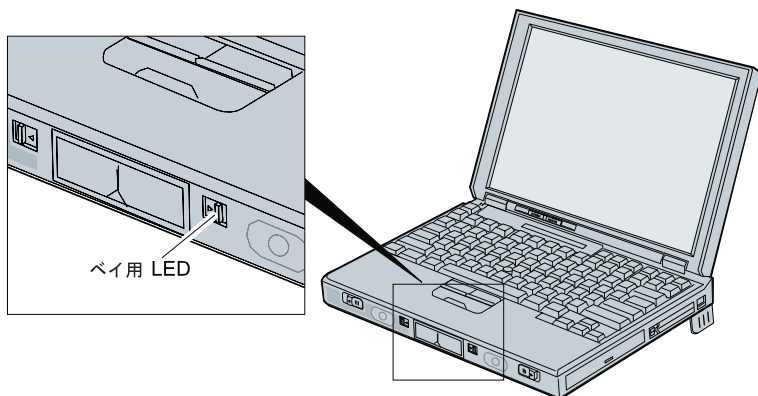
セカンド・バッテリー・パック
(バッテリー・アダプターが必要)

ホット・スワップおよびウォーム・スワップの機能

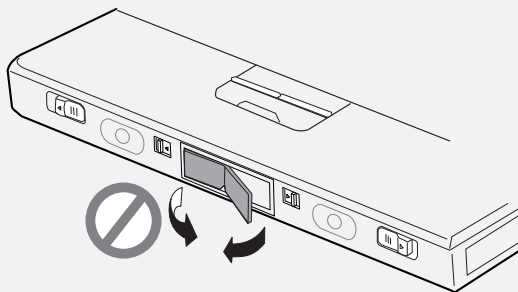
ThinkPad では、ウルトラベイ II 内のデバイスを動的に接続したり取り外したりすること (ホット・スワップまたは ウォーム・スワップ) ことができます。

- ホット・スワップとは、ThinkPad の電源をオンにした状態で、デバイスを交換することを意味します。
- ウォーム・スワップとは、ThinkPad がサスペンド・モードにあるときに、デバイスを交換することを意味します。
- コールド・スワップとは、ThinkPad の電源がオフになっているときに、デバイスを交換することを意味します。コールド・スワップはすべてのデバイスについてサポートされています。

ThinkPad には、ウルトラベイ II からデバイスを安全に取り外すことができるタイミングを示すベイ用 LED が備えられています。



- 内蔵モデムまたは PC カード・モデムを使用する通信中に、デバイスのホット・スワップを行うと、通信が停止する場合があります。したがって、通信を終了してからデバイスのホット・スワップを行ってください。
- 排出レバーは、両方を同時に使用することはできません。一方の排出レバーを開くときは、もう一方の排出レバーは必ず閉じておきます。



インジケータ の色	処置	ビープ音
緑	ウルトラベ II に対してデバイスの取り外しまたは取り付けを行うことができます。	ビープ音なし
緑点滅	取り外し中または取り付け中です。	ビープ音なし
黒 (オフ)	ウルトラベ II 内でデバイスが正常に作動しているか、またはウルトラベ II にデバイスはありません。	ビープ音なし
オレンジ点滅	<ul style="list-style-type: none"> デバイス (たとえば、ハードディスク・ドライブなど) が取り外されようとしていますが、ホット・スワップ機能も ウォーム・スワップ機能もサポートされていません。デバイスを取り外さないでください。ベイ排出レバーを押して戻します。 デバイス (たとえば、ハードディスク・ドライブなど) が取り付けられようとしていますが、ホット・スワップ機能も ウォーム・スワップ機能もサポートされていません。デバイスを取り付けしないでください。ベイ排出レバーを押して戻し、ThinkPad の電源をオフにしてから、デバイスを取り付けます。 	短いビープ音が 1 回鳴り、それに続いてビープ音が鳴り続ける
オレンジ	取り外し対象外であったはずのデバイス (たとえば、ハードディスク・ドライブなど) が取り外されました。ThinkPad が損傷するおそれがあります。	長いビープ音



ウルトラベ II のデバイスを交換したい場合に、ベイ排出レバーを開くと、メッセージが表示されます。ベイ LED が緑のままであり、ビープ音が鳴らないことを確認してから、デバイスの交換を行います。ベイ LED がオレンジ点滅の場合は、デバイスの交換を行わないようにします。

Windows 98 または Windows 95 の場合

ハードディスク・ドライブは、ホット・スワップ機能もウォーム・スワップ機能もサポートしません。

Windows NT の場合

ハードディスク・ドライブは、ホット・スワップ機能もウォーム・スワップ機能もサポートしません。さらに、CD-ROM ドライブは、ホット・スワップ機能をサポートしません。



IDE デバイス (CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブ) のホット・スワップおよびウォーム・スワップは、2 チャンネルの IDE モードではサポートされません。

デバイスの取り外しおよび交換

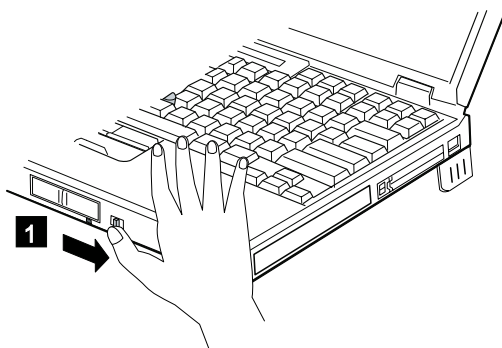
ウルトラベイ II からデバイスを取り外す場合は、次の手順を実行します。

- 1** 取り外し対象デバイスが CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブの場合は、ドライブの中に CD-ROM または DVD が入っていれば、それを取り出します。

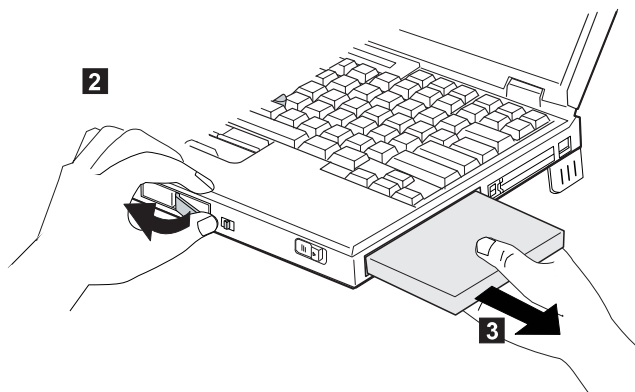
取り外し対象デバイスがディスクett・ドライブの場合は、ディスクett・ドライブにディスクettが入っていれば、それを取り出します。

- 2** ThinkPad の電源をオフにし、AC アダプターやケーブル類をすべて取り外します。

- 3** 右リリース・ラッチを右方にスライドさせます **1**。



4 ベイ排出レバーをゆっくり開き **2**、ベイからデバイスを取り出します **3**。



5 該当のオプションに付属の資料を参照して、別のデバイスをウルトラベイ II に取り付けます。

ウルトラベイ II の傾斜にデバイスの斜めになった端が合っていることを確認します。

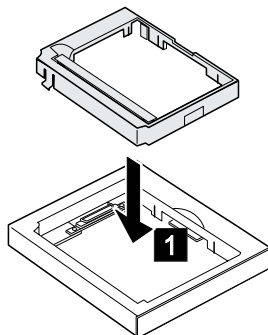


ThinkPad に付属のセキュリティーねじを使用すれば、他の人がデバイスを容易に開けられないようにができます。詳細情報 → 114ページの『セキュリティーねじの使用』。

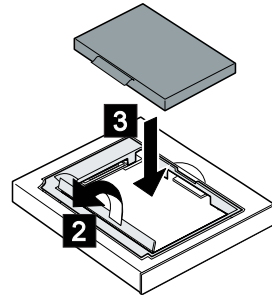
セカンド・ハードディスク・ドライブの取り付け

ウルトラベイ II にセカンド・ハードディスク・ドライブを取り付ける場合は、次の手順を実行します。

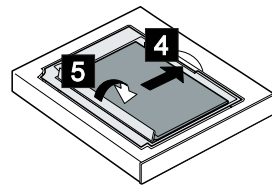
1 アダプター・コンポーネントをアダプターに取り付けます **1**。



2 ディスク・ストッパーを開き **2**、アダプター内にハードディスク・ドライブを取り付けます **3**。



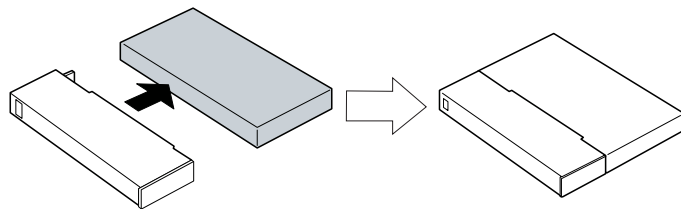
3 ハードディスク・ドライブを右側にスライドさせ **4**、ストッパーを閉じます **5**。



4 アダプターをウルトラベイ II 内に取り付けます。

セカンド・バッテリー・パックの取り付け

ウルトラベイ II にセカンド・バッテリー・パックを取り付ける場合は、その前にバッテリー・パックをアダプター・ケースに装着してから、ウルトラベイ II 内に差し込みます。





- メイン・バッテリーからセカンド・バッテリーへの切り替え手順：
 - 1 アダプター・ケースにバッテリー・パックを取り付けたセカンド・バッテリー・パックをウルトラベイ II 内に差し込みます。
 - 2 ベイ排出レバーがロックされていることを確認します。
 - 3 インジケーター・パネルで、放電中を示す記号 (▶) がメイン・バッテリー (1) アイコンからセカンド・バッテリー (2) アイコンに移るまで待ちます。

これで、バッテリー・ベイからメイン・バッテリーを取り外せるようになります。
- セカンド・バッテリーの交換または取り外しの手順：
 - 1 ウルトラベイ II のロックを解除します。
 - 2 放電中を示す記号 (▶) がセカンド・バッテリー (2) アイコンからメイン・バッテリー (1) アイコンに移るまで待ちます。これには数秒かかります。

これで、セカンド・バッテリーを取り外せるようになります。

記号が移動しない場合は、メイン・バッテリー (1) が充電されていないため、セカンド・バッテリーを取り外すことはできません。

デバイスの制限

デバイスの一部については、次のような制限があります。

- ディスケット・ドライブ：

ドライブ A が外付けディスク・ドライブに割り当てられている場合は、ウルトラベイ II のディスク・ドライブのホット・スワップはできません。この場合の外付けディスク・ドライブとは、ThinkPad 本体またはセレクトベース 770 (ポート・リプリケーター機能) の外付けディスク・ドライブ・コネクタに接続されているディスク・ドライブ、または拡張ユニットに取り付けられているディスク・ドライブを意味します。

この制限は、次の場合に適用されます。

 - 外付けディスク・ドライブが接続され、ウルトラベイ II 内にディスク・ドライブがない状態で、ThinkPad が起動した場合。
 - PS2.EXE を使用して FDD の設定値を「外付け」に設定し、内蔵ディスク・ドライブを (ウルトラベイ II 内に) 取り付けず、外付けディスク・ドライブも接続しない状態で、ThinkPad を始動した場合。

重要

DVD ドライブまたは CD-ROM ドライブのホット・スワップまたはウォーム・スワップを行う場合は、ドライブが回転を停止していることを確認してください。

- その他の **IDE** デバイス：
 - ハードディスク・ドライブ：
ホット・スワップおよびウォーム・スワップの機能は使用できません。
 - **CD-ROM** ドライブおよび **DVD** ドライブ：
2 チャンネルの IDE モードでは、ホット・スワップおよびウォーム・スワップの機能は使用できません。87 ページの表を参照してください。
 - バッテリー・パック：
システムがセカンド・バッテリーで作動しているときは、ウルトラベイ II からのセカンド・バッテリーのホット・スワップを行わないようにしてください。電源がオフになる可能性があります。ウルトラベイ II 内にセカンド・バッテリーを取り付けていて、次の状態のときに、電源がオフになる可能性があります。
 - AC アダプターが接続されておらず、メイン・バッテリーもない。
 - AC アダプターが接続されておらず、メイン・バッテリーの残量が少ない。
- ご使用の ThinkPad がセカンド・バッテリー電源で作動しているかどうか確認する場合は、インジケーター・パネルのバッテリー状況インジケーターを調べます。

本章では、ThinkPad の盗難または不正使用を防ぐ方法について説明します。また、名前、住所などのパーソナル・データをパスワード・プロンプト画面に表示する方法についても記述します。

パスワードの使用	98
パスワードの入力	99
パスワードの設定	100
パスワードの変更または消去	102
始動パスワードおよびハードディスク・ドライブ・パスワードの場合	102
スーパーバイザー・パスワードの場合	104
スーパーバイザー権限による始動パスワードの消去	107
パーソナライゼーション・エディターの使用	109
パーソナル・データの入力	109
パーソナル・データの削除	112
ロック機能の使用	113
セキュリティーねじの使用	114

パスワードの使用

ThinkPad には、使用許可を受けていない人が勝手にアクセスできないようパスワード設定機能が付いています。パスワードを設定すると、ThinkPad の電源をオンにするたびに、画面にプロンプトが表示されます。パスワードを入力しなければなりません。正しいパスワードが入力されないと、ThinkPad を使うことはできません。

ThinkPad には、次のパスワードを設定することができます。

- 始動パスワード
始動パスワードは、使用許可を受けていない人が勝手に ThinkPad を使うのを防ぐためのものです。始動パスワードは、始動時とサスペンド・モードからの通常の操作状態に戻るときに必要です。
- ハードディスク・ドライブ・パスワード
ハードディスク・ドライブ・パスワードは、セキュリティ機能の追加機能です。たとえ始動パスワードを設定していたとしても、その ThinkPad のハードディスク・ドライブを取り外し、別の ThinkPad に取り付ければ、ハードディスク内のデータにアクセスすることができます。しかし、ハードディスク・ドライブ・パスワードを設定していれば、そのパスワードを知らない人は、ハードディスク・ドライブ上のデータにアクセスできなくなります。ハードディスク・ドライブ・パスワードには次のセキュリティ機能があります。
 - 始動時にハードディスク・ドライブ・パスワードを入力する必要があります。
 - ハードディスク・ドライブが他の ThinkPad に移動されていても、ハードディスク・ドライブ・パスワードを始動時に入力しなければなりません。そのため、たとえハードディスク・ドライブが ThinkPad から取り外されても、使用許可を受けていない人はハードディスクにアクセスできないこととなります。
 - スーパーバイザー・パスワードを設定していない場合は、ThinkPad がサスペンド・モードから通常の操作状態に戻るときにハードディスク・ドライブ・パスワードが必要となります。
- スーパーバイザー・パスワード
スーパーバイザー・パスワードはシステム管理者用のツールで、多くの ThinkPad を管理するために使われます。スーパーバイザー・パスワードはシステム管理者によって設定されるものであり、ユーザーには必要ありません。ユーザーは、スーパーバイザー・パスワードを知らなくても ThinkPad を起動することができます。ただし、Easy-Setup にアクセスするときだけは、スーパ

ーバイザー・パスワードが必要です。このパスワードには次のセキュリティー機能があります。

- － システム管理者のみが Easy-Setup にアクセスできます。スーパーバイザー・パスワードが設定されていると、Easy-Setup を始動しようとするたびにパスワード・プロンプトが表示されます。
 - － スーパーバイザー・パスワードと同時に、使用許可を受けていない人からデータを保護するために始動パスワードを使うことができます。
 - － たとえ始動パスワードが設定されている ThinkPad であっても、システム管理者であればスーパーバイザー・パスワードを使ってその ThinkPad にアクセスできます。スーパーバイザー・パスワードが始動パスワードよりも優先されるからです。
 - － スーパーバイザー・パスワードは、ハードディスク・ドライブ・パスワードとして上書きされます。ハードディスクをスーパーバイザー・パスワードで保護し、使用許可を受けていない人がハードディスク内のデータにアクセスできないようにすることができます。
 - － システム管理者は、同一のスーパーバイザー・パスワードを複数の ThinkPad に設定し、管理しやすくすることができます。
- その他のパスワード
 - 「ThinkPad 機能設定」プログラムの「省電力」アイコンをクリックし、「詳細」タブを選択します。「スタンバイ状態から回復するときにパスワードの入力を求める」チェックボックスにチェック・マークを付けると、サスペンド・モードからレジュームする場合は、Windows 98 ログオン・パスワードを使用する必要があります。
 - 一部の Microsoft のオペレーティング・システムでは、独自の Windows 用パスワードを提供しています。これらのパスワードの設定方法、変更方法、使用方法については、オペレーティング・システムのユーザーズ・ガイドを参照してください。

パスワードの入力

パスワードを設定すると、画面の左上隅にパスワード・プロンプトが表示されます。このプロンプトは、ThinkPad の電源をオンにするたびに、またはサスペンド・モードから通常の操作状態に戻るたびに表示されます。

ただし、ThinkPad が設定されているタイマーまたはモデム着信による呼び出しによって通常の操作状態に戻る場合は、パスワード・プロンプトは表示されません。パ

スワード・プロンプトを表示させるには、任意のキーを押すか、ポインティング・デバイスを動かしてください。

パスワードを入力する手順は、次のとおりです。

1 パスワードを入力します。

キーを押すたびに“•”の記号が表示されます。パスワードを入力するときは指をキーからすばやく離してください。1つのキーを長く押し続けると、同じ文字が繰り返し入力されてしまいます。

2 **Enter** キーを押します。

正しいパスワードを入力すると「OK」が表示され、誤ったパスワードを入力すると「X」が表示されます。正しいパスワードの入力を3回間違えた場合は、ThinkPadの電源をオフにし、5秒以上待ってから電源をオンにして再度入力します。

パスワードの設定

パスワードを設定する手順は、次のとおりです。

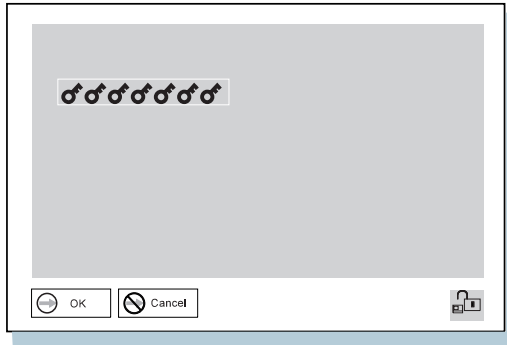
1 Easy-Setup を始動します。

- a) **F1** キーを押しながら、ThinkPad の電源をオンにします。
- b) 「Easy-Setup」メニューが表示されるまで **F1** キーを押し続けます。

2 「Easy-Setup」メニューの「**Password**」アイコンをクリックします。「パスワード」サブメニューの詳細 → 17ページの『Easy-Setup』

3 「**Power-On**」（始動）、「**HDD**」（ハードディスク）または「**Supervisor**」（スーパーバイザー）のうち、設定したいパスワードのアイコンをクリックします。

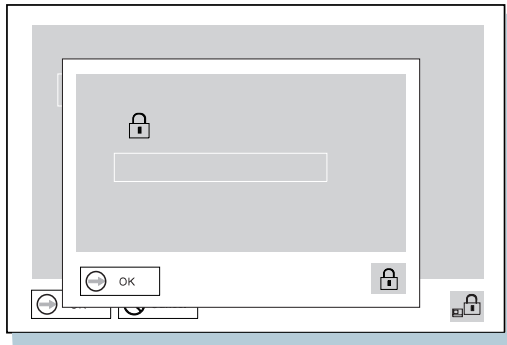
4 任意のパスワードを入力します。



英字 (A~Z) と数字 (0~9) を組み合わせて、7 文字以内の任意の文字を使用できます。大文字と小文字 (たとえば A と a) は、同じ文字として扱われま

す。
パスワードを誤って入力してしまった場合は、**Backspace** キーを使用して消去し、パスワードを正しく入力し直してください。

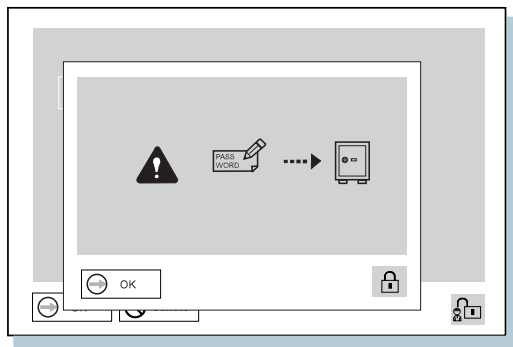
5 **Enter** キーを押します。次のパスワード確認用のウィンドウが表示されます。



6 確認のため、もう一度パスワードを入力し、**Enter** キーを押します。



ハードディスク・ドライブ・パスワードまたはスーパーバイザー・パスワードを設定した場合は、次のようなウィンドウが表示されます。これは、パスワードをメモして安全な場所に保管しておくことを指示するものです。



これで、パスワードが設定されました。



パスワードを忘れないでください。

ハードディスク・ドライブ・パスワードやスーパーバイザー・パスワードを忘れた場合、パスワードを再設定することも、ハードディスクからデータを復元することもできません。IBM 特約店または IBM 販売店に ThinkPad をお持ちいただき、ハードディスクまたはシステム・ボードを交換していただくこととなります。このサービスを受けるには、購入を証明するものが必要であり、有料になります。IBM 代理店や IBM 営業担当員でも、ハードディスク・ドライブを使用可能にすることはできません。

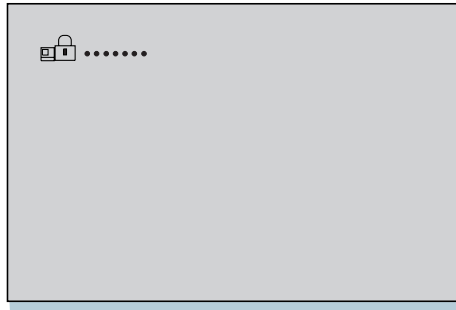
パスワードの変更または消去

この機密保護機能は、他人が勝手にパスワードを消去し、ThinkPad を使用することを防いでいます。パスワードを変更または消去する手順は、次のとおりです。

始動パスワードおよびハードディスク・ドライブ・パスワードの場合

- 1 ThinkPad の電源をオフにし、5 秒以上待ってからもう一度オンにします。
パスワード・プロンプトが表示されます。

2 現在のパスワードを入力します。

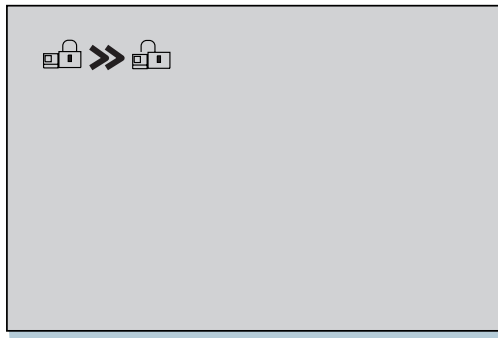


3 **スペース** キーを押します。

パスワードを変更する場合は、ステップ 4 に進みます。

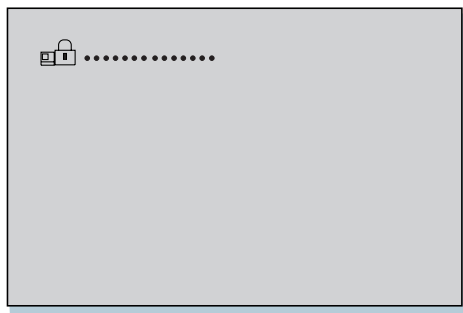
パスワードを消去する場合は、**Enter** キーを押します。

次のウィンドウが表示され、システムが再起動します。

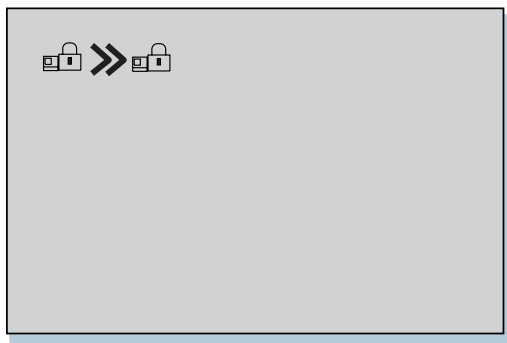


これで、パスワードは消去されました。残りのステップは省略してください。

- 4** パスワードを変更する場合は、新しいパスワードを入力してから、**スペース** キーを押します。



- 5** 確認のため、もう一度新しいパスワードを入力し、**Enter** キーを押します。
次のウィンドウが表示され、システムが再起動します。

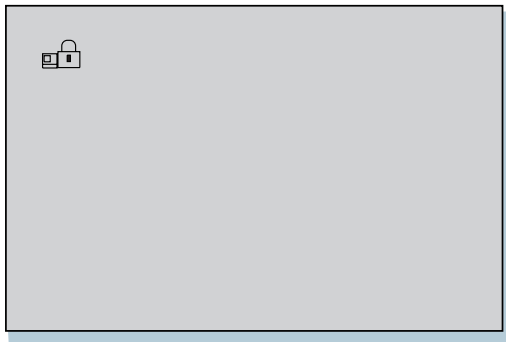


パスワードはメモし、安全な場所に保管しておいてください。

これで、パスワードが変更されました。

スーパーバイザー・パスワードの場合

- 1** Easy-Setup を始動します。
- a) **F1** キーを押しながら、ThinkPad の電源をオンにします。
 - b) パスワード・プロンプトが表示されるまで、**F1** キーを押し続けます。



2 スーパーバイザー・パスワードを入力します。

「Easy-Setup」メニューが表示されます。

3 メニューの「**Password**」を選択します。

4 「**Supervisor**」を選択します。

パスワードを変更する場合は、ステップ 8 に進みます。

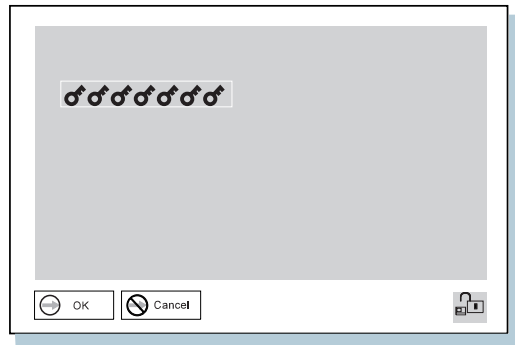
5 パスワードを消去する場合は、現在のパスワードを入力してから、**スペース** キーを押します。

6 **Enter** キーを 2 回押します。

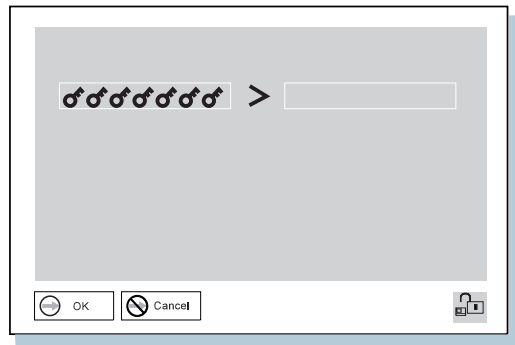
7 「**Exit**」をクリックし、次に「**Restart**」をクリックします。

これで、スーパーバイザー・パスワードは消去されました。ThinkPad が再起動します。残りのステップは省略してください。

8 現在のパスワードを入力してから、**スペース** キーを押します。



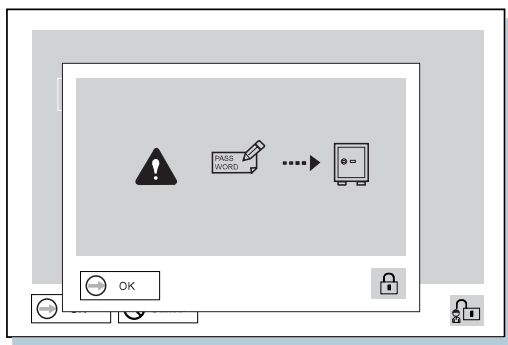
9 新しいパスワードを入力してから、**Enter** キーを押します。



10 確認のため、もう一度新しいパスワードを入力し、**Enter** キーを押します。



次のようなウィンドウが表示されます。これは、パスワードをメモして安全な場所に保管しておくことを指示するものです。



11 もう一度 **Enter** キーを押します。

12 「Exit」をクリックし、次に「Restart」をクリックします。

これで、スーパーバイザー・パスワードは変更されました。ThinkPad が再起動します。

スーパーバイザー権限による始動パスワードの消去

スーパーバイザー・パスワードを知っていれば、(始動パスワードを知らなくても) 始動パスワードを消去することができます。

1 **F1** キーを押しながら、ThinkPad の電源をオンにします。

パスワード・プロンプトが表示されます。

2 スーパーバイザー・パスワードを入力します。

「Easy-Setup」メニューが表示されます。

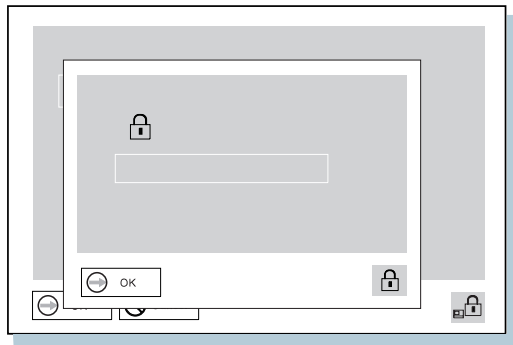
3 メニューの「Password」を選択します。

4 メニューの「Power on」を選択します。

5 スーパーバイザー・パスワードを入力してから、**スペース** キーを押します。

6 **Enter** キーを押します。

「パスワード確認」ウィンドウが表示されます。



7 もう一度 **Enter** キーを押します。

8 「Exit」をクリックし、次に「Restart」をクリックします。

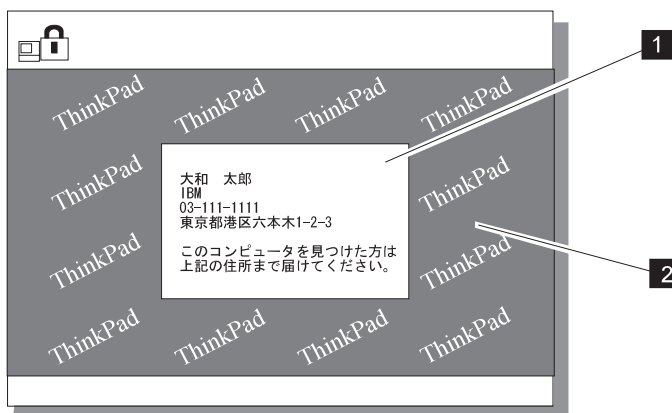
ThinkPad が再起動します。これで、始動パスワードは消去されました。

パーソナライゼーション・エディターの使用

パーソナライゼーション・エディターを使うと、ThinkPad の電源をオンにするたびに、名前や住所などの個人情報を表示できます。この機能は、複数の ThinkPad が使用されている場所で個々の ThinkPad を識別したり、盗難から防止するのに役立ちます。

パーソナル・データの入力

パーソナライゼーション機能によるパスワード・プロンプト画面には、パーソナル・データ領域 **1** と背景のビットマップ領域 **2** の 2 つの領域があります。



「パーソナライゼーション・エディター」で名前、住所、および会社名を登録する手順は、次のとおりです。



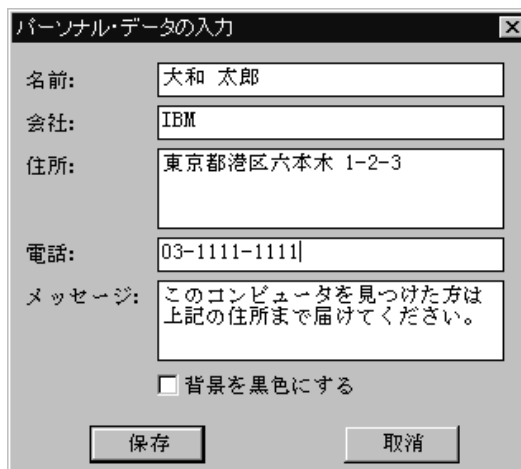
この情報を表示するには、始動パスワードをあらかじめ設定しておく必要があります。

- 1 ThinkPad の電源をオンにします。
- 2 ディスケット・ファクトリーを使って、「ユーティリティー・ディスク (DOS、パーソナライゼーション)」を作成します。(詳細情報
→ 34ページの『ソフトウェアの再設定』)
- 3 「ユーティリティー・ディスク (DOS、パーソナライゼーション)」をディスク・ドライブに入れます。
- 4 次の手順で、「パーソナライゼーション・エディター」をオープンします。
 - a) 「スタート」ボタンをクリックします。
 - b) マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、「パーソナライゼーション・エディター」をクリックします。

次のウィンドウが表示されます。



- 5 「パーソナル・データ」をクリックし、ボックス内に必要な情報を入力します。「OK」をクリックして、データを保管します。



背景のビットマップを変更する場合は、ステップ 6 に進みます。変更しない場合は、ステップ 10 (112ページ) に進みます。

- 6 「パーソナライゼーション・エディター」ウィンドウで「背景」を選択します。

Windows の「ペイント」が自動的にオープンします。

- 7 イメージを作成したり、背景に色を付けたりします。

ビットマップ・サイズは、160x100 ピクセルにしてください。サイズを変更するには、「変形」を選択してから、「キャンパスの色とサイズ」を選択します。「幅」を 160 に、「高さ」を 100 に、「単位」をピクセルに指定し、「OK」を押します。

- 8 「ファイル」から「名前を付けて保存」を選択し、作成した図形を「ユーティリティ・ディスク (DOS、パーソナライゼーション)」に、ファイルの種類を 16 色のビットマップに指定して保存します。



画面の全画面の大きさを確認したい場合は、「プレビュー」を選択してください。

- 9** **Enter** キーを押して、直前のウィンドウに戻ります。
- 10** システムを終了させ、ThinkPad の電源をオフにします。
- 11** 「ユーティリティー・ディスクレット (DOS、パーソナライゼーション)」をディスクレット・ドライブに入れ、ThinkPad の電源をオンにします。
- 12** 「メイン・メニュー」画面で「パーソナライゼーション・データの更新」を選択し、画面の指示に従います。
これで設定したパーソナル・データは「ユーティリティー・ディスクレット (DOS、パーソナライゼーション)」から ThinkPad の不揮発性メモリーに格納されます。
- 13** データを保管したら、ThinkPad の電源をオフにします。
- 14** パスワードが設定されていない場合は、設定してください。
詳細については、「ヘルプ」をクリックしてください。

入力した情報は、次に ThinkPad の電源をオンにしたときから表示されます。

パーソナル・データの削除

パーソナル・データを削除し、初期値のパスワード・プロンプトに戻す手順は、次のとおりです。

- 1** ThinkPad の電源をオフにします。
- 2** 「ユーティリティー・ディスクレット (DOS、パーソナライゼーション)」のバックアップ・コピーをディスクレット・ドライブに入れ、ThinkPad の電源をオンにします。
- 3** 「メイン・メニュー」画面で「パーソナライゼーション・データの削除」を選択し、画面の指示に従います。
- 4** データを更新したら、ThinkPad を再起動します。

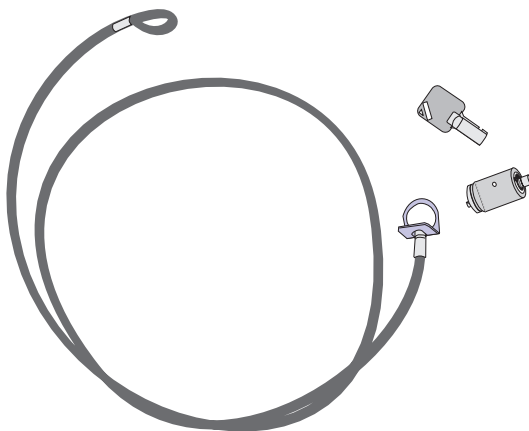
ロック機能の使用

ThinkPad の不正使用防止のため、ThinkPad に市販のセキュリティー・システム・ロックを取り付けることができます (セキュリティー・システム・ロックは付属していません。ThinkPad に対応したものをご用意ください)。

ロックの鎖を安全で動かない物体に固定し、次にセキュリティー・システム・ロックを ThinkPad のキーホールにつなぎます。セキュリティー・システム・ロックに付属の説明書を参照してください。

キーホールの位置の説明

→ 4 ページ。



セキュリティー・システム・ロック装置とセキュリティー機能の評価、選択、実装は、お客さまの責任で行っていただきます。IBM では、その機能性、品質、性能についての言及、評価、保証は行いません。

セキュリティーねじの使用

ThinkPad に付属のセキュリティーねじを使用して、ハードディスク・ドライブなどのデバイスを簡単に取り外せないようにすることができます。



セキュリティーねじ

コイン型ねじをセキュリティーねじに取り替える手順は、次のとおりです。

- 1** ThinkPad の電源をオフにしてから、AC アダプターやケーブル類をすべて ThinkPad から取り外します。
- 2** コインを用いてコイン型ねじを取り外し、セキュリティーねじを取り付け、2.5 mm の六角レンチで締めます (六角レンチは付属していません。別途ご用意ください)。
- 3** AC アダプターを接続し、ThinkPad の電源をオンにします。

ヒントおよび制限事項	117
ハードディスク・ドライブの使用	124
拡張ユニットの使用	125
拡張ユニットへのホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキング (Windows 95 および Windows 98 の場合のみ)	125
拡張ユニットでの PC カードの使用	125
汎用シリアル・バス (USB) コネクタの使用	125
DVD ドライブの使用	126
PC カードの使用	126
2 枚目の CardBus カードの使用	127
マイクロホンの使用	127
問題判別ガイド	129
問題判別表	130
エラー・コードまたは画面上のメッセージ	132
エラー・コードまたは画面上のメッセージで表示されない問題	139
入力装置の問題	139
サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードの問題	141
液晶ディスプレイ (LCD) の問題	144
インジケータの問題	145
バッテリーの問題	145
ハードディスク・ドライブの問題	146
CD-ROM ドライブの問題	147
DVD ドライブの問題	148
赤外線通信の問題	149
キャプチャー・ドライバーまたは MPEG の問題	151
オーディオまたは電話機能の問題	151
汎用シリアル・バス (USB) の問題	152
PC カードまたは内蔵モデムの問題	153
その他の PC カードの問題	154
拡張ユニットまたはセクタベースの問題	158
プリンターの問題	159
外付けディスプレイの問題	160
TV の問題	163
その他のオプションの問題	163

ソフトウェアの問題	165
その他の問題	166
ThinkPad のテスト	167

ヒントおよび制限事項

ここではヒントおよび制限事項について説明します。



Windows 98 の場合 :

- Windows 98 では、サスペンド・モードに入る時間および通常の操作に戻る時間が、Windows 95 の場合よりも長くかかります。このパフォーマンスの差は、Windows 98 の設計によるものであり、ThinkPad の設計によるものではありません。
- 本書には、スタンバイ・モード、サスペンド・モード、およびハイバネーション・モードの3つのパワー・モードについて説明してあります。これらのモードに入る場合は、それぞれ次のキーの組み合わせを使用します。

- **Fn** + **F3** スタンバイ・モード
- **Fn** + **F4** サスペンド・モード
- **Fn** + **F12** ハイバネーション・モード

ThinkPad は、上記以外の方法でもサスペンド・モードまたはハイバネーション・モードに入ることができます。たとえば、「**Windows 98**」の画面の左下にある「スタート」ボタンをクリックして、「**Windows** の終了」メニューで「スタンバイ」を選択しても、サスペンド・モードに入ることができます。また、「省電力のプロパティ」ウィンドウで「システム・スタンバイ・タイマー」を設定して、サスペンド・モードに入る場合のタイムアウトを指定することもできます。



Windows 98 の画面の「スタンバイ」という用語は、本書で使用されている「スタンバイ・モード」という用語とは意味が異なります。

詳細情報 ➔ [ステップ・アップ・ガイド](#)



Windows 95 の場合 :

- ウルトラベイ II へのドライブの取り付け時に、CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブのプロパティ設定値のため、「ThinkPad 機能設定」プログラム内で指定したタイムアウト期間の終了後も、サスペンド・モードまたはハイバネ

ーション・モードに入れない場合があります。サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードを使用する場合は、次の手順に従って CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブのプロパティを変更してください。

1. 「スタート」ボタンをクリックしてから、マウス・ポインターを、「設定」、「コントロール パネル」の順に移動します。その後、「コントロール パネル」をクリックします。
2. 「システム」をダブルクリックします。
3. 「デバイス マネージャ」タブをクリックし、「**CD-ROM**」をダブルクリックします。
4. 「**CD-ROM**」の下の CD-ROM ドライブ名または DVD-ROM ドライブ名をクリックしてから、「プロパティ」ボタンをクリックします。
5. 「設定」タブをクリックし、「オプション」の中の「自動挿入」のチェック・ボックスをクリックして、チェック・マークを外します。
6. 「OK」をクリックして、ThinkPad を再起動します。



Windows NT の場合：

- Windows NT 4.0 の場合、ドライブが NTFS 形式でフォーマットされていると、ハイバネーション・モードはサポートされません。
- PC カードを PC カード・スロットに差し込んだ場合は、「コントロール パネル」の「PC カード[PCMCIA]デバイス」ウィンドウのカード情報のリストに「X」マークが付いていることがあります。ただし、「X」がいずれかの機能に影響することはありません。
- Windows NT 4.0 で MPEG を使用する場合は、以下の制限について考慮します。
 - サード・パーティー作成のマルチメディア・プレーヤー・アプリケーションや Windows NT 用に個人で作成したプレーヤー・アプリケーションは、必ずしもこのドライバーで作動すると保証されていません。テストおよび検証が済んでいるのは、「メディア・プレーヤー」アプリケーション (mplay32.exe) だけです。
 - Windows NT 4.0 サービス・パック 3 に含まれている「Active Movie」と「Internet Explorer 3.01」をすでにインストール済みの場合は、MPEG-2 ドライバーをインストールして、Windows NT 4.0 を再起動すると、次の「注意」が表示されます。

注意

通常は ActiveMovie に関連するファイル・タイプの一部が、現在は他のプログラムに関連付けられています。そのため、一部のマルチメディア・ファイルの再生ができない可能性があります。これを修正しますか (ActiveMovie にファイル・タイプを復元して) ?

「いいえ」を選択し、「次回からはこの質問を表示しない」をクリックします。

- 同じビデオ・ハードウェアを共用する複数のビデオ・アプリケーションを実行することはできません。たとえば、MPEG ファイルの再生中は、ビデオ・キャプチャー・アプリケーションは機能しません。また、MPEG メディア・プレーヤー・アプリケーションの実行中は、ActiveMovie を再生することはできません (ビデオ・キャプチャーを行うには、オプションの DVD 拡張ビデオ・アダプターが必要です)。

- ビデオ画面は、外付けディスプレイ (CRT) や、NTSC または PAL カラー規格の TV に表示することができます。

ただし、以下についてはサポートされていません。

- 47/87 のリフレッシュ・レートのすべての解像度と色数
 - すべてのリフレッシュ・レートでの解像度 800x600 かつ色数 約 1,677 万色 (ビデオ・メモリーの制限による)
 - すべてのリフレッシュ・レートでの解像度 1600x1200 かつすべての色数 (ビデオ・メモリーの制限による)
 - すべての解像度またはリフレッシュ・レートでの色数 16 色
- メディア・プレーヤーで MPEG ファイルを実行している間は、サスペンド機能およびレジューム機能はサポートされません。サスペンド・モードに入る場合は、その前に再生を一時停止するか停止する必要があります。
- Windows NT の「CD プレーヤー」アプリケーションを使用して、DVD ドライブで音楽用 CD を再生している間に、サスペンド・モードに入った場合は、通常の操作に戻ったあと、「CD プレーヤー」ウィンドウに「**No disc**」と表示されます。これは、APM モードをサポートしないからです。回復処置としては、「CD プレーヤー」ウィンドウをいったんクローズしてから、再度オープンします。これで音楽用 CD が再生できます。
 - Windows NT 4.0 で ビデオ・キャプチャーを使用する場合は、次の制限について考慮します (ビデオ・キャプチャーを行うには、オプションの DVD 拡張ビデオ・アダプターが必要です)。

- Windows NT の色数の変更は、キャプチャーされたデータ (レビューやオーバーレー) に影響します。色数を変更する場合は、その前にビデオ・キャプチャー・アプリケーションをクローズし、次にそのアプリケーションを再起動します。
- ビデオ・キャプチャー・ドライバーには、ThinkPad 省電力機能ポート・ドライバーのクライアントとして、省電力機能サポートがあります。ただし、「ThinkPad 機能設定」プログラムをインストールしておく必要があります。インストールしていないと、ハードウェアの電源状態が変更されても、省電力機能ポート・ドライバーが正しく機能しません。キャプチャーされたイメージが正しく表示されない場合は、キャプチャー・アプリケーションを再起動します。
- このドライバーを使用するキャプチャー・アプリケーションを実行するには、実行する前に IBM MPEG-2 ドライバーを使用するアプリケーション (たとえば、メディア・プレーヤーなど) をすべてクローズします。また、キャプチャー・アプリケーションが実行中の場合は、IBM MPEG-2 ドライバーを使用するアプリケーションや、キャプチャー・ドライバーを使用するその他のアプリケーションは、いずれも始動しないようにします。
- レビュー・モードでは、ビデオ・メモリー内で使用可能なスペースに応じて、イメージ寸法を選択することができます。オーバーレー・モードでは、すべてのサイズ (40x30 ~ 640x480) から選択することができます。
VIDCAP32.EXE ビデオ・キャプチャー・アプリケーションを使用するときは、次の点に注意してください。
 - スクロール・バーが見えるように、キャプチャー表示ウィンドウのサイズを決め、キャプチャー形式を設定します。スクロール・バーは、縦方向スクロール・バーの最上部および横方向スクロール・バーの左以外の任意の位置に設定します。次に、表示ウィンドウをサイズ変更するか、キャプチャー形式を変更して、スクロール・バーが見えなくなるようにします。これで、キャプチャーされたイメージは縦方向と横方向のどちらかに分割されて表示されますが、これは、スクロール・バーが見えなくなっても、VIDCAP32.EXE がスクロール・バーの設定をドライバーの設定値を知らせるためです。元に戻すには、表示ウィンドウのサイズを変更するか、キャプチャー形式を変更して、スクロール・バーが再度見えるようにした上で、スクロール・バーを再設定します。
 - オーバーレーのサイズには、レビュー用にサポートされている最大値よりも大きなサイズを選択してください。こうして選択されたサイズはレビューには使用できないことを知らせるダイアログ・ボックスが、ドライバーによって表示されます。レビュー・モードを同じサイズに変更すると、表示されるイメージがゆがんだり、マウス・ポインターが

くずれる可能性があります。この問題を解決するには、ビデオ形式ダイアログを使用して、有効なサイズを選択します。くずれたマウス・ポインターを回復するには、マウス・ポインターを画面の下にドラッグします。VIDCAP32.EXE では、プリビューとオーバーレーが両方とも同一サイズでサポートされていることを前提とします。したがって、アプリケーションがオーバーレー・モードである場合に、有効なサイズを選択しないで、プリビュー・モードを選択すると、ドライバーに、同一サイズでのプリビューが必要であることが通知されます。ただし、このサイズのイメージは、フレーム・バッファでキャプチャーされないため、キャプチャーされたイメージがゆがんで見えたり、マウス・ポインターのイメージも影響を受けたりします。この問題は、デジタル・ビデオ・プロデューサーを使用する場合にも発生します。

- このドライバーには、YUV422 ビデオ圧縮 CODEC を使用する必要があるプリビューおよびキャプチャー・モードのアプリケーションに必要な、YUV422 ビデオ CODEC が用意されていません。したがって、Windows NT 4.0 CD-ROM に入っている YUV422 CODEC をインストールします。YUV422 CODEC、Windows NT 4.0 CD-ROM 上の Drvlib\Capture\1386 ディレクトリに入っています。
- オーバーレー・モードは、次の解像度、色数、リフレッシュ・レートの組み合わせについては、サポートされません。
 - 1024x768x256 色、43 Hz
 - 1024x768x256 色、87 Hz
 - 1024x768x65,536 色、43 Hz
 - 1024x768x65,536 色、87 Hz
 - 1024x1024x256 色、43 Hz
 - 1280x1024x256 色、87 Hz
 - 1600x1200x256 色、48 Hz
- ThinkPad に TV を外付けで接続した場合は、ビデオ・キャプチャーは機能しません。表示先が外付けディスプレイまたは LCD のどちらかである場合でのみビデオ・キャプチャーが機能します。
- ビデオ・キャプチャー・アプリケーションの実行中は、表示先を変更することはできません。

Windows 3.1 の場合：



- メモリー不足またはメモリー・エラーが発生した場合は、次のようにしてください。
 1. CONFIG.SYS ファイルから不要なドライバーを削除します (たとえば、プリンターを使用していない場合は、プリンター・ドライバーを削除します)。
 2. DEVICEHIGH 構文を使って、UMB (アッパー・メモリー・ブロック) を再構成します。
 3. DOS の複数 CONFIG 機能を使用します (DOS に付属の説明書を参照)。
DOS コマンドの MEM /C を使って、DOS のメモリー使用状況を定期的に調べます。
- 256 MB を超えるメモリーを取り付けている場合は、SYSTEM.INI ファイルの [386Enh] セクションを確認し、次のどちらかを実行します。
 - PageOverCommit 行がファイルにある場合は、その値が 3 であるかどうか確認します (3 でない場合は、3 に変更します)。
 - PageOverCommit 行がファイルにない場合は、PageOverCommit=3 を追加します。



PageOverCommit 値が 2 または 1 である可能性があります。

この値を変更または追加したら、Windows 3.1 を終了し、ThinkPad の電源をオフにします。その後 5 秒以上待ってから、ThinkPad の電源を再度オンにします。

PageOverCommit 値の詳細情報 → Windows 3.1 の資料



OS/2 Warp の場合：

- HPFS (ハイパフォーマンス・ファイル・システム) 形式を使ってドライブをフォーマットし、システムに合計 64 MB を超えるメモリーが装備されている場合、ハイパネーション・モードはサポートされません。

- 「ThinkPad 機能設定」プログラムを使って COM ポートを正しく設定したにもかかわらず COM ポートが作動しない場合は、次の手順に従ってください。
 1. 「システム設定」をオープンします。
 2. 「ハードウェア・マネージャ」を選択します。
 3. メニューからフォルダーを選択します。
 4. 「プロパティ」を選択します。
 5. 省略時のプルダウン・メニューから「ハードウェアを検出しない」を選択します。選択済みである場合は、設定値を変更します。
 6. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。
 7. COM ポートを希望の値に設定します。
 8. ThinkPad を再起動します。
- 着信 FAX またはメールを受信する場合は、FAX アプリケーションのモデム設定値を次のどれかに設定する必要があります。
 - ハードウェア FIFO 使用可能
 - ハードウェア・フロー制御オン
 - UART 16550A モデム

たとえば、OS/2 FaxWorks では、「ユーティリティー」、「設定」、「モデム・タイプ」、および「**HW FIFO (16550A)** を使用」の順で選択します。

これらの設定値のどれかにモデムを設定していない場合は、サスペンド・モードで FAX や着信呼び出しを受けることができません。

- OS/2 用の PC カード・デバイス・ドライバーがなくても DOS 用の PC カード・デバイス・ドライバーがあれば、その PC カードは VDM (仮想 DOS マシン) 環境で使用できることがあります。



DOS の場合：

- メモリー不足またはメモリー・エラーが発生した場合は、次のようにしてください。
 1. Windows 3.1 に対する処置と同じ処置を試みます。
 2. WIN.INI ファイルから不必要なプログラムを削除します (たとえば、AC 動作のための FUELWIN など)。
- DOS 用の「ThinkPad 機能設定」プログラムは、DOS プロンプトから使用します。

DOS プロンプトに PS2 ? と入力すると、「ThinkPad 機能設定」のオンライン・ヘルプ画面が表示されます。

```
C:¥>PS2 ?  
  
(C) Copyright IBM Corp. 1993,1998. All rights reserved.  
US Government Users Restricted Rights - Use, duplication  
or disclosure restricted by GSA ADP Schedule Contract  
with IBM Corp.  
  
構文: PS2 [Parameter1] [Parameter2] [パラメーター3]  
  
[Parameter1]のリストを以下に示します。  
‘PS2 ? [Parameter]’とタイプすると、パラメーターの詳しい説明が表示されます。  
  
1.省電力関係
```

次のようなバッチ・ファイルを作成して、自分の操作環境に合わせることもできます。次のバッチ・ファイルの例では、バッテリー動作時間が長くなるように設定しています。

```
@Echo Off  
  
Rem サンプル:バッテリー使用時間を長くするためのパラメーターの設定。  
  
Rem =====  
  
PS2 PMode Custom DC > Nu1  
PS2 LCd 3 > Nu1  
PS2 DISK 3 > Nu1  
PS2 P0wer 5 > Nu1  
PS2 SPeed Fixed Slow > Nu1  
PS2 IR Disable > Nu1  
PS2 SErial Off > Nu1
```

ハードディスク・ドライブの使用

Windows 3.1 または DOS 環境で使用できるハードディスク容量は、最大でも 7.9 GB までです。容量がそれよりも大きいハードディスク・ドライブを取り付けても、すべての容量を使用できるわけではありません。

拡張ユニットの使用

拡張ユニットを使用する場合の USB コネクタに関する考慮事項については、『汎用シリアル・バス (USB) コネクタの使用』を参照してください。

拡張ユニットへのホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキング (Windows 95 および Windows 98 の場合のみ)

セレクトドック拡張ユニットに特定の PCI カード、PnP ISA カード、および PC カードが取り付けられているときは、ThinkPad をその拡張ユニットにホット・ドッキングしたりウォーム・ドッキングしたりすることができない場合があります。そのような場合は、システムを再起動してください。

拡張ユニットでの PC カードの使用

Windows 95、Windows NT、Windows 3.1、または DOS の環境で ThinkPad を使用している場合は、ThinkPad を拡張ユニットに接続した後で、PC カード・サポート・ソフトウェアをインストールする必要があります。すでに PC カード・サポート・ソフトウェアをインストール済みの場合は、いったんそれをアンインストールし、ThinkPad を拡張ユニットに接続してから、再インストールしてください。

汎用シリアル・バス (USB) コネクタの使用

ThinkPad をサスペンド・モードに入れようとして、その要求が拒否された場合、汎用シリアル・バス (USB) コネクタに接続されているデバイスが使用不可になる場合があります。このような場合は、汎用シリアル・バス (USB) デバイスのホット・アンプラグおよびホット・プラグを行ってください。

セレクトドック III 拡張ユニットの PCI カードについて

ThinkPad の汎用シリアル・バス (USB) コネクタの設定を使用可能にしている (省略時の設定) 場合は、セレクトドック III 拡張ユニットで PCI ビデオ・カードと PCI ネットワーク・カードを同時に使用しないようにします。これらのカードが両方とも取り付けられていると、システムが起動できなくなります。

セレクトドック III 拡張ユニットの汎用シリアル・バス (USB) コネクタの設定について

セレクトドック III の汎用シリアル・バス (USB) コネクタは、使用不可にしないでください。これを使用不可にした場合は、ホット・ドッキングまたはウォーム・ドッキング、あるいはホット・アンドッキングまたはウォーム・アンドッキングの操作

中に、システムが停止するおそれがあります。このような場合は、システムを再起動してください。

DVD ドライブの使用

DVD ムービーやビジネス・プレゼンテーションなど、ビデオ作品が収められている DVD の表示中は、表示先を LCD から外付けディスプレイ (CRT) に切り替えないようにしてください。再生するための MPEG ファイルをオープンする前に、表示先を変更する必要があります。

PC カードの使用

- ThinkPad がスタンバイ・モードから通常の操作に戻った後は、拡張ユニットのスロットに入っている一部のネットワーク PC カードは、ホット・プラグおよびホット・アンプラグの操作が実行できなくなります。システムを再起動すれば、この問題は解決します。
- PC カード・モデムを使用して通信する場合、つまり PC カード・スロットに PC カードを挿入している場合は、ThinkPad をサスペンド・モードにしたり、ハイパーネーション・モードにしたり、「Windows の終了」ウィンドウで「スタンバイ」をクリックしたりしないようにしてください。

注: ThinkPad をサスペンド・モードに入れたい場合は、まず次の手順で「PC カード (PCMCIA) プロパティ」ウィンドウで、PC カードを停止します。

1. 「スタート」をクリックし、マウス・ポインターを「設定」に移動し、「コントロール パネル」をクリックします。
2. 「**PC カード (PCMCIA)**」をダブルクリックします。
3. 停止するカードをリストから選択します。
4. 「停止」ボタンをクリックします。

通信用 PC カードは、PC カード・スロットから取り出し、後で再度入れ直しても、正しく作動しない場合があります。この場合は、ThinkPad を再起動する必要があります。

- CD-ROM ドライブをディスクット・ドライブと交換したあとで、PC カードを取り付け、その後 CD-ROM ドライブを再度取り付けた場合は、PC カードはリソースの割り当てが失われて、作動できなくなる場合があります。CD-ROM ドライブ (セカンダリー IDE) には常に IRQ 15 が使用されますが、CD-ROM ドライブをディスクット・ドライブと交換すると、IRQ 15 が空きになり、Windows 95 または Windows 98 では、それを新しい PC カードに割り当て

ます。したがって、CD-ROM が再度取り付けられても、IRQ 15 をセカンダリ
– IDE に割り当てられないためです。

2 枚目の CardBus カードの使用

ThinkPad 内に CardBus カードがすでに構成されている場合は、デバイス・マネージャを使用して、2 枚目の CardBus カードを手動で構成する必要があります。デバイス・マネージャを表示するには、「コントロール パネル」の「システム」アイコンをクリックします。

マイクロホンの使用

ThinkPad で外付けマイクロホンを使用する場合は、ThinkPad に対応した市販のマイクロホンを使用してください。コンデンサー・マイクロホンなど、マイクロホンによっては、バッテリーが必要です。そのマイクロホンに付属の説明書を参照してください。

マイクロホン/ライン入力ジャックは、次のタイプのマイクロホンをサポートしません。

- ダイナミック・マイクロホン
- 電池を使用するタイプのコンデンサー・マイクロホン

コンデンサー・マイクロホンを使用したい場合は、それ自体に電源を備えているタイプを使用する必要があります。

ThinkPad のマイクロホン/ライン入力ジャックは、マイクロホン入力とライン入力のどちらかをサポートしますが、両方を同時にはサポートしていません。次の手順で、使用しない機能をミュートにする必要があります。

- 1 「スタート」ボタンをクリックします。
- 2 マウス・ポインターを、「プログラム」、「アクセサリ」、「エンターテインメント」、「ボリューム コントロール」の順に移動します。
「Master Out」ウィンドウが表示されます。
- 3 マウス・ポインターを「オプション」メニューに移動してから、「プロパティ」をクリックします。
「プロパティ」ウィンドウが表示されます。

- 4** 「表示するコントロール」リストで「**LINE IN**」または「**MIC**」のチェックボックスにチェック・マークを付けて、「**OK**」をクリックします。
「プロパティ」ウィンドウで選択したボリューム・コントロールが、「Master Out」ウィンドウに表示されます。
- 5** 「**LINE IN**」と「**MIC**」のどちらか、使用しない方の「ミュート」チェック・ボックスにチェック・マークを付けます。

問題判別ガイド

次の表で、問題の判別方法と解決方法を示します。

ピーブ音が鳴った場合、メッセージが表示された場合、または機能に関する問題が発生した場合:

- | | | |
|--|---|------------------------|
| 1 表から症状を見付け、問題の解決を試みます。 | → | 130ページの『問題判別表』 |
| 2 問題を解決できない場合は、テストを実行し、ハードウェアとデバイス・ドライバーに問題がないことを確認します。 | → | 167ページの『ThinkPad のテスト』 |
| 3 エラー・コードを記録して、ThinkPad の修理を依頼します。 | → | 40ページの『サービス体制』 |

ThinkPad 内のソフトウェアを誤って消してしまったり、損傷してしまった場合:

- | | | |
|--|---|---|
| 導入済みアプリケーション CD、リカバリー CD、またはディスクット・ファクトリーを使用して回復します。 | → | 34ページの『導入済みアプリケーション CD の使用』、34ページの『Product Recovery CD-ROM の使用』、および34ページの『ディスクット・ファクトリーの使用』 |
|--|---|---|

問題判別表

ThinkPad にエラーが発生すると、通常、電源をオンにしたときに、メッセージやエラー・コードが表示されたり、ビープ音が鳴ります。問題判別表から発生した問題を探し、その問題が見つかった場合は、対応するページに進み、指示されている処置を実行します。『問題判別表』では、問題全般を扱っているので、説明によってはご使用の ThinkPad に該当しない場合や、状況に適合しない場合があります。ご使用の ThinkPad の機能やオプションを本書または付属品チェックリストと照らし合わせてください。

問題判別表	ページ
エラー・コードまたは画面上のメッセージ	132
エラー・コードや画面上のメッセージで表示されない問題	139
入力装置の問題	139
サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードの問題	141
LCD の問題	144
インジケータの問題	145
バッテリーの問題	145
ハードディスク・ドライブの問題	146
CD-ROM ドライブの問題	147
DVD-ROM ドライブの問題	148
赤外線通信の問題	149
拡張ビデオまたは MPEG の問題	151
オーディオまたは電話機能の問題	151
汎用シリアル・バス (USB) の問題	152
PC カードまたは内蔵モデムの問題	153
その他の PC カードの問題	154
拡張ユニットまたはポート・リプリケータの問題	158
プリンターの問題	159
外付けディスプレイの問題	160
TV の問題	163

問題判別表	ページ
その他のオプションの問題	163
ソフトウェアの問題	165
その他の問題	166

エラー・コードまたは画面上のメッセージ

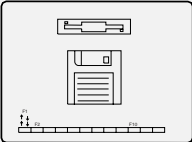
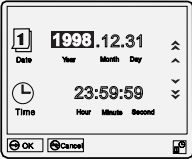
注: この表の中の x は、任意の文字を表します。

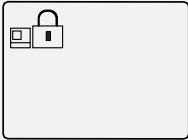
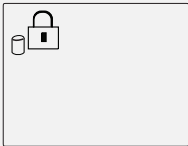

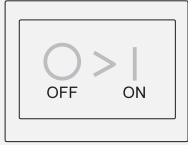

メッセージ	原因と処置
I9990301 I9990302 I9990305 (ハードディスク・ドライブを誤って接続すると、これらのエラー・コードが表示される場合があります。)	ThinkPad が始動ドライブを見付けることができません。次の処置をとってください。 1. ThinkPad の電源をオフにします。 2. [F1] キーを押しながら、ThinkPad の電源をオンにし、Easy-Setup を始動します。「Easy-Setup」メニューが表示されるまで [F1] キーを押し続けます。 3. 「 Start up 」アイコンを選択します。 4. 「 Power-on 」アイコンを選択します。始動優先順位を設定できない場合は、ThinkPad の修理を依頼します。 5. 始動優先順位ボックスの装置を調べます。始動優先順位ボックス内に省略時のドライブがありますか? 「いいえ」ステップ 5 に進んでください。 「はい」「 Reset 」アイコンを選択してください。 6. オペレーティング・システムはインストールされていますか? 「はい」ステップ 8 に進んでください。 「いいえ」ThinkPad にオペレーティング・システムをインストールしてください。 7. オペレーティング・システムのインストールが終わったら、ThinkPad の電源をオフにします。 8. ThinkPad の電源をオンにします。 それでも同じ画面が表示される場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。
I99xxxxx (上記の I999030x エラー以外のエラー)	ThinkPad の修理を依頼してください。
111 (拡張ユニットのエラー)	ポート・リプリケーターまたは拡張ユニットを使用している場合は、それをいったん取り外してから、接続し直します。 それでも問題が解決しない場合は、ポート・リプリケーターまたは拡張ユニットに付属の資料を参照してください。

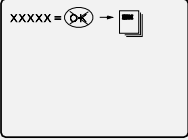
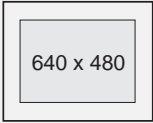

メッセージ	原因と処置
<p>158 (スーパーバイザー・パスワード・エラー)</p>	<p>ハードディスク・ドライブが別のスーパーバイザー・パスワードで取り付けられているか、ハードディスク・パスワードが設置されていません。</p> <p>エラーを生じているハードディスク・ドライブは、次のどれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad のメイン・ベイ • ウルトラベイ II • ThinkPad に接続された拡張ユニットのウルトラ・ベイ・トレイ <p>問題の解決には、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. エラーを生じていないハードディスク・ドライブが、ThinkPad 本体のメイン・ハードディスク・ベイに取り付けられているかどうか確認します。 <p>ハードディスク・ドライブが拡張ユニットのウルトラ・ベイ・トレイに取り付けられている場合は、ThinkPad の電源をオフにし、そのハードディスク・ドライブを ThinkPad 本体のメイン・ハードディスク・ベイに取り付け直します。その上で、ThinkPad の電源を再度オンにします。</p> <ol style="list-style-type: none"> 2. Enter キーを押します。 3. 始動パスワード・プロンプトでスーパーバイザー・パスワードを入力します。 <p>00158 エラー・メッセージが再度表示された場合は、Enter キーを押して、Easy-Setup の「Password」サブメニューに進みます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 4. 「Supervisor」アイコンを選択してから、Enter キーを押します。 <p>スーパーバイザー・パスワードと同じパスワードが、メイン・ハードディスク・ベイのハードディスク・パスワードとして設定されます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. ThinkPad を再起動します。

メッセージ	原因と処置
<p>159 (スーパーバイザー・パスワード・エラー)</p>	<p>ハードディスク・パスワードがスーパーバイザー・パスワードと異なります。 エラーを生じているハードディスク・ドライブは、次のどれかです。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad 本体のメイン・ハードディスク・ドライブ • ウルトラベイ II • ThinkPad に接続された拡張ユニットのウルトラ・ベイ・トレイ <p>問題の解決には、次の手順を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ハードディスク・ドライブ・パスワードとスーパーバイザー・パスワードが異なっているかどうか確認します。 ハードディスク・ドライブが拡張ユニットのウルトラ・ベイ・トレイに取り付けられている場合は、ThinkPad の電源をオフにし、そのハードディスク・ドライブを ThinkPad 本体のメイン・ベイに取り付け直します。ThinkPad の電源を再度オンにします。 2. ハードディスク・パスワード・プロンプトでハードディスク・パスワードをスーパーバイザー・パスワードに変更します。
<p>16x または 17 x (未定義の日付または構成エラー)</p>	<p>画面の指示に従ってください。</p>
<p>174 (デバイスの構成エラー)</p>	<p>ハードディスク・ドライブおよびウルトラベイ II のデバイスが、しっかり取り付けられていることを確認します。それでも問題が解決しない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
<p>175、177、178 (EEPROM エラー)</p>	<p>ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
<p>183 (無効なパスワードのエラー)</p>	<p>スーパーバイザー・パスワード・プロンプトで入力したパスワードが無効です。スーパーバイザー・パスワードを確認します。</p>
<p>184 (無効なパスワードのエラー)</p>	<p>入力したパスワードは無効です。 ThinkPad の電源をオフにし、5 秒以上待ってからもう一度オンにして、正しいパスワードを入力してください。</p>
<p>185 (始動優先順位エラー)</p>	<p>始動優先順位が無効です。ThinkPad の電源をオフにし、5 秒以上待ってからもう一度オンにして、Easy-Setup で始動優先順位を設定し直します。</p>
<p>190 (極めて少量のバッテリー残量のエラー)</p>	<p>バッテリー残量がほとんどなくなったため、ThinkPad の電源がオフになりました。 ThinkPad に AC アダプターを接続しバッテリー・パックを充電するか、フル充電したバッテリー・パックに交換してください。</p>
<p>192 (冷却ファンのエラー)</p>	<p>ThinkPad の修理を依頼してください。</p>

メッセージ	原因と処置
195 (ハイバネーションのエラー)	<p>ハイバネーション・モードに入ったときと出たときでシステム構成が異なっているため、ThinkPad は通常の操作状態に戻ることができません。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad がハイバネーション・モードに入る前の状態に、システム構成を変更してください。 • メモリー・サイズが変更されている場合は、ハイバネーション・ファイルを作り直してください。 <p>拡張ユニットを使用している場合は、ハイバネーション・モードに入る前に、ThinkPad を拡張ユニットから取り外しておきます。</p>
196 (ハイバネーションのエラー)	<p>ThinkPad がハイバネーション・ファイルを読み取ることができません。</p> <p>ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
225 (サポートされていないメモリー)	<p>取り付けられた DIMM はサポートされていません。</p> <p>注: たとえば、EDO DRAM をサポートしていない ThinkPad に EDO DRAM を取り付けようとした場合に、このエラーは発生します。</p>
2xx (メモリーのエラー)	<p>DIMM オプションが正しく取り付けられているか確認してください。</p>
30x (キーボードのエラー)	<p>システム・キーボードまたは外付けキーボードの上に何も置かれていないことを確認してください。ThinkPad の本体および接続されているすべてのデバイスの電源をオフにしてください。まず、ThinkPad の電源をオンにしてから、次に、接続されているデバイスをオンにします。</p> <p>それでも問題が解決しない場合は、次の処置をとってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 外付けキーボードが接続されている場合は、次の処置をとってください。 <ul style="list-style-type: none"> – ThinkPad の電源をオフにし、外付けキーボードを外してから、ThinkPad の電源をオンにします。システム・キーボードが正しく作動するかどうかを確認します。正しく作動する場合は、外付けキーボードの修理を依頼します。 – 外付けキーボードが正しいコネクタに接続されていることを確認します。 • Easy-Setup の「Test」サブメニューから「Start」アイコンを選択して、ThinkPad をテストしてください。 <ul style="list-style-type: none"> – テスト中に ThinkPad が停止した場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。
6xx (ディスクのエラー)	<p>ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
11xx (シリアル・ポートのエラー)	<p>ThinkPad の修理を依頼してください。</p>

メッセージ	原因と処置
12xx (赤外線のエラー)	ThinkPad の修理を依頼してください。
17xx (ハードディスクのエラー)	ThinkPad の修理を依頼してください。
1801 (サポートされていないポート・リプリケーターのエラー)	接続されているポート・リプリケーターがサポートされていません。
24xx (ビデオのエラー)	ThinkPad の修理を依頼してください。
808x (PC カード・スロットのエラー)	ThinkPad の修理を依頼してください。
860x (ポインティング・デバイスのエラー)	マウスまたは外付けキーボードが正しく接続されているかどうか確認します。正しく接続されている場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。
「ディスク」プロンプト と「F1」プロンプト 	ハードディスク・ドライブが正しく取り付けられているかどうか確認します。 または、ディスク・ドライブに始動可能なディスクが正しく (ラベル面を上にし、金属シャッター部分を奥にして) 挿入されているかどうか確認します。 上記の項目が正しい場合は、 [F1] キーを押します。それでもこのプロンプトが消えない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。
エラー 163 の後、「Date and Time」画面が表示される。 	ThinkPad に日付と時刻が設定されていません。 数字を入力するか、▲または▼をクリックして日付と時刻を設定し、「OK」をクリックしてください。 始動パスワードとスーパーバイザー・パスワードの両方が設定されている場合は、次の処置を行います。 <ol style="list-style-type: none"> ThinkPad の電源をオンにします。 エラー・コードの後にパスワード・プロンプトが表示されます。 始動パスワードではなく、スーパーバイザー・パスワードを入力します。 エラーの画面が表示されます。 「OK」をクリックするか、[Enter] キーを押します。 次に表示される画面で日付と時刻を設定して、[Enter] キーを押します。 システムが再起動します。 注: 始動パスワードが拒否された場合は、Easy-Setup を使用して始動パスワードを設定し直します。

メッセージ	原因と処置
<p>始動パスワード・プロンプト</p> 	<p>始動パスワードまたはスーパーバイザー・パスワードが設定されています。ThinkPad を始動するには、正しいパスワードを入力して Enter キーを押してください (100 ページを参照)。</p> <p>始動パスワードが拒否される場合、スーパーバイザー・パスワードが設定されている可能性があります。スーパーバイザー・パスワードを入力して、Enter キーを押してください。</p> <p>それでも問題が解決しない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
<p>ハードディスク・パスワード・プロンプト</p> 	<p>ハード・ディスク・パスワードが設定されています。ThinkPad を起動するには、正しいパスワードを入力して Enter キーを押してください (100 ページを参照)。</p> <p>それでも問題が解決しない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
<p>「Test」サブメニュー</p> 	<p>「Start」アイコンを選択し、画面の指示に従ってThinkPad をテストしてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • テストを完了できなかった場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。 • テストでは問題が検出されなかったにもかかわらず、問題がある場合は、『問題判別表』にその問題の記載があるかどうか確認します。 • テストがエラーを検出して終了した場合は、エラー・コードを記録し、ThinkPad の修理を依頼してください。
	<p>このメッセージは、IDE チャンネルを 2 から 3 へ変更したあとに ThinkPad を再起動すると表示されます。ThinkPad の電源をオフにし、5 秒以上待ってから、電源を再度オンにします。</p>
<p>POST エラー・プロンプト</p> 	<p>POST 中にエラーが検出されました。 Enter キーを押してから、「Test」メニューで「Start」を選択し、テストを実行してください。</p> <p>テストがエラーを検出して終了した場合は、エラー・コードを記録し、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>

メッセージ	原因と処置
<p>エラー・プロンプト</p> 	<p>ThinkPad の電源をオフにして Easy-Setup を始動し、「Test」を選択して ThinkPad のテストを実行してください。</p> <p>テストがエラーを検出して終了した場合は、エラー・コードを記録し、ThinkPad の修理を依頼してください。</p> <p>[F1] キーを押せば、エラーを無視してオペレーティング・システムを起動することができます。</p>
<p>DOS 全画面が小さく見える</p> 	<p>640x480 の解像度 (VGA モード) のみをサポートする DOS アプリケーションを使用すると、画面イメージが多少ゆがんで見えたり、ディスプレイ・サイズより小さく見える場合があります。これは、ThinkPad が他の DOS アプリケーションとの互換性を保っているためです。画面イメージを拡大して実際の画面と同じサイズにするには、「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動し、「LCD」() をクリックしてから、「スクリーン・エクспанション」機能を選択します (イメージは多少ゆがんで見える場合があります)。</p> <p>注: 画面拡大機能を備えた ThinkPad の場合は、[Fn] + [F8] キーを使用して、これと同じ処置を実行することができます。</p>
<p>『問題判別表』にない画面やメッセージ</p>	<p>ThinkPad の電源をオフにして Easy-Setup を始動し、「Test」を選択して ThinkPad のテストを実行してください。</p> <p>テストがエラーを検出して終了した場合は、エラー・コードを記録し、ThinkPad の修理を依頼してください。</p> <p>Easy-Setup を始動できない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
<p>xxxxx KB OKが表示されて、ThinkPad が停止する。</p>	<p>ThinkPad の修理を依頼してください。</p>

エラー・コードまたは画面上のメッセージで表示されない問題

問題	原因と処置
<p>画面に何も表示されず、ピープ音も鳴らない。</p> <p>注：ピープ音が鳴ったかどうか確かでない場合は、ThinkPad の電源をいったんオフにしてから、もう一度オンにし、ピープ音が鳴るかどうか確認します。外付けディスプレイを使用している場合は、160ページの『外付けディスプレイの問題』に進んでください。</p>	<p>始動パスワードが設定されている場合は、任意のキーを押して始動パスワード・プロンプトを表示させ、正しいパスワードを入力してから Enter キーを押してください (100ページを参照)。</p> <p>始動パスワードが表示されない場合は、ThinkPad の輝度調節つまみが最小輝度に設定されている可能性があります。輝度を正しく調節してください。</p> <p>それでもなお画面に何も表示されない場合は、以下の確認を行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> • バッテリー・パックは正しく取り付けられていますか。 • AC アダプターが ThinkPad に接続されており、電源コードがコンセントに差し込まれていますか。 • ThinkPad の電源がオンになっていますか。(確認のため、電源スイッチをもう一度オンにしてください。) <p>上記の項目に問題がないにもかかわらず画面に何も表示されない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
<p>画面に何も表示されず、ピープ音が鳴り続けるか、ピープ音が 2 回以上鳴る。</p>	<p>ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
<p>カーソルだけが表示される。</p>	<p>オペレーティング・システムをインストールし直してから、ThinkPad の電源をオンにしてください。</p> <p>それでも問題が解決しない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>

入力装置の問題

問題	原因と処置
<p>ThinkPad が省電力機能のどれかから通常の操作状態に戻ったとき、マウス・ポインターが動かない。</p>	<p>Windows を電源管理機能 (APM) オプション付きでインストールしたとき、別冊の <i>ステップ・アップ・ガイド</i> の指示どおり正しく行ったかどうかを確認してください。</p>




問題	原因と処置
ThinkPad のキーボードの全部または一部が作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad がサスペンド・モードから通常の操作状態に戻った直後にこの問題が発生した場合は、始動パスワードを入力してください。始動パスワードが設定されている場合は、パスワードの入力が必要です。 • 外付けキーボードが接続されているときは、ThinkPad 本体のキーボードの数値キーパッドは作動しません。これは、故障ではありません。 • 数値キーパッドまたはマウスが外付けで接続されている場合: <ol style="list-style-type: none"> 1. ThinkPad の電源をオフにします。 2. 外付け数値キーパッドまたはマウスを取り外します。 3. ThinkPad の電源をオンにし、もう一度キーボードを操作します。 • これでキーボードの問題が解決した場合は、数値キーパッド、外付けキーボード、またはマウスの接続をチェックします。 <p>それでも問題が解決しない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
ThinkPad の電源をオンにしたとき、または通常の操作状態に戻ったとき、マウス・ポインターがドリフト (浮動) する。	<p>通常の操作状態でトラックポイントを使わない場合に、マウス・ポインターがドリフトする場合があります。これは、トラックポイントの特性の 1 つであって、故障ではありません。ドリフトは、次の場合に数秒間発生することがあります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad の電源をオンにしたとき。 • ThinkPad が通常の操作状態に戻ったとき。 • トラックポイントを長時間使用し続けたとき。 • 環境温度が変化したとき。
「トラックポイントのプロパティ」ウィンドウ内の設定を変更した後で、マウス・ポインターがしばらくの間動かなくなった。	<p>これは、マウス・ポインターの通常の特性です。数秒間待てば、マウス・ポインターは通常の状態に戻ります。</p>
マウスまたはポインティング・デバイスが作動しない。	<ul style="list-style-type: none"> • 「ThinkPad 機能設定」プログラムでポインティング・デバイス・ケーブルが使用可能になっているかどうか確認します。 • マウスまたはポインティング・デバイスのケーブルが、ThinkPad にしっかりと正しい場所に接続されているか確認してください。 • トラックポイントを操作してみてください。トラックポイントが作動する場合は、マウスに問題がある可能性があります。 • IBM PS/2 マウスと互換性のないマウスを使用する場合は、「ThinkPad 機能設定」プログラムを使ってトラックポイントを使用不可にしてください。 <p>注: 詳細については、マウスに付属のマニュアルを参照してください。</p>
マウス・ボタンが作動しない。	<p>マウス・ドライバーをスタンダード PS/2 ポート・マウスに変更してから、PS/2 TrackPointをインストールし直してください。このドライバーのインストール方法については、<i>ステップ・アップ・ガイド</i>を参照してください。</p>
スクロールまたは拡大表示機能が働かない。	<p>「マウスのプロパティ」の「情報」タブをクリックして、「PS/2 TrackPoint」ドライバーがインストールされているかどうか確認します。</p>

問題	原因と処置
英文字を入力したのに数字が表示される。	ナム・ロック機能が有効になっています。ナム・ロック機能を解除するには、 Shift キーを押しながら NumLk キーを押してください。
数値キーパッドの全部または一部が作動しない。	数値キーパッドが ThinkPad に正しく接続されているか確認してください。
外付けキーボードの全部または一部が作動しない。	<p>外付けキーボードを使用する場合は、キーボード/マウス・コネクタを ThinkPad に接続する必要があります。次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> キーボード/マウス・コネクタが ThinkPad に正しく接続されていますか。 キーボード・コネクタがキーボード/マウス・コネクタの正しい側に接続されていますか。 <p>上記の項目に問題がない場合は、キーボード/マウス・コネクタを ThinkPad から取り外し、ThinkPad 本体のキーボードが正しく作動するかどうか確認します。ThinkPad 本体のキーボードが作動する場合は、キーボード/マウス・コネクタまたは外付けキーボードの修理を依頼してください。</p>

サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードの問題

問題	原因と処置
ThinkPad が自動的にサスペンド・モードに入る。	プロセッサの温度が許容の温度を超えると、ThinkPad は自動的にサスペンド・モードに入ります。これは、故障ではありません。
POST の直後に ThinkPad がサスペンド・モードに入る (サスペンド・インジケータがオンになる)。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> バッテリー・パックは充電されていますか。 環境温度が許容される範囲内にありますか。付録 A を参照してください。 <p>上記の項目に問題がない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
エラー 190 の後、ThinkPad の電源がただちにオフになる。	バッテリー電源の残量が少なくなっています。ThinkPad に AC アダプターを接続するか、フル充電したバッテリー・パックに交換してください。
通常の操作状態に戻ったときに LCD に何も表示されません。	ThinkPad がサスペンド・モードの間に、外付けディスプレイが取り外されなかったかどうか確認します。ThinkPad がサスペンド・モードまたはハイバネーション・モードになっているときに、外付けディスプレイを取り外さないでください。ThinkPad が通常の操作状態に戻ったときに外付けディスプレイが接続されていないと、LCD には何も表示されません。この制限事項は、いずれの解像度値も同様です。

問題	原因と処置
ThinkPad がサスペンド・モードから戻らないか、サスペンド・インジケーターがオンになったままで、ThinkPad が作動しない。	<p>バッテリー・パックが空になると、ThinkPad は自動的にサスペンド・モードまたはハイバネーション・モードに入ります。次のどちらかの処置をとってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> フル充電したバッテリー・パックに交換してから、[Fn] キーを押します。 ThinkPad に AC アダプターを接続してから、[Fn] キーを押します。
ThinkPad が、サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードにならない。	<p>サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードを使用不可にするオプションを、Thinkpad で選択していないかどうか確認してください。詳細情報 ➡ ステップ・アップ・ガイド</p>
Windows 98 または Windows NT のもとでタイマーによる設定どおりに、ThinkPad がサスペンド・モードに入らない。	<p>Windows 98 の場合：</p> <p>Windows 98 の一般的な CD-ROM または DVD ドライバーは、3 秒ごとに内蔵 CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブにアクセスして、CD-ROM ドライブまたは DVD ドライブに CD-ROM が入っているかどうか確認します。これにより、ThinkPad がタイムアウト後にもサスペンド・モードに入ることができません。</p> <p>このようにならないようにするには、次の処置を実行します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「スタート」ボタンをクリックし、マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動し、「コントロール パネル」をクリックします。 「システム」をダブルクリックします。 「デバイス マネージャ」タブをクリックします。 「CD-ROM」の「+」マークをクリックします。 CD-ROM 名または DVD 名をダブルクリックします。 「設定」タブをクリックします。 「自動挿入」のチェック・マークを外します。 <p>これで、Windows 98 が CD-ROM または DVD の挿入を自動的に検出することはなくなります。</p> <p>Windows NT の場合：</p> <p>CD-ROM AutoRun 機能を使用可能にした場合は、ThinkPad がタイマーによってサスペンド・モードに入ることはありません。この状態でタイマーを使用可能にするには、次のようにして、レジストリーの構成情報を編集します。</p> <pre>HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Cdrom\</pre> <p>Autorun: 0x1 → Autorun: 0</p>

問題	原因と処置
<p>ThinkPad が [Fn] キー+ [F12] キーの組み合わせでハイバネーション・モードにならない。</p>	<p>次の手順に従って、ハイバネーション・モードを使用可能にしてください。</p> <p>Windows 98 の場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。 2. 「省電力」 () をクリックします。 3. 「ハイバネーション」タブをクリックします。 4. 「ハイバネーションを使用可能にする」ボタンをクリックします。 5. 「すぐ作成する」ボタンをクリックします。 <p>IBM 通信 PC カードのいずれか 1 つを使用している場合は、ThinkPad はハイバネーション・モードに入ることができません。</p> <p>ハイバネーション・モードに入るには、通信プログラムを停止してから、PC カードを取り出すか、「コントロール パネル」を使用して PC カード・スロットを使用不可にします。</p> <p>Windows NT の場合：</p> <p>注: Windows NT でハイバネーション・モードを使うには、ハードディスクを FAT 形式でフォーマットする必要があります。Windows NT の省略時の形式である NTFS 形式でハード・ディスクをフォーマットすると、ハイバネーション・モードは使用できません。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。 2. 「省電力」 () をクリックします。 3. 「サスペンド/レジューム・オプション」を () クリックします。 4. 「ハイバネーションを使用可能にする」をクリックします。 5. 「OK」をクリックします。 <p>IBM 通信 PC カードを使用している場合、ThinkPad はハイバネーション・モードに入ることができません。</p> <p>ハイバネーション・モードに入るには、通信プログラムを停止してから、PC カードを取り出すか、「コントロール パネル」を使用して PC カード・スロットを使用不可にします。</p>

液晶ディスプレイ (LCD) の問題

問題	原因と処置
画面が判読不能またはゆがんでいる。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• ディスプレイ・デバイス・ドライバが正しくインストールされているかどうか。• ディスプレイの解像度と色数は正しく設定されているかどうか。• ディスプレイのタイプが正しいかどうか。 <p>Windows 98 環境で確認する手順は、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「スタート」ボタンをクリックし、マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動して、「コントロール パネル」をクリックします。2. 「画面」アイコンをダブルクリックします。3. 「設定」タブを選択します。4. 色数と解像度が正しく設定されているかチェックします。5. 「詳細」ボタンをクリックします。6. 「アダプタ」タブを選択します。 IBM ThinkPad (Cyber 9397 DVD) が表示されているかどうか確認します。7. 「モニタ」タブをクリックします。 情報が正しいかどうか確認します。
画面に間違った文字が表示される。	<p>オペレーティング・システムとアプリケーション・プログラムが正しくインストールされているか確認してください。</p> <p>インストールと構成が正しい場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
電源スイッチをオフにしても画面が消えない。	<p>ThinkPad の電源遮断スイッチをボールペンの先などで押して電源をオフにしてから、もう一度電源をオンにします。</p>
ThinkPad の電源をオンにするたびに、画面上に見えないドットや、色の違うドット、または明るいドットが表示される。	<p>これは TFT テクノロジーの本質的な特性の 1 つです。ThinkPad のディスプレイには、複数の TFT (Thin-Film Transistor) が使用されています。画面上には見えないドット、色が違うドット、または明るいドットが少量存在していることがあります。</p>

インジケータの問題

問題	原因と処置
バッテリー・パックが取り付けられているのに、バッテリー残量インジケータが消えている。	バッテリー・パック内の過電流保護装置が働いています。数時間待って、もう一度バッテリー・パックを使ってみてください。それでもインジケータが点灯しない場合は、バッテリー・パックを交換するか、ThinkPad の修理を依頼してください。
「ディスク・ドライブ使用中」インジケータが表示されたままである。	<ul style="list-style-type: none">• ドライブにディスクが入っている場合は、次の項目を確認してください。<ul style="list-style-type: none">– 内蔵または外付けディスク・ドライブが、ThinkPad にしっかり接続されていますか。– ディスクに、システムを始動するために必要なファイルが入っていませんか。– アプリケーション・プログラムに問題はありませんか。– ディスクに問題はありませんか。– ディスクが、ディスク・ドライブに正しく (ラベル面を上、金属シャッター部分を奥に) 挿入されていますか。上記の項目に問題がない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。• ドライブにディスクが入っていない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。

バッテリーの問題


問題	原因と処置
電源オフの状態でもバッテリー・パックを 3 時間半充電してもフル充電にならない。	バッテリー・パックが過放電状態になっている可能性があります。次の処置をとってください。 <ol style="list-style-type: none">1. ThinkPad の電源をオフにします。2. 過放電状態と思われるバッテリー・パックが取り付けられていることを確認します。3. AC アダプターを ThinkPad に接続し、バッテリー・パックを充電します。 バッテリー・パックを 24 時間充電してもフル充電にならない場合は、新しいバッテリー・パックを使用してください。 オプションのクイック・チャージャーが使用可能であれば、それを使用して放電過剰になっているバッテリー・パックを充電します。

問題	原因と処置
バッテリー残量インジケータ ーが空になる前に ThinkPad の電源が遮断される。 -または- バッテリー残量インジケータ ーが空を示した後も ThinkPad を操作できる。	バッテリー・パックの放電と充電を最低 3 回繰り返してください。
フル充電したバッテリー・パ ックの動作時間が短い。	バッテリー・パックの放電と充電を 3 ~ 6 回繰り返します。それでも問題が解決し ない場合は、新しいバッテリー・パックを使用してください。
ThinkPad がフル充電したバ ッテリー・パックで作動しな い。	バッテリー・パック内の過電流保護装置が働いている可能性があります。ThinkPad の電源をオフにして、この機能がリセットするまで 1 分以上待ってから、もう一度電 源をオンにします。

ハードディスク・ドライブの問題


問題	原因と処置
ハードディスク・ドライブが 断続的にがたがた音を立て る。	<p>がたがたという音は、次のような場合に聞こえる場合があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ハードディスク・ドライブがデータへのアクセスを開始するとき、または停止す るとき。 ハードディスク・ドライブを持ち運んでいるとき。 ThinkPad を持ち運んでいるとき。 <p>これは、ハードディスク・ドライブの通常の特性であり、故障ではありません。</p>

CD-ROM ドライブの問題

問題	原因と処置
CD-ROM ドライブが作動しない。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• ThinkPad の電源がオンで、CD-ROM が CD-ROM ドライブの中央の回転軸に収まっていますか。(カチッという音がするはずです。)• CD-ROM ドライブ・コネクタが、ThinkPad にしっかり接続されていますか。• CD-ROM ドライブ・トレイはしっかりと閉じていますか。• デバイス・ドライバーが正しくインストールされていますか。• 拡張ユニットの CD-ROM ドライブが作動しない場合は、以下の処置を行います。<ol style="list-style-type: none">1. 「スタート」ボタンをクリックします。2. マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、「ThinkPad 機能設定」をクリックします。3. 「拡張ユニット」()をクリックします。4. 「拡張ユニットの IDE デバイスを使用する」にチェック・マークを付けてあるかどうか確認します。<p>注: PCI デバイス設定に IRQ 11 と IRQ 15 は使用しないでください。</p><ol style="list-style-type: none">5. 「OK」をクリックします。
CD-ROM の回転時に、CD-ROM ドライブが音を立てる。	CD-ROM ドライブのカバーが変形している可能性があります。CD-ROM ドライブの修理を依頼してください。
CD-ROM イジェクト・ボタンを押しても CD-ROM トレイが出てこない。	非常用 CD-ROM 取り出し用穴にピンの先などを入れて CD-ROM トレイを出してください。

問題	原因と処置
CD-ROM のデータを読むことができない。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • CD-ROM が汚れていませんか。汚れている場合は、市販の CD-ROM クリーナー・キットで汚れを取り除いてください。 • CD-ROM に欠陥がありませんか。別の CD-ROM を CD-ROM ドライブに入れて確認してください。 • CD が正しい向き (ラベルのある側を上にする) でトレイにセットされていますか。(カチッという音がするはずです。) • その CD は、次に示すものと互換性のある形式ですか。 <ul style="list-style-type: none"> – 音楽 CD – CD-ROM または CD-ROM XA – マルチセッション・フォト CD – ビデオ CD

DVD ドライブの問題

問題	原因と処置
DVD が作動しない。	<p>次の点について確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad の電源がオンで、DVD または CD が DVD ドライブの中央の回転軸に正しく収まっていますか。(カチッという音がするはずです)。 • DVD ドライブ・コネクターが、ThinkPad にしっかり接続されていますか。 • DVD ドライブ・トレイがしっかり閉じていますか。 • デバイス・ドライバーが正しくインストールされていますか。 <p>拡張ユニットの DVD ドライブが作動しない場合は、以下の処置を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、「ThinkPad 機能設定」をクリックします。 3. 「拡張ユニット」() をクリックします。 4. 「拡張ユニットの IDE デバイスを使用する」にチェック・マークを付けてあるかどうか確認します。 <p>注: PCI デバイス設定に IRQ 11 と IRQ 15 は使用しないでください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 5. 「OK」をクリックします。
DVD の回転時に、DVD ドライブが音を立てる。	DVD ドライブのカバーが変形している可能性があります。DVD ドライブの修理を依頼してください。


問題	原因と処置
DVD 取り出しボタンを押しても、DVD トレイが出てこない。	非常用取り出し用穴にボールペンの先などを差し込んで、DVD トレイを出します。
DVD が読み取れない。	<p>次の点について確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • DVD が汚れていませんか。汚れている場合は、汚れを取り除いてきれいにします。 • DVD に欠陥はありませんか。欠陥がある場合は、別の DVD を DVD ドライブに入れて試してみます。 • DVD が、ラベル側を上にして、DVD ドライブの中央の回転軸に正しく収まっていますか。(カチッという音がするはずです。) • その DVD は次のものと互換性のある形式ですか。 <ul style="list-style-type: none"> - 音楽 CD - CD-ROM または CD-ROM XA - マルチセッション・フォト CD - ビデオ CD - DVD (DVD ビデオ)

赤外線通信の問題

問題	原因と処置
ThinkPad が赤外線ポートを使って他の装置と通信することができない。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 通信速度は同じですか。 • 赤外線ポートは汚れていませんか。 • ThinkPad と通信先デバイス間に障害物はありませんか。 • ThinkPad と通信先デバイス間の距離と角度は、指定された範囲内にありますか。 • 直射日光が当たる場所で操作していませんか。 • 赤外線ポートが通信先ポートと直接向き合っていますか。 • 通信が ThinkPad の LCD の光で妨げられていませんか。これを避けるため、LCD を広角度に開いてください。 • ThinkPad で実行している通信アプリケーションと通信先のコンピューターで実行されている通信アプリケーションは、互換性がありますか。詳細については、アプリケーションの説明書を参照してください。

問題	原因と処置
ThinkPad と通信先デバイスとの間で誤ったデータが送信される。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad と通信先デバイスの間の距離と角度は正しいですか。 • 通信速度は同じですか。 • ThinkPad や通信先デバイスの近くにリモコン装置やワイヤレス・ヘッドホンなど、赤外線を出す装置がありませんか。 • 直射日光が当たる場所で操作していませんか。 • ThinkPad や通信先デバイスの近くに蛍光灯がありませんか。
パラレル・ポートと赤外線ポートの両方に対する DMA チャンネルが使用できない。	<p>ECP を使用可能にしているパラレル・ポート用に DMA3 (初期値) を選択すると、赤外線ポート用の DMA を使用不可にするかどうかを確認するプロンプトが表示されます。パラレル・ポートと赤外線ポートの両方に DMA チャンネルを使用する手順は、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「OK」をクリックして、赤外線ポートに対するDMA を使用不可にします。 2. パラレル・ポートの画面をクローズします。 3. 「赤外線」ボタンをクリックして、「赤外線」ウィンドウをオープンします。 4. 画面上で、赤外線ポートに対し DMA0 または DMA1 を選択します。 5. オーディオ・デバイスに対する DMA を使用不可にするかどうかを確認する画面が表示されたら、「OK」をクリックします。

キャプチャー・ドライバーまたは MPEG の問題

問題	原因と処置
キャプチャー・ドライバーまたは MPEG 機能が働かない。	<ul style="list-style-type: none">リソースの競合 (IRQ または I/O アドレス) が生じていないかどうか確認します。次の手順を実行して、キャプチャー・ドライバーまたは MPEG 機能を使用可能にします。<ol style="list-style-type: none">「スタート」ボタンをクリックします。マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、「ThinkPad 機能設定」をクリックします。ビデオ・キャプチャー/TV 出力 () をクリックします。PCI デバイスに対して IRQ が少なくとも 1 つ割り当てられていることを確認します。<p>他のデバイスとの競合が検出された場合は、IRQ 値を変更します。(ステップ・アップ・ガイドの「システムリソースの競合の回避」を参照してください。)</p>MPEG 再生機能とビデオ・キャプチャー機能は、同じハードウェア・リソースを使用します。したがって、この 2 つの機能を同時に使用することはできません。これと同様、2 つの MPEG 機能を同時に使用することもできません。

オーディオまたは電話機能の問題


問題	原因と処置
WaveTable MidiSynth 装置の音量を制御できない。	「ボリューム コントロール」の「Master Out」ウィンドウで「Serial In」を使用して、音量を調節してください。
音声データ通信を介する音質が良くない。	ThinkPad モデムには限界があるため、音声データ通信によって送受信される音声の音質は、通常の電話回線による場合ほど良質ではありません。瞬間的な音声の途切れ、遅れ、ひずみなどが発生する場合があります。

問題	原因と処置
その他の問題	<p>他にも次の要因で問題が生じる可能性があります。</p> <ul style="list-style-type: none"> • ThinkPad モデム機能と拡張ユニットに取り付けられた他のアダプター・カードとの間に互換性がない場合。この問題がどのカードまたはデバイスによるかを判断するには、拡張ユニットのアダプター・カードを 1 枚ずつ取り外し、そのつど Easy-Setup の「Test」メニューを実行してください。 • 電話ケーブルの配線が、使用しているアプリケーションに適していない場合。 • 電話ケーブルが損傷している場合。 • 電話機が故障している場合。 • オーディオ・ケーブルの配線が、使用しているアプリケーションに適していない場合。 • オーディオ・ケーブルが損傷している場合。 • オーディオ機器が故障している場合。

汎用シリアル・バス (USB) の問題


問題	原因と処置
汎用シリアル・バス (USB) コネクタに接続したデバイスが作動しない。	<p>次の処置をとってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 汎用シリアル・バス (USB) デバイスが正しく接続されていることを確認します。 2. 「デバイス マネージャ」ウィンドウをオープンし、USB デバイスのセットアップが正しく行われ、ThinkPad のリソースの割り当ておよびデバイス・ドライバのインストールが正しく行われているか確認します。 <p>注: 「デバイス マネージャー」ウィンドウをオープンするには、「スタート」をクリックしてから、マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動し、「コントロール パネル」をクリックします。次に「システム」をダブルクリックします。続いて、「システム プロパティ」ウィンドウで「デバイス マネージャ」タブをクリックします。</p> <p>167ページの『ThinkPad のテスト』を参照し、USB コネクタの診断テストとして、Easy-Setup の「Test」サブメニューを実行します。</p>

PC カードまたは内蔵モデムの問題

問題	原因と処置
内蔵モデムが作動しない。	<p>オペレーティング・システムがモデムと同じ IRQ レベルを共有している可能性があります。このような状況では、ThinkPad モデムのソフトウェアが作動しない場合があります。モデムを使用するには、IRQ の共有を取り消す必要があります。</p> <p>IRQ 共有状態の取り消し → ステップ・アップ・ガイド</p>
モデムのアプリケーションが、ThinkPad モデムで働かない。	<p>「デバイス マネージャ」ウィンドウをオープンして「モデム ウィザード」を実行するか、次の手順に従って「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動して、内蔵モデムが使用可能になっていることを確認してください。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 「スタート」ボタンをクリックします。2. マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、「ThinkPad 機能設定」をクリックします。3. 「内蔵モデム」() をクリックします。4. 「使用する」を選択します。5. 「OK」をクリックします。
PC カード・モデムが作動しない。	<p>赤外線ポートが使用不可で、モデムが正しくセットアップされているかどうか、本書および PC カード・モデムに付属の資料の説明に従って確認します。</p>

その他の PC カードの問題


問題	原因と処置
PC カードが「使用可」と表示されるが、正しく作動しない。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• PC カード用に確保されたシステム・リソースが、他のシステム・デバイスと競合していませんか。 ステップ・アップ・ガイドの「システム・リソースの競合を回避する」を参照してください。• PC カード用に確保されたリソースの設定が、アプリケーション・プログラムでの設定と一致していますか。 モデム・カードを使用している場合は、COM ポート番号、入出力ポート・アドレス、および IRQ レベルを確認してください。ネットワーク・カードを使用している場合は、入出力ポート・アドレス、IRQ レベル、およびメモリー・ウィンドウ・アドレスを確認してください。PC カードに割り当てられているリソースを調べるには、「ThinkPad 機能設定」プログラムの「PC カード・スロット」と「割り当てられたリソース」タブをクリックします。
PCカード使用時に、システム・リソースの競合が起こる。	ステップ・アップ・ガイドの「システム・リソースの競合の回避」を参照してください。
PC カード・サポート・ソフトウェアが PC カードを認識しない。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none">• PC カードの種類がモデム・カード、ATA カード、フラッシュ・カード、または SRAM カードのいずれでもない場合は、そのカード用の適切なクライアント・デバイス・ドライバがありますか。Windows 95 の場合、PC カードは、それに関連する INF ファイルが必要です。• PC カードは、PCMCIA リリース 2.0、2.01、または 2.10 をサポートしません。PC カードに付属の説明書を参照してください。PC カードが、PCMCIA リリース 2.0、2.01、または 2.10 をサポートしない場合、PC カード・ディレクターは使用できません。PC カードの製造会社にご連絡ください。• PC カードに診断テストが付属している場合は、それを実行して作動するかどうか調べてください。

問題	原因と処置
<p>PC カードは PC カード・サポート・ソフトウェアに認識されるが、「使用不可」または「構成不可」のメッセージが表示される。</p>	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • PC カード・イネーブラーがインストールされていますか。PC カードに付属の説明書を参照してください。 • PC カードの種類がモデム・カード、ATA カード、フラッシュ・カード、または SRAM カードのいずれでもない場合は、そのカード用の適切なクライアント・デバイス・ドライバがありますか。Windows 95 の場合、PC カードは、それに関連する INF ファイルが必要です。 • PC カードに対するリソースが正しく確保されていますか。ステップ・アップ・ガイドの「システム・リソースの競合の回避」を参照してください。
<p>システムが PC カードから始動できない。</p>	<p>PC カードから始動する手順は、次のとおりです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。 2. 「ウルトラベイ II」 () ボタンをクリックします。 3. 「ウルトラベイ II のホット/ウォーム・スワップを使用可能にする」チェックボックスをクリックして、チェック・マークを消します。 4. 「OK」をクリックします。 <p>PC カード用に正しいシステム資源が使用されていることを確認してください。</p> <p>ATA: IRQ 15 I/O 170–177h、376h</p> <p>注: セカンダリー IDE は使用不可にする必要があります。</p> <p>RPL (トークンリング): IRQ 9 メモリー : D6000–DBFFFh I/O A20–A23h</p> <p>RPL (イーサネット): IRQ 5 メモリー D2000–D7FFFh I/O 300–31Fh</p>

問題	原因と処置
<p>PC カードをインストールして構成しても、作動しない。</p>	<ul style="list-style-type: none"> • モデム・カード: 「モデム コントロール」パネルと使用している通信アプリケーションの設定がすべて対応していて、正しいかを確認します。 • SCSI カード: SCSI カード用の正しいドライバーがインストールされているか確認します。 注: ThinkPad を操作中に SCSI カードを挿入することはできませんが、できるだけ起動時に挿入するようにしてください。 • ネットワーク・カード: すべてのネットワーク構成要素が正しくインストールされているか確認します。 • コンボ・カード: コンボ・カード用の正しいドライバーがインストールされているか確認します。システムを再始動してから、コンボ・カードを差し込みます。
<p>バッテリー操作で PC カードを使用してアクセスしようとすると ThinkPad がネットワークの接続が切断される。</p>	<p>ThinkPad では、バッテリー寿命を延ばすために、プロセッサの速度とバッテリー操作時間に制限がありますが、ネットワーク・カードによっては、プロセッサ制御ができないものがあります。次の手順を行ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを「設定」に移動してから、「コントロール パネル」をクリックします。 3. 「ThinkPad 機能設定」アイコンをダブルクリックします。 4. 「省電力」をクリックします。 「省電力のプロパティ」ウィンドウが表示されます。 5. 「パワー・モード」タブをクリックします。 6. 「電源」リスト・ボックスの「バッテリー」が選択されているかどうか確認します。選択されていない場合は、「バッテリー」を選択します。 7. 「カスタマイズ済み」ボタンをクリックします。 8. 「詳細設定」の下の「パワー・モード」リスト・ボックスの「最大化」を選択します。 9. 「OK」をクリックして、変更を適用します。


問題	原因と処置
<p>PC カード・タイプのインターフェースを使用する外付け CD-ROM ドライブやネットワークPCカードなど、共有メモリーを利用する PC カードを挿入すると、正常に Windows98 の終了または再起動ができない。</p>	<p>これは Windows 98 の問題です。 暫定的な対策として、次の変更を行うことで Windows の終了ができるようになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」をクリックしてから、マウス・ポインターを「設定」、「コントロールパネル」の順に移動し、「コントロールパネル」をクリックします。 2. 「システム」をダブルクリックします。 3. 「システムのプロパティ」ウィンドウが表示されます。 4. 「デバイスマネージャ」タブをクリックします。 5. 「ユニバーサル シリアルバス コントローラ」の左側の「+」をクリックし、「Intel 82371AB/EB PCI to USB Universal Host Controller」をクリックして選択します。 6. 「プロパティ」ボタンをクリックします。 7. 「Intel 82371AB/EB PCI to USB Universal Host Controller のプロパティ」ウィンドウが表示されます。 8. 「リソース」タブをクリックします。 9. 「自動設定を使う」をクリックしてチェックマークを外します。 10. 「I/O の範囲」をクリックして選択します。 11. 「設定の変更」ボタンをクリックします。 12. 「I/O の範囲 の編集」ウィンドウが表示されます。 13. 「競合の情報」に「競合デバイスなし」が表示されているのを確認しながら、「値」の右側の上下矢印のボタンをクリックして、「値」を現在設定されている I/O の範囲から別の範囲に変更します。 14. 「OK」をクリックして、「I/O の範囲 の編集」ウィンドウをクローズします。 15. 「OK」をクリックして、「Intel 82371AB/EB PCI to USB Universal Host Controller のプロパティ」ウィンドウを閉じます。 16. 「変更不可の環境設定の作成」というメッセージが表示されます。 17. 「続行しますか？」に対して、「はい」をクリックします (途中、例外 OE 等のエラーが表示される事もありますが、Enter キーを押してください)。 18. 「閉じる」をクリックして、「システムのプロパティ」ウィンドウをクローズします。 19. 活動中のすべてのウィンドウをクローズします。 20. 「スタート」をクリックしてから、「Windows の終了」をクリックします。 21. 「電源を切れる状態にする」を選択し、「OK」をクリックして、Windows を終了します。途中でストップした場合は、電源スイッチで電源を切ります。

拡張ユニットまたはセクタベースの問題

問題	原因と処置
<p>拡張ユニットの IDE CD-ROM ドライブまたはハードディスク・ドライブが作動しない。</p>	<p>拡張ユニットの 2 次 IDE デバイスに対するシステム・リソースが、他のデバイスのシステム・リソースと競合していないか確認してください。次の手順に従ってください。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、「ThinkPad 機能設定」をクリックします。 3. 「拡張ユニット」() アイコンをクリックし、「IDE デバイス」タブの「拡張ユニット中のウルトラベイ IDE デバイス」で「使用する」を選択します。 注: PCI デバイス設定に IRQ 11 と IRQ 15 は使用しないでください。 4. 「設定」をクリックします。
<p>拡張ユニットの MIDI コネクターが作動しない。</p>	<p>拡張ユニットの MIDI コネクターを使用可能にする場合は、「ThinkPad 機能設定」を使用します。次の手順によって、MIDI コネクターが使用可能になっているかどうか確認します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを起動します。 2. 「MIDI/ジョイスティック・ポート」をクリックします。 3. MIDI ポートが使用可能になっているかどうか確認します。使用不可になっている場合は、「使用する」をクリックしてから、「設定」をクリックします。 4. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを終了し、ThinkPad を再起動します。 <p>注: ThinkPad の再始動時に、MIDI ドライバーをインストールする必要がある場合があります。画面の指示に従い、ご使用のオペレーティング・システムに合ったデバイス・ドライバをインストールしてください。</p>
<p>ThinkPad の電源をオンにしたとき、または通常の操作状態に戻ったときに ThinkPad がハング (停止) する。</p>	<p>次の点について確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 本書の説明に従って、AC アダプターがセクタベースまたは拡張ユニットに接続されていますか。 • セクタベースまたは拡張ユニットの電源オン・インジケーターがオンになっていますか。 • ThinkPad がセクタベースにしっかり接続されていますか、または ThinkPad とセクタベースが拡張ユニットにしっかり接続されていますか。 <p>それでも問題が解決されない場合は、セクタベースおよび拡張ユニットに付属の資料を参照してください。</p>

問題	原因と処置
ポート・リプリケーターに取り付けられている PC カードが認識されず、PC カード・スロットが使用できない。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • AC アダプターがポート・リプリケーターに接続されていますか。 • ポート・リプリケーターの電源オン・インジケーターがオンになっていますか。 • ThinkPad がしっかりとポート・リプリケーターに接続されていますか。 <p>この問題は、Windows 98 を再インストールしたとき、または Easy-Setup を使用してシステムの初期化をしたときに起こる可能性があります。</p>

プリンターの問題

問題	原因と処置
プリンターが作動しない。	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • パラレル・ポートが使用可能になっていますか。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを「プログラム」、「ThinkPad」の順に移動してから、 「ThinkPad 機能設定」をクリックします。 3. 「パラレル・ポート」()をクリックします。 4. 「使用する」を選択します。 5. 「OK」をクリックします。 • プリンターの電源がオンで、印刷可能になっていますか。 • プリンターの信号ケーブルが ThinkPad の正しいコネクタに接続されていますか。 <p>上記の項目に問題がないにもかかわらず、プリンターが作動しない場合は、プリンターの説明書に記載されているテストを実行してください。このテストでプリンターの問題が検出されない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>

外付けディスプレイの問題

問題	原因と処置
外付けディスプレイに何も表示されない。	<p>次のようにします。</p> <ol style="list-style-type: none">1. 外付けディスプレイを他の ThinkPad に接続し、作動するかどうかを確認します。2. 外付けディスプレイを、ご使用の ThinkPad にもう一度接続します。3. 外付けディスプレイに付属の資料を参照して、サポートされている解像度をチェックします。4. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを起動します。5. 「ThinkPad 機能設定」プログラムのツールバーの「ディスプレイ装置」ボタンを選択します。<ul style="list-style-type: none">• 外付けディスプレイがサポートする解像度が、LCD の解像度と同じかそれ以上である場合は、「CRT ディスプレイ単独」または「LCD と CRT ディスプレイ両方」をクリックします。• 外付けディスプレイがサポートする解像度が、LCD の解像度より低い場合は、「CRT ディスプレイ単独」をクリックします。(「LCD と CRT ディスプレイ両方」をクリックした場合は、外付けディスプレイの画面はブランク (何も表示されていないかゆがんでいます。)

問題	原因と処置
<p>外付けディスプレイに現在の解像度よりも高い解像度を設定することができない。</p>	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次の手順に従って、ディスプレイ・ドライバーが正しくインストールされていることを確認してください。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動し、「コントロール パネル」をクリックします。 3. 「画面」をダブルクリックします。 4. 「画面のプロパティ」のウィンドウで「設定」タブを選択します。 5. (Windows 98) 「詳細」ボタンをクリックします。 (Windows NT) 「ディスプレイ タイプ」をクリックします。 「アダプタ」タブで、ThinkPad ディスプレイ・ドライバーがインストールされているかどうか確認します。 6. 「OK」をクリックします。 ディスプレイ・ドライバーがインストールされているかどうか不確かな場合は、再インストールしてください。 • 適切なディスプレイ・タイプは、次のようにして選択します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動し、「コントロール パネル」をクリックします。 3. 「画面」をダブルクリックします。 4. 「画面のプロパティ」のウィンドウで「設定」タブを選択します。 5. 「詳細」ボタンをクリックします。 6. 「モニタ」タブをクリックします。 7. 「変更」ボタンをクリックします。 「デバイス・ドライバの更新ウィザード」が表示されます。 8. 「次へ」をクリックし、「特定の場所にあるすべてのドライバの一覧を作成し、インストールするドライバを選択する」、「すべてのハードウェアを表示」の順に選択して、画面の指示に従います。 9. ディスプレイの「製造元」と「モデル」を選択し、画面の指示に従います。 10. ドライバーの更新後、「OK」をクリックして、「プロパティ」ウィンドウをクローズします。 11. 「画面のプロパティ」ウィンドウで、「色」および「画面の領域」を設定します。 12. 「OK」をクリックします。



問題	原因と処置
<p>画面が判読不能またはゆがんでいる。</p>	<p>次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> • 次のようにして、ディスプレイ・ドライバーが正しくインストールされているかどうか確認します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「スタート」ボタンをクリックします。 2. マウス・ポインターを「設定」、「コントロール パネル」の順に移動し、「コントロール パネル」をクリックします。 3. 「画面」をダブルクリックします。 4. 「画面のプロパティ」のウィンドウで「設定」タブを選択します。 5. (Windows 98) 「詳細」ボタンをクリックします。 (Windows NT) 「ディスプレイ タイプ」をクリックします。 「アダプタ」タブで、ThinkPad ディスプレイ・ドライバーがインストールされているかどうか確認します。もし違っている場合は、ディスプレイ・ドライバーをインストールしてください。 • 次のようにして、ディスプレイが正しく設定されているかどうか確認します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで、「詳細」ボタンをクリックします。 2. 「モニタ」タブをクリックします。 正しいディスプレイが選択されているか確認してください。 違っている場合は、正しいモニタ・タイプを選択します。 3. 「OK」をクリックして、ウィンドウをクローズします。 • 次のようにして、リフレッシュ・レートが正しく選択されているかどうか確認します。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「画面のプロパティ」ウィンドウの「設定」タブで、「詳細」ボタンをクリックします。 2. 「アダプタ」タブを選択します。 3. ディスプレイの正しいリフレッシュ・レートを選択します。正しいリフレッシュ・レートが不確かな場合は、「最適」を選択します。 • VGA (640 x 480 の解像度) 専用の外付けディスプレイを接続しているかどうか確認してください。 <ul style="list-style-type: none"> - [Fn] + [F7] で CRT ディスプレイ単独表示に切り替えます。 <p>設定が正しい場合は、外付けディスプレイの説明書に記載されているテストを実行してください。このテストで外付けディスプレイの問題が検出されない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。</p>
<p>画面に間違った文字が表示される。</p>	<p>オペレーティング・システムとアプリケーション・プログラムが正しい手順でインストールされているか確認してください。</p> <p>正しくインストールされている場合は、外付けディスプレイの修理を依頼してください。</p>

TV の問題

問題	原因と処置
画面に何も表示されない。	次のことを確認します。 <ul style="list-style-type: none">• TV 設定を使用可能にしていますか。マルチモニタ機能でプライマリ モニタとしてTV を使用するために、ThinkPad を起動する場合は、そのつど TV 設定を使用可能にする必要があります。

その他のオプションの問題

問題	原因と処置
取り付けただけの IBM 製オプションが作動しない。	次の項目を確認してください。 <ul style="list-style-type: none">• オプションは ThinkPad 用に設計されたものですか。• オプションが、オプションに付属の説明書または本書に従って正しく取り付けられていますか。• 取り付けられている他のオプションやケーブル類がしっかりと接続されていますか。• I/O アドレス、割り込み (IRQ) レベル、DMA チャネルの設定に競合はありませんか。システム・リソースの状況を確認するには、「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動して、各装置のアイコンをクリックしてください。 オプションのテスト・プログラムで問題が検出されなかった場合は、ThinkPad とオプションの修理を依頼してください。
今まで動いていた IBM 製オプションが作動しない。	次の項目を確認してください。 <ul style="list-style-type: none">• オプションが ThinkPad にしっかりと接続されていますか。• そのオプションはその自己テストが正常に終了していますか。オプションにテスト・プログラムが付属していれば、その指示に従ってオプションをテストしてください。• システム資源の競合がない(→ ステップ・アップ・ガイドの「システム・リソースの競合の回避」)。 上記の項目に問題がなく、テスト・プログラムでも問題が検出されない場合は、ThinkPad とオプションの修理を依頼してください。

問題	原因と処置
シリアル・ポートが作動しない。	<p>次の手順に従って、シリアル・ポートが使用可能になっていることを確認してください。</p> <p>Windows 98 の場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。 2. 「シリアル・ポート」 () をクリックします。 3. 「使用する」を選択します。 4. 「デバイス・マネージャ」をクリックします。 5. 「デバイス・マネージャ」ウィンドウでポートをチェックし、設定が正しいかどうか確認します。 6. 「OK」をクリックします。 <p>Windows NT の場合：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 「ThinkPad 機能設定」プログラムを始動します。 2. 「シリアル・ポート」 () をクリックします。 3. 「使用する」を選択してから、「COM1」、「COM2」、「COM3」、または「COM4」を選択します。 4. 「OK」をクリックします。

ソフトウェアの問題

問題	原因と処置
<p>アプリケーション・プログラムが正しく作動しない。</p>	<p>問題の原因がアプリケーションにあるかどうかを調べるために、次の項目を確認してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> そのアプリケーションを使用するために最低限必要なメモリーが ThinkPad にありますか。アプリケーションに付属の説明書を参照してください。 そのアプリケーションがオペレーティング・システムで実行できるように設計されていますか。 問題のアプリケーション以外は、ThinkPad で正しく実行されますか。 必要なデバイス・ドライバーがインストールされていますか。 ➡ ステップ・アップ・ガイド 問題のアプリケーションは、別のコンピューターで正しく作動しますか。 <p>アプリケーション・プログラムを使用しているときにエラー・メッセージが表示された場合は、アプリケーション・プログラムに付属の説明書を参照してください。</p> <p>上記の項目に問題がないにもかかわらず、問題が解決されない場合は、アプリケーション・プログラムのお買い上げ店またはサービス技術員にご連絡ください。</p>
<p>「ThinkPad 機能設定」プログラムのメイン画面がゆがんでいる (Windows NT の場合のみ)。</p>	<p>「アクティブ デスクトップ」に Internet Explorer バージョン 4.0 を組み込んで、Windows NT にインストールすると、この問題が生じる可能性があります。次のどちらかの処置を実行します。</p> <ul style="list-style-type: none"> アクティブ デスクトップをアンインストールします。(アクティブ デスクトップを使用不可にするだけでは、この問題は解決しません。) 「ThinkPad 機能設定」プログラムをいったんクローズし、あらためて始動します。(これは一時的な回復です。)
<p>MS-DOS ゲームが稼働しない、または停止する。</p>	<p>このような問題は、リアル・モード・アプリケーションと、リアル・モードと保護モードの両方を提供する SystemSoft PCMCIA ドライバーの間で異常が発生しているときに起こります。購入時のシステム構成を変更せずに、MS-DOS モードでシステムを始動すれば、異常が発生することはありません。したがって、MS-DOS ゲームのプレイに問題はありません。</p> <p>次のようにして、システムを MS-DOS モードで再起動します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 「スタート」ボタンをクリックします。 「Windows の終了」をクリックします。 「Windows の終了」ウィンドウが表示されます。 「MS-DOS モードで再起動する」をクリックします。 「はい」をクリックします。 <p>システムが MS-DOS モードで再起動します。このモードでゲームを実行します。</p>

その他の問題

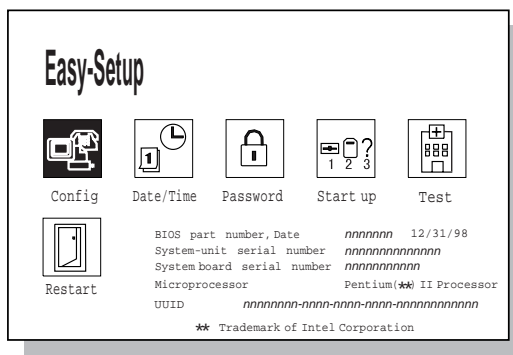
問題	原因と処置
ThinkPad がハングアップした、またはどんな入力もまったく受け付けない。	<ul style="list-style-type: none">• 通信操作をしているときにサスペンド・モードに入ると、ThinkPad がハングアップすることがあります。ネットワークに接続しているときは、サスペンド・タイマーを使用不可にしてください。• OS/2 Warp がインストールされている ThinkPad の電源をオンにする場合は、CD-ROM または DVD ドライブにディスクが入っていないかどうか確認します。入っている場合は、そのディスクを取り出し、ThinkPad の電源をいったんオフにしてから、再度オンにします。• ThinkPad の電源をオフにするには、ボールペンの先などで電源遮断スイッチを押します。
電源スイッチをオフにしても ThinkPad の電源がオフにならない。	<p>バッテリー電源を使っていて、サスペンド・インジケーターがオンになっている場合は、バッテリーをフル充電されたものに交換するか、AC アダプターを接続してください。</p> <p>それでも問題が解決しない場合は、ボールペンの先などで電源遮断スイッチを押して ThinkPad の電源をオフにしてください。</p>
ThinkPad をディスケットから始動できない。	ThinkPad がディスケット・ドライブから始動できるよう、Easy-Setup で始動優先順位が設定されているかどうか確認します (17ページの『Easy-Setup』を参照してください)。

ThinkPad のテスト

『問題判別表』の処置をとっても ThinkPad の問題が解決しない場合は、Easy-Setup の「Test」機能を使用して、ThinkPad をテストします。

ThinkPad をテストする手順は、次のとおりです。

- 1 スピーカーの音量調節が中間位置になっているかどうか確認します。
- 2 **[F1]** キーを押しながら、ThinkPad の電源をオンにし、Easy-Setup を始動します。「Easy-Setup」メニューが表示されるまで、**[F1]** キーを押し続けます。



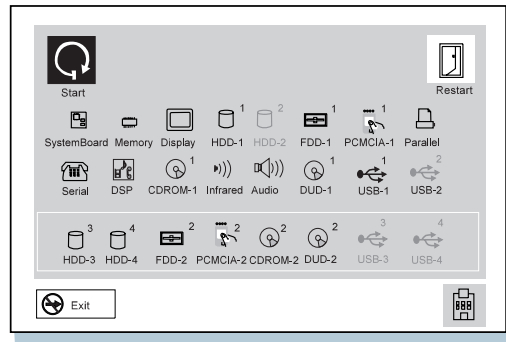
短いピーブ音が 1 回鳴ります。ピーブ音が鳴ったかどうか確かでない場合は、スピーカーの音量を調節します。ThinkPad の電源をいったんオフにしてから、もう一度オンにします。それでもピーブ音が聞こえない場合は、スピーカーが作動していません。ThinkPad の修理を依頼してください。

- 3 「Test」アイコンを選択してから、「Start」アイコンを選択し、**Enter** キーを押します。



テスト中は、キーボードやポインティング・デバイスに触れないようにします。

次のようなウィンドウが表示されます。このウィンドウに表示されているデバイスは、ご使用の ThinkPad の機能とオプションに対応しています。



- 次のメニューが表示されない場合は、ThinkPad の修理を依頼してください。
- エラーが検出されると、X という文字がアイコンの左に表示され、その下にエラー・コードが表示されます。エラー・コードを記録し、ThinkPad の修理を依頼してください。



オプションとしてセレクトドック I または II 拡張ユニットを ThinkPad で使用している場合は、セレクトドック拡張ユニットをテストするための診断ディスクを作成する必要があります。この診断ディスクは、既存のセレクトドック I またはセレクトドック II オプション・ディスクの診断部分に替わるものです。次の手順を実行します。

1. 導入済みアプリケーション CD の「ディスクット・ファクトリー」プログラムを使用して、セレクトドック I/II 診断ディスクを作成します。
2. ThinkPad をセレクトドック I または II 拡張ユニットに接続します。
3. セレクトドック I/II 診断ディスクで起動します。
画面の指示に従ってください。

ここでは、ThinkPad の機能と仕様について説明します。

機能

プロセッサ

- Intel® モバイル Pentium® II プロセッサ

メモリー

- 標準装備：128 MB または 64 MB
- オプション：合計最大 320 MB まで増設可能

ストレージ・デバイス

- アップグレード可能な 2.5 インチのハードディスク・ドライブ

ディスプレイ

TFT テクノロジー使用のカラー・ディスプレイ

- 13.7 インチ LCD で最大 1280x1024 の解像度
- 14.1 インチ LCD で最大 1024x768 の解像度
- 外付けディスプレイで最大 1600x1200 の解像度
- 輝度調節

キーボード

- 89キー + **Fn** キー
- トラックポイント
- Fn キー機能

外付けディスク・ドライブ

高品質のディスク (IBM のディスクなど) をご使用になることをお勧めします。

- **2 DD**、3.5インチ・ディスク
- **2 HD**、3.5インチ・ディスク

外部インターフェース

- シリアル・コネクタ (EIA-RS232D)
- パラレル・コネクタ (セントロニクス)
- 外付け入力装置コネクタ
- 外付けディスプレイ・コネクタ
- 外付けディスク・ドライブ・コネクタ
- 拡張コネクタ
- PC カード・スロット (タイプ I またはタイプ II の PC カードを 2 枚、またはタイプ III の PC カードを 1 枚使用可能)
- ヘッドホン・ジャック
- マイクロホン/ライン入力ジャック (ダイナミック・マイクロホンまたはバッテリー電源コンデンサー・マイクロホン)
- 赤外線ポート
- 汎用シリアル・バス (USB) コネクタ
- 電話用コネクタ

データ・モデム機能

- 非同期通信ポート・インターフェース (NS16550A UART 互換) 操作
- ITU-T V.34 (最大 33.6 Kbps) データ・モデム (データ転送速度は 2400、4800、7200、9600、12000、16800、19200、21600、24000、26400、31200、および 33600 bps)
- ITU-T V.32bis プロトコル (データ転送速度は 4800、7200、9600、12000、および 14400 bps)
- ITU-T V.32 プロトコル (データ転送速度は 4800 bps または 9600 bps 非コード化、および 9600 bps Trellis コード化)

- ITU-T V.21/V.22,V.22bis プロトコル (データ転送速度は 300 bps ~ 2400 bps)
- Hayes** AT コマンド・セットとの互換性
- 非同期エラー回復プロトコル
- Microcom Network Protocol (MNP**) プロトコル
 - MNP クラス 1 ~ 4 によるエラー訂正
 - MNP クラス 5 および V.42bis によるデータ圧縮
 - MNP クラス 5 (最大 2 倍までのデータ圧縮が可能)
- VoiceView (Windows 98 および Windows 95 の場合のみ)
- U.S. Robotics 56K Technology** プロトコル (データ転送速度は 56 Kbps) (Windows 98、Windows 95、および Windows NT の場合のみ)

ファクシミリ (FAX) モデム機能

- クラス 1 FAX モデム
- クラス 2 FAX モデム
- G3 転送
- ITU-T T.4 および T.30 操作
- ITU-T V.27ter -2400/4800 bps での送受信
- ITU-T V.29 -7200/9600 bps での送受信
- ITU-T V.17 -14400 bps での送受信

仕様

寸法

- 幅 : 313 mm
- 奥行き : 254 mm
- 高さ : 56 mm

環境

注:

バッテリー・パックを充電する場合、充電する環境の温度は最低でも 10°C 以上ある必要があります。10°C より低い環境で充電してもフル充電されない場合があります。

- 温度:
 - ディスケットが入っていない場合の動作時: 5° ~ 35°C (2,438 m 以下)、5° ~ 31.3°C (2,438 ~ 3,048 m)
 - ディスケットが入っている場合の動作時: 10° ~ 35°C (2,438 m 以下)、10° ~ 31.3°C (2,438 ~ 3,048 m)
 - 非動作時: 5° ~ 43°C
- 相対湿度:
 - ドライブにディスクが入っていない場合の動作時: 8% ~ 95%
 - ドライブにディスクが入っている場合の動作時: 8% ~ 80%
- 最大高度動作時: 圧力を受けない状態で 3,048 m

発熱量

- 1 時間あたり 約 48 Kcal

電源 (AC アダプター)

- 50 ~ 60 Hz での正弦波入力が必要。
- AC アダプターの定格入力: 100 ~ 240 V AC、50/60 Hz

リチウム・イオン・バッテリー・パック

- 公称電圧: 10.8 V DC
- 容量 :4.8 AH

本書において、日本では発表されていない IBM 製品（機械およびプログラム）、プログラミングまたはサービスについて言及または説明する場合があります。しかし、このことは、弊社がこのような IBM 製品、プログラミングまたはサービスを、日本で発表する意図があることを必ずしも示すものではありません。本書で、IBM ライセンス・プログラムまたは他の IBM 製品に言及している部分があっても、このことは当該プログラムまたは製品のみが使用可能であることを意味するものではありません。これらのプログラムまたは製品に代えて、IBM の知的所有権を侵害することのない機能的に同等な他社のプログラム、製品またはサービスを使用することができま。ただし、IBM によって明示的に指定されたものを除き、これらのプログラムまたは製品に関連する稼働の評価および検証はお客様の責任で行っていただきます。

IBM および他社は、本書で説明する主題に関する特許権（特許出願を含む）、商標権、または著作権を所有している場合があります。本書は、これらの特許権、商標権、および著作権について、本書で明示されている場合を除き、実施権、使用権等を許諾することを意味するものではありません。実施権、使用権等の許諾については、下記の宛先に、書面にてご照会ください。

〒106-0032
東京都港区六本木 3 丁目 2-31
AP事業所
IBM World Trade Asia Corporation
Intellectual Property Law & Licensing

西暦 2000 年対応および説明

ある製品が 2000 年対応と言えるのは、その製品を、その製品の説明書と共に使用したときに、1999 年と 2000 年にまたがる日付データの処理、引き渡し、および受け取りが正しくできる場合です。ただし、その製品で使用される他のすべての製品（たとえば、ソフトウェア、ハードウェア、およびファームウェア）が、その製品と日付データを正確に交換できることが条件です。

この IBM PC ハードウェア製品は、1999 年と 2000 年にまたがる 4 桁の日付データを正しく処理するように設計されています。ご使用の IBM コンピューターが 1999 年から 2000 年に移る瞬間にオンになっている場合は、必ず、それをいったんオフにしてから、もう一度オンにするか、オペレーティング・システムを再起動し

て、内蔵クロックが新しい世紀に対応するためにリセットできるようにしてください。

この IBM PC 製品は、使用されているソフトウェアや、その製品とデータを交換しているソフトウェアが西暦 2000 年対応でない場合には、エラーの発生を防ぐことはできません。この製品に付属の IBM ソフトウェアは西暦 2000 年対応ですが、この製品に他社のソフトウェアが付属している場合もあります。IBM では、そのソフトウェアが西暦 2000 年に対応しているかについては、保証できません。西暦 2000 年に対応しているかの確認、制限事項の確認、またはソフトウェア更新について知りたい場合は、そのソフトウェア開発者に連絡してください。

IBM PC 製品と西暦 2000 年対応について詳しく知りたい場合は、IBM の Web サイト (<http://www.ibm.co.jp/ad2000>) にアクセスしてください。そこで提供されている情報とツールが、西暦 2000 年の移行計画 (特に、複数の IBM PC をお持ちの場合) の作成を手助けします。IBM では、そこで提供されている更新情報を定期的にチェックすることをお勧めします。

商標

次の用語は、米国およびその他の国における IBM 社の商標です。

IBM	PS/2
Operating System/2	RediSafe
OS/2	ThinkPad
	トラックポイント

Microsoft、Windows、および Windows NT は、Microsoft Corporation の商標または登録商標です。

Intel®、Pentium®、および MMX™ は、米国およびその他の国における Intel Corporation の商標または登録商標です。

その他の会社名、製品名、およびサービス名は、各社の商標または登録商標です。

特許保護に関する注意

次の注意が該当するのは、DVD および TV 出力機能を備えた ThinkPad の場合です。

この装置は、米国特許番号 4631603、4577216、4819098、4907093 およびその他の知的所有権によって保護されています。この装置に組み込まれている Macrovision のコピー・プロテクト・テクノロジーの使用には、Macrovision による許可が必要であり、Macrovision の文書による許可がない限り、自家およびその他の限定有料使用 (1 回の表示ごとに料金を支払う) のみに限られます。リバース・エンジニアリングまたは逆アセンブルは禁じられています。

日本語、英字、数字、特殊文字の順に配列されています。なお、濁音と半濁音は清音と同等に扱われています。

〔ア行〕

安全に正しくお使いいただくために xii

インジケーター

問題 145

ウォーム・アンドッキング 81

ウルトラベイ II 33

交換 88

液晶ディスプレイ

問題 144

エラー・コード 132

エラー・メッセージ 132

オーディオの問題 151

オプション

拡張ユニット 77

入力装置、接続 61

ハードディスク・ドライブのアップグレード 56

ポート・リプリケーター 77

メモリーの増設 49

問題 163

PC カードの取り付け 74

オペレーティング・システムの再インストール 34

音量 14

〔カ行〕

解像度 68

拡張ユニット

ウォーム・アンドッキング 81

コールド・ドッキング 78

接続 (ドッキング) または取り外し (アンドッキング) 77

ホット・アンドッキング 81

問題 158

リソースの競合 83

IDE デバイスの使用 84

カスタマイズ

システム 34

カスタマイズ (続き)

内蔵デバイス 28

画面

イメージの拡大または縮小 15

配色の変更 18

問題 139, 144

画面の配色の変更 18

キーボード

仕様 169

数値キーパッド 16

トラックポイント 10

Fn キー 13

機械の仕様 (寸法) 172

機能 169

機能設定

プログラム 28

キャプチャー・ドライバーの問題 151

コールド・ドッキング 78

構成

Easy-Setup 18

〔サ行〕

サスペンド・モード 14

問題 141

CD-ROM ドライブの使用 (Windows 95 の場合) 117

PC カードを使用する場合の制限 74

時刻の設定 20

システム状況インジケーター

問題 145

システム設定情報の一時保存 35

システム設定情報の復元 35

始動

最適化 20

優先順位の設定 22

始動パスワード 98

消去 102

設定 100

変更 102

- 仕様 169
 - サイズ 172
 - 湿度、環境 172
 - 入力電圧 172
 - バッテリー・パック 172
 - 発熱量 172
- 仕様 (温度) 172
- 仕様、発熱量 172
- 使用可能
 - キーボード上の数値キーボード 16
 - トラックポイント 65
- 消去
 - パスワード 102
- 使用不可
 - キーボード上の数値キーボード 16
 - トラックポイント 65
- シリアル・コネクタの問題 164
- シンプル・ブート・フラグ機能 20
- スーパーバイザー・パスワード 98
 - 消去 104
 - 設定 100
 - 変更 104
 - 忘れた場合 102
- 数値キーボード、設定
 - キーボード 16
 - 外付け 61
- スタンバイ・モード 14
- 制限
 - サスペンド・モード時の PC カードの取り外し 74
 - 外付けディスプレイの取り外し 68
 - 外付けマウスとトラックポイント 65
 - トラックポイントと外付けマウス 48, 65
 - PC カード 26, 126
- 赤外線ポート
 - 問題 149
- セキュリティ
 - ねじ 114
- セキュリティ機能
 - セキュリティ・システム・ロック 113
 - パーソナライゼーション・エディター 109
 - パスワード 98
- セキュリティねじの使用 114
- セキュリティ・システム・ロック 113
- セットアップ 17

- 外付けキーボード
 - 数値キーボードとの併用 63
 - 問題 139
- 外付けディスプレイ
 - 解像度 68
 - 接続 66
 - ディスプレイ出力モードの変更 66
 - 取り外し、制限 68
 - 問題 160
- 外付けマウス
 - 設定 66
 - トラックポイントと併用する場合の制限 65
 - 問題 139
- ソフトウェアの問題 165

〔 夕行 〕

- データの保護 35
- ディスクет 170
- ディスクет基準 170
- ディスクет・ファクトリーの使用 34
- ディスプレイ
 - 参照：外付けディスプレイ
- ディスプレイ出力モードの変更 66
- 電話機能の問題 151
- 導入済みアプリケーション CD の使用 34
- ドライバー
 - 最新のソフトウェアの入手方法 35
 - ディスクет・ファクトリー 34
- トラックポイント 10
 - 拡大表示 47
 - 感度 46
 - キャップの交換 12
 - 使用可能 65
 - 使用不可 65
 - スクロール 47
 - 外付けマウスで使用する場合の制限 48
 - 外付けマウスと併用する場合の制限 65
 - プレス・セレクト 44
- トラックポイント、拡大表示 47
- トラックポイント、スクロール 47
- トラックポイント、プレス・セレクト 44
 - 感度の調節 46
- トラックポイントの感度 46

トラックポイントの自動使用不可 65

取り付け

メモリー 49

PC カード 74

取り外し

メモリー 54

PC カード 76

〔ナ行〕

内蔵デバイスのセットアップ 28

入力装置の問題 139

入力電圧 172

ネットワーク管理を使用可能にするには 27

〔ハ行〕

パーソナライゼーション・エディター

削除 112

設定 109

ハードウェア仕様 172

ハードディスク

回復、内容の 34

取り付け 56

問題 146

ハードディスク・ドライブ・パスワード 98

消去 102

設定 100

変更 102

忘れた場合 102

ハイパーネーション・モード 14

問題 141

CD-ROM ドライブの使用 (Windows 95 の場合) 117

HPFS 形式 (OS/2 の場合) 122

NTFS フォーマット (Windows NT の場合) 118

パスワード 98

消去 102

スーパーバイザー権限 107

設定 100

入力 99

プロンプトの表示 99

変更 102

文字、設定 101

パスワードの変更 102

バックアップ 34

バックアップ用バッテリー 38

バッテリー

交換 36

問題 145

パワー・モードの切り替え 14

汎用シリアル・バス (USB)

問題 152

日付の設定 20

ブート

最適化 20

優先順位の設定 22

プリンターの問題 159

ポート・リプリケーターの問題 158

ポインター

参照：トラックポイント

ホット・アンドッキング 81

〔マ行〕

マイクロプロセッサ、仕様 169

マウス

参照：トラックポイント

参照：マウス

マウス・ポインター

参照：トラックポイント

マウス・ポインターのドリフト (浮動) 11

ミュート 14

メモリー 54

サイズの計算 54

仕様 169

取り付け 49

取り外し 54

不足

DOS の場合 123

Windows 3.1 の場合 122

メモリー・サイズの計算 54

モデムの設定、PC カードまたは組み込み式 (OS/2 の場合)

問題判別

インジケーターの問題 145

エラー・コード 132

エラー・コードが表示されない 139

エラー・メッセージ 132

オーディオの問題 151

拡張ユニットの問題 158

画面上のメッセージが表示されない 139

問題判別 (続き)

- キャプチャー・ドライバーの問題 151
- サスペンド・モードの問題 141
- 赤外線通信の問題 149
- 外付けディスプレイの問題 160
- その他のオプションの問題 163
- その他の問題 166
- ソフトウェアの問題 165
- 電話機能の問題 151
- 入力装置の問題 139
- ハードディスク・ドライブの問題 146
- ハイバネーション・モードの問題 141
- バッテリーの問題 145
- 汎用シリアル・バス (USB) の問題 152
- プリンターの問題 159
- ポート・リプリケーターの問題 158
- モデムの問題 153
- CD-ROM ドライブの問題 147
- DVD ドライブの問題 148
- LCD の問題 144
- MPEG の問題 151
- PC カードの問題 154
- TV の問題 163
- 問題判別ガイド 129

〔ラ行〕

- リカバリー CD
 - 使用 34
 - 制限 34
- リソースの競合 83
- リモート・オペレーションの使用可能化 27

C

- CD-ROM ドライブ
 - プロパティの変更 117
 - 問題 147
- COM ポートの設定 123
- ConfigSafe 35
- CRT
 - 参照 : 外付けディスプレイ

D

- DIMM 49
 - 取り外し 54
- DVD
 - 問題 148

E

- Easy-Setup 17
 - テスト 167
 - パスワード 98
- EDO DRAM 49

F

- Fn キー 13

L

- LAN リモート・オペレーションを使用可能にするには 27
- LCD (液晶ディスプレイ)
 - 出力先の切り替え 14

M

- MPEG の問題 151

P

- PC カード
 - サポートする PC カード 74
 - 制限 26, 126
 - タイプ 75
 - 停止 76, 126
 - 取り付け 74
 - 取り外し 76
 - モデムの使用
 - 設定、OS/2 の場合 123
 - 問題 154
- PC カードまたは内蔵モデム
 - 問題 153

S

SDRAM 49

T

「ThinkPad 機能設定」プログラム 28

DOS 用の 123

Windows NT のウィンドウ 31

Windows 98 のウィンドウ 30

ThinkPad ユーティリティ 17

ThinkPad Web サイト 35

TV

問題 163

W

Wake on LAN を使用可能にするには 27

Web サイト 35

IBM

部品番号: 27L8033

Printed in Japan



27L8033

Grid Definitions

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
NNTE	C79GPSET	i	18, 22, 27, 28, 30, 50, 61, 74, 76, 79, 94, 117, 117, 118, 122, 122, 123, 172
NINDEX	C79GPSET	i	
IDEX	C79GPSET	i	

Table Definitions

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
THEAD	C79GPSET	i	
BOX	C79GPSET	i	68, 75
BOX2	C79GPSET	i	12, 13, 18, 20, 102
SHAD	C79GPSET	i	1, 172
NTE	C79GPSET	i	10, 11, 15, 16, 21, 21, 21, 27, 29, 36, 37, 39, 45, 48, 52, 56, 57, 58, 62, 65, 67, 67, 68, 69, 70, 70, 71, 71, 75, 76, 77, 78, 80, 81, 82, 82, 83, 84, 89, 90, 90, 92, 93, 101, 101, 104, 107, 110, 111, 113, 117, 122, 168, 168
AX2	C79GPSET	i	
AX	C79GPSET	i	
SYMBL2	C79GPLOC	8	8
FNKEY	C79GPFNK	14	14, 14
INT	C79GPFNK	14	14, 14, 14
NNTE	UGSGP3ES	22	22, 22
INTN	UGSGP3ES	22	22
MOTO1	UGSGP3ES	24	24, 24
KAGE	UGSGP3ES	24	24, 24, 25
SERIALT	UGCOMSVC	40	40, 40, 40
SERIALF	UGCOMSVC	40	40
SERIALH	UGCOMSVC	40	
2PCOL	UGDGPNT	61	61, 63
HEAD	C79GP3DI		

BASE	C79GP3DI	69	69
DEARP	UGSGPDOG	69	69
DEARQ	UGSGPDOG	77	77
TTABLE	UGCOMTSG	77	77
COV	UGCOMTSG	129	129, 129
TROUBLE	UGCOMTSC	129	129, 129
		132	132, 139, 139, 141, 144, 145, 145, 146, 147, 148, 149, 151, 151, 152, 153, 154, 158, 159, 160, 163, 163, 165, 166

Headings

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
SINF	C79GPMST SCRIPT	xii	安全に正しくお使いいただくために ii
LASER	C79GPMST SCRIPT	xv	レーザーに関する承諾事項
FAMIL	C79GPMST SCRIPT	1	第1章, ご使用の ThinkPad について
LOCT	C79GPMST SCRIPT	2	各部の機能と名称
STATUS	C79GPLOC	8	システム状況インジケーター
SETTP	UGSGPKBD	10	トラックポイント v
HKFUN	C79GPFNK	13	Fn キー機能
EMBPAD	UGCOMNUK	16	数値キーボード
TU	C79GPMST SCRIPT	17	ThinkPad ユーティリティ・プログラム
EASYS	C79GPMST SCRIPT	17	Easy-Setup 100, 166
POME	UGSGP3ES	24	「Power-On」サブメニュー 23
NEME	UGSGP3ES	27	「Network」サブメニュー 23
TPFUN	C79GPMST SCRIPT	28	「ThinkPad 機能設定」プログラム 13, 65, 66, 71
BKUPSYS	C79GPMST SCRIPT	34	ソフトウェアの再設定 110
RTCCD	C79GPBAK	34	導入済みアプリケーション CD の使用 129

RECOVCD	C79GPBAK	34	Product Recovery CD-ROM の使用 129
FACT	C79GPBAK	34	ディスクレット・ファクトリーの使用 129
WEB	C79GPBAK	35	最新のソフトウェアの入手方法
RMVBTT	C79GPMST SCRIPT	36	バッテリー・パックの交換 56
SERVV	C79GPMST SCRIPT	40	サービス体制 129
CUSTMT	C79GPMST SCRIPT	44	トラックポイントの設定 10, 12
EXMEM	C79GPMST SCRIPT	49	メモリーの増設
FDD	C79GPMST SCRIPT	59	ディスクレット・ドライブの外付け接続
ATNUM	C79GPMST SCRIPT	61	マウス、数値キーパッド、および外付けキーボードの接続
SMOUSE	C79GPMST SCRIPT	65	トラックポイントの使用不可 62
DISPLY	C79GPMST SCRIPT	66	外付けディスプレイの接続
DSVGA	C79GP3DI	68	解像度、色数、およびリフレッシュ・レート 67
DUAL	C79GPMST SCRIPT	70	マルチモニタ機能の使用
DUALTV	C79GPDUL	71	TV でマルチモニタ機能を使用可能にするには 70
INSTCA	C79GPMST SCRIPT	74	PC カードの取り付け v
OPEXP	C79GPMST SCRIPT	77	拡張ユニットの使用
HOTNWAR	UGSGPDOC	84	拡張ユニットの IDE ドライブの使用 83
THREECH	UGSGPDOC	84	3 チャンネルの IDE モードへの設定
TWOCH	UGSGPDOC	85	2 チャンネルの IDE モードへの設定
SWAP	C79GPMST SCRIPT	88	ウルトラベイ II デバイスの交換 33
HNW	C79GPBAY	88	ホット・スワップおよびウォーム・スワップの機能
INSTSBP	C79GPBAY	93	セカンド・バッテリー・パックの取り付け 37
RESTR	C79GPBAY	94	デバイスの制限
SECUR	C79GPMST SCRIPT	97	第3章, ThinkPad の保護

PASSWRD	UGCOMSEC	98	パスワードの使用 21
ENTPASS	UGCOMSEC	99	パスワードの入力
SETPASS	UGCOMSEC	100	パスワードの設定 137, 137, 139
REMPPOP	UGCOMSEC	102	パスワードの変更または消去
PERS	UGCOMSEC	109	パーソナライゼーション・エディターの使用
KENSIN	C79GPMST SCRIPT	113	ロック機能の使用 5
SCREW	C79GPMST SCRIPT	114	セキュリティーねじの使用 92
SOLV	C79GPMST SCRIPT	115	第4章, 問題が起こったら...
RNL	C79GPMST SCRIPT	117	ヒントおよび制限事項
RNL02	UGCGPLIM	125	拡張ユニットの使用
SUB05	UGCGPLIM	125	汎用シリアル・バス (USB) コネクタの使用 125
SUB03	UGCGPLIM	125	セレクトアドック III 拡張ユニットの PCI カードについて
SUB04	UGCGPLIM	125	セレクトアドック III 拡張ユニットの汎用シリアル・バス (USB) コネクタの設定について
RNL04	UGCGPLIM	126	PC カードの使用
RNL05	UGCGPLIM	127	2 枚目の CardBus カードの使用
CHARTS	C79GPMST SCRIPT	130	問題判別表 129
ECODES	UGCOMTSC	132	エラー・コードまたは画面上のメッセージ 130
PRB2	UGCOMTSC	139	エラー・コードまたは画面上のメッセージで表示されない問題 130
INP	UGCOMTSC	139	入力装置の問題 130
SAVEP	UGCOMTSC	141	サスペンド・モードまたはハイバネーション・モードの問題 130
LCDPR	UGCOMTSC	144	液晶ディスプレイ (LCD) の問題 130
INDPRB	UGCOMTSC	145	インジケータの問題 130
BATPRB	UGCOMTSC	145	バッテリーの問題 130

HARPRB	UGCOMTSC	146	ハードディスク・ドライブの問題 130
CDPRB	UGCOMTSC	147	CD-ROM ドライブの問題 130
DVDPRB	UGCOMTSC	148	DVD ドライブの問題 130
IRPRB	UGCOMTSC	149	赤外線通信の問題 130
VDOPRB	UGCOMTSC	151	キャプチャー・ドライバーまたは MPEG の問題 130
MWAVEP	UGCOMTSC	151	オーディオまたは電話機能の問題 130
USBPRB	UGCOMTSC	152	汎用シリアル・バス (USB) の問題 130
MDMPRB	UGCOMTSC	153	PC カードまたは内蔵モデムの問題 130
PCPRB	UGCOMTSC	154	その他の PC カードの問題 130
EXPMO	UGCOMTSC	158	拡張ユニットまたはセレクトベースの問題 130
PRNPRB	UGCOMTSC	159	プリンターの問題 130
EXTDIS	UGCOMTSC	160	外付けディスプレイの問題 130, 139
TELEV	UGCOMTSC	163	TV の問題 130
OOPPRB	UGCOMTSC	163	その他のオプションの問題 131
SFTPRB	UGCOMTSC	165	ソフトウェアの問題 131
GENPR	UGCOMTSC	166	その他の問題 131
TESTS	C79GPMST SCRIPT	167	ThinkPad のテスト 27, 53, 129, 152
SPECIF	C79GPMST SCRIPT	169	付録A, 製品仕様 141
FTRS	C79GPSPC	169	機能
SPECS	C79GPSPC	172	仕様
NOTIC	C79GPMST SCRIPT	173	付録B, 特記事項

TRADEM	UGCOMNT1	174	商標
NOT1	C79GPMST SCRIPT	175	特許保護に関する注意

Index Entries

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
TKP	UGSGPKBD	10	(1) トラックポイント 10, 10, 10
MOUSE	UGDGPPNT	61	(1) マウス 61
EXTM	C79GP3DI	66	(1) 外付けディスプレイ 66, 66, 66
EXTMO	C79GP3DI	66	(1) 外付けマウス

List Items

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
FNSD	C79GPMEM	50	5 51
PDUS	C79GPMEM	51	7 51
DETAV	UGSGPDOG	85	5 85
DETAV2	UGSGPDOG	86	5 86
05	UGCOMSEC	104	4 103
COM	UGCOMSEC	105	7
CHANS	UGCOMSEC	106	8 105
SET	UGCOMSEC	112	10 111
BOX	UGCOMTSC	132	5 132
OPSYS	UGCOMTSC	132	6

TOTCOMP	UGCOMTSC	132	8	
				132
RSTAT	UGCOMTES	167	2	

Revisions

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
FIRST	C79GPSET	i	iv, iv, 15, 15, 21, 21, 25, 26, 36, 36, 37, 37, 39, 39, 40, 40, 66, 66, 79, 79, 83, 83, 83, 83, 84, 84, 84, 84, 84, 85, 85, 86, 100, 100, 113, 113, 114, 114, 114, 114, 119, 119, 122, 122, 130, 130, 135, 135, 158, 158, 168, 168, 168, 168
APP1	C79GPSET	i	17, 17, 20, 20, 29, 29, 49, 49, 83, 84, 84, 85, 85, 86, 89, 89, 126, 126, 147, 147
APP2	C79GPSET	i	65, 65, 79, 79, 156, 157, 160, 160, 163
EDIT	C79GPSET	i	5, 5, 5, 5, 39, 39, 69, 69, 69, 69, 161, 161, 165, 165
ADD	C79GPSET	i	iv, iv, iv, v, x, x, 15, 15, 15, 15, 22, 23, 23, 23, 24, 24, 25, 25, 27, 27, 27, 27, 27, 27, 39, 39, 40, 40, 40, 40, 40, 40, 66, 66, 67, 67, 67, 67, 67, 69, 69, 69, 69, 70, 73, 78, 78, 80, 80, 81, 81, 82, 83, 84, 84, 126, 127, 148, 148, 148, 148, 153, 153, 153, 153, 156, 156, 161, 161, 161, 161, 161, 161, 161, 163, 163

Spots

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
SAFE	UGCOMSAF	xiv	(no text)
REAR	C79GPLOC	4	(no text)
			113
SECURS	C79GPLOC	6	(no text)
BOTTOM	C79GPLOC	6	(no text)
			40
STATUS	C79GPLOC	8	(no text)
STUP	UGSGP3ES	22	(no text)
FDDTBL	UGSGP3ES	24	(no text)

MEMTES	UGSGP3ES	27	(no text)
INFOR	UGCOMSVC	40	(no text)
IDNUM	UGCOMSVC	40	(no text)
PRBSEET	UGCOMSVC	41	(no text)
SSMG	UGCOSTRP	47	(no text)
			11
DISTP	UGCOMDTP	65	(no text)
SRES	C79GP3DI	68	(no text)
RESO	C79GP3DI	69	(no text)
DUALCRT	C79GPDUL	70	(no text)
			71
HOTW	UGSGPDOG	87	(no text)
			95
E7777	UGCOMTSC	137	(no text)
HIBP	UGCOMTSC	141	(no text)
MDMP	UGCOMTSC	153	(no text)
STEP2	UGCOMTES	168	(no text)
FSPC	C79GPSPC	169	(no text)

Tables

<u>id</u>	<u>File</u>	<u>Page</u>	<u>References</u>
DDCOM	UGSGP3ES	24	1

Processing Options

Runtime values:

Document fileid	C79GPMST SCRIPT
Document type	USERDOC
Document style	THINKPAD
Profile	EDFPRF40
Service Level	0028
SCRIPT/VS Release	4.0.0
Date	98.10.02
Time	19:11:39
Device	PSA
Number of Passes	4
Index	YES
SYSVAR G	INLINE
SYSVAR X	YES

Formatting values used:

Annotation	NO
Cross reference listing	YES
Cross reference head prefix only	NO
Dialog	LABEL
Duplex	YES
DVCF conditions file	(none)
DVCF value 1	(none)
DVCF value 2	(none)
DVCF value 3	(none)
DVCF value 4	(none)
DVCF value 5	(none)
DVCF value 6	(none)
DVCF value 7	(none)
DVCF value 8	(none)
DVCF value 9	(none)
Explode	NO
Figure list on new page	YES
Figure/table number separation	YES
Folio-by-chapter	NO
Head 0 body text	(none)
Head 1 body text	第
Head 1 appendix text	付録
Hyphenation	NO
Justification	NO
Language	JAPA
Keyboard	395
Layout	OFF
Leader dots	YES
Master index	(none)
Partial TOC (maximum level)	(none)
Partial TOC (new page after)	INLINE
Print example id's	NO
Print cross reference page numbers	YES
Process value	(none)
Punctuation move characters	(none)
Read cross-reference file	(none)
Running heading/footer rule	NONE
Show index entries	NO
Table of Contents (maximum level)	(none)

Table list on new page YES
 Title page (draft) alignment CENTER
 Write cross-reference file (none)

Imbed Trace

Page 0	C79GPSET
Page 0	C79GPSYM
Page i	C79GPVNT
Page ii	C79GPINT
Page iv	C79GPHIG
Page x	C79GPATB
Page xi	UGCOMICN
Page xii	UGCOMSAF
Page xv	UGCOMLAS
Page 2	C79GPLOC
Page 10	C79GPHRD
Page 10	UGSGPKBD
Page 13	C79GPFNK
Page 16	UGCOMNUK
Page 17	UGSGP3ES
Page 28	UGSGP3TF
Page 33	C79GPUBY
Page 34	C79GPBAK
Page 36	C79GPRBP
Page 38	C79GPBBA
Page 40	UGCOMSVC
Page 44	UGCOSTRP
Page 49	C79GPMEM
Page 56	C79GPHDD
Page 59	C79GPFDD
Page 61	UGDGPPNT
Page 65	UGCOMDTP
Page 66	C79GP3DI
Page 70	C79GPDUL
Page 74	UGSGPUPC
Page 77	UGSGPDOG
Page 88	C79GPBAY
Page 97	UGCOMSEC
Page 113	UGCOMLOK
Page 114	UGCOMUSS
Page 117	UGCGPLIM
Page 129	UGCOMTSG
Page 130	UGCOMTSC
Page 167	UGCOMTES
Page 169	C79GPSPC
Page 173	UGCOMNT1
Page 175	UGCOMPNR
Page 177	DBCS DSMDBIX